

下編 主要誌

三〇四

三阪雪子 澤原コト子 三浦梅子  
倉田久子 倉橋寛子

二等有功章 一ノ瀬スミ子 外三十名  
三等有功章 友安ハル子 外百四名

- (2) 参列の會員 七千二百五十名
- (3) 遺族及癡兵 千六百四十一名
- (4) 地方職員 百五十名

以上合計九千九百九十名であつたが當日支部よりは参會者一同に對し菓子折並に記念品として宮島盆及び繪葉書一組づゝを贈呈した。

(三) 總裁殿下御台臨に付隨行員

會長	公爵夫人 岩倉久子	評議員	伯爵夫人 阿部篤子
	男爵夫人 片岡たま子	閑院宮御用掛	鍋島業子
	閑院宮家令 松井修徳	閑院宮家従一名、侍女二名	
	本部庶務課長 高橋鉄太郎	本部事務員 保田熊造	
	外ニ岩倉家々扶一名	岩倉家侍女一名	
	阿部家々扶一名	阿部家侍女一名	

(四) 來賓

本總會は、初會のことでもあり、且つは此機會に於て一般に會旨の普及を圖るため、各方面に案内狀を發せし所、幸にも師團長初め、各官公衛長、貴衆兩院議員、縣會議員、各學校長等左記の通り多數の参列を得たのであつた。

第五師團長	男爵 木越安綱	同 参謀長	古海巖潮
同 高級副官	平野金六	同 經理部長	上田五郎
同 軍醫部長	大西亀次郎	廣島聯隊區司令官	千秋勸
歩兵第十一聯隊長	石田保謙	騎兵聯隊長	平城盛次
工兵第五大隊長	山口騰一郎	輜重兵第五大隊長	水島正道
廣島衛戍病院長	田中彌太郎	第五憲兵隊長	古賀要次郎
廣島灣要塞聯隊長	川中近次郎	廣島控訴院檢事長	川淵龍起
廣島地方裁判所檢事正	小玉半五郎	廣島區裁判所監督判事	服部純吉
廣島監獄典獄	五十嵐小彌太	廣島稅務監督局長	蓮見義隆
廣島稅務署長	田中節	廣島大林正署長	片山吉成
廣島高等師範學校長	北條時敬	廣島師範學校長	根岸福彌
廣島中學校長	弘瀬時治	廣島職工學校長	竹谷辰郎
廣島高等女學校長	齋藤鹿三郎	廣島縣病院長	澄川徳

下編 主要誌

三〇五

廣島測候所長 岡本保佐  
 衆議院議員 早速整爾  
 同 富島暢夫  
 縣會議員 横山金太郎  
 同 佐久間重太郎  
 同 内田哲郎  
 同 三戸藏之助  
 同 今田正夫  
 同 林 箴一郎  
 同 宇都宮綏夫  
 同 大下洋介  
 同 永井義夫  
 同 有田温三  
 同 菅 精  
 同 望月俊吉  
 同 副島靖徳  
 同 神原益治郎  
 同 吉田中

貴族院議員 澤原俊雄  
 衆議院議員 荒川五郎  
 同 森田卓爾  
 縣會議員 不破熊男  
 同 山本三朗  
 同 田中幸一郎  
 同 八木 楨  
 同 兒玉喜三  
 同 眞藤 齊  
 同 西川正平  
 同 森田俊左久  
 同 大石菊次郎  
 同 植田壽作  
 同 山蔭 靜夫  
 同 村上徳十郎  
 同 中村新四郎  
 同 保田亀太郎  
 同 國頭第三郎

同 平川義三太  
 同 須藤治郎  
 同 岡山縣支部主事 武本義家  
 愛媛縣支部主事 丸山義節  
 中國新聞社主 山本三朗  
 男爵 浅野忠純  
 陸軍中將 友安治延  
 陸軍主計監 柴直言

同 岩竹豊秋  
 同 愛媛縣支部長 安藤菊子  
 山口縣支部主事 山根恭太  
 藝備日々新聞社主 早速勝三  
 浅野侯爵家扶 榎田眞太郎  
 陸軍中將 眞鍋 斌  
 陸軍少將 谷山隆英  
 陸軍軍醫監 渡邊泰造

(五) 總會式次第書

第一節 参列者入場

第二節 開式

- (1) 君が代吹奏(一同最敬禮) 總裁殿下御臨場支部長職員名簿及び會員表捧呈
- (2) 支部長開會ノ辭
- (3) 明治三十七八年戦役に關し本會に賜はりたる令旨捧讀——支部長(一同最敬禮)
- (4) 總裁殿下御諭旨ヲ給フ(一同最敬禮)
- (5) 支部長奉答

下編 主要書

- (6) 支部副長會務並會計報告
- (7) 本會長祝詞
- (8) 顧問來賓會員總代祝詞
- (9) 總裁殿下有功章御親授(一、二等各個人三等ハ總代)
- (10) 總裁殿下廢兵總代遺族總代ニ特別下賜金御授與
- (11) 支部長閉會ノ辭
- (12) 君が代吹奏(一同最敬禮) 總裁殿下御退場

第三節 參列者退場

論 旨

愛國婦人會廣島支部は會運漸く振興し爰に第一回總會を開くに到りしは誠に欣喜に堪へざる所なり  
 今や戦役の後を受け本會の責任彌々重く事業の前途尙遼遠なり、會員諸氏一層奮勵して同心協力斯會の目  
 的を達せられん事を望む

明治四十年十一月廿四日

奉 答 文

爰に愛國婦人會廣島支部第一回總會ヲ開クニ當リ畏クモ 總裁殿下ノ台臨ヲ辱フシ特ニ優渥ナル御諭旨ヲ賜ハル洵ニ

當支部ノ名譽ニシテ光榮何モノカ之ニ過ギン自今益々奮勵シテ會勢ノ擴張ニ努メコノ光榮ニ報ヒ奉ランコトヲ期ス  
 謹ミテ奉答ス

明治四十年十一月廿四日

支部長 宗 像 直 子

會員總代祝詞

爰ニ愛國婦人會廣島支部第一回總會ヲ開カル、ニ參列シテ忝クモ 總裁殿下ノ台臨ヲ拜シ優渥ナル大旨ヲ奉ジテ無上  
 ノ光榮ヲ荷ヒ妾等洵ニ感激ノ情ニ堪ヘズ自今愈々協力シテ本會ノ隆盛ヲ圖リ永ク今日ノ光榮ヲ空フセザランコトヲ誓  
 ヒ奉ル謹ミテ會員ヲ代表シ微衷ヲ述ベテ祝辭トス

明治四十年十一月廿四日

會員總代 幹事 三 阪 ゆ き 子

支部顧問(縣知事)祝辭

維時明治四十年十一月廿四日愛國婦人會廣島支部第一回總會ニ際シ辱クモ 總裁殿下ノ休光ヲ仰ギ優渥ナル台旨ヲ拜  
 シテ感激ニ堪ヘズ今ヤ令徳洽ク澤ヒ會運日ニ隆昌ナルノ時新ニ此ノ光榮ニ浴ス誰カ微力ヲ竭クシテ萬一ニ報ヒ奉ラン  
 コトヲ冀ハザルモノアランヤ恭シク鄙意ヲ叙ベテ以テ祝辭ニ代フト云フ

明治四十年十一月廿四日

廣島支部顧問 宗 像 政

第五師團長祝詞

本日爰に愛國婦人會廣島支部總會を開き 總裁宮妃殿下台臨親しく此の盛典を擧げさせらる、安綱等之に陪列するを

得たるは至大の光榮とする所なり。抑も君國の爲め忠誠を盡したるもの、遺族癡兵の茲に光輝ある盛典に列したるは又以て其の悲痛を慰藉するに足るべく殊に身を軍籍に委するもの是を視、彼を想ひ誰か今昔の感に禁へざらん。安綱此盛舉に方り滿腔の熱誠を以て感謝措かざる所なり、回顧すれば初め本會の支部を廣島に設置せられしは明治三十四年六月なり、爾來年を経る六年今や業務大いに擴張し會員著しく加はり今日の發展を視るに至りたるは國民奉公の至誠を顯象したるものにして最も欣喜に堪へざるなり、聊か蕪辭を呈し併せて將來本會の益々隆盛ならむことを祈る。

明治四十年十一月廿四日

陸軍中將 正四位勳一等功二級 男爵 木越 安綱

(六) 軍人遺族及癡兵へ御下賜金配當表

郡市名	遺族	癡兵	計	金額	郡市名	遺族	癡兵	計	金額
廣島市	一七四	一七	一九一	三八二	世羅郡	一〇	一	一一	二二
吳市	七八	一〇	八八	一七六	沼隈郡	四八	二	五〇	〇〇
尾道市	二六	一	二六	五二	深安郡	三三	四	三七	七四
安藝郡	二二三	八	二三一	四六二	廣品郡	一〇	一	一一	二〇
安佐郡	一九五	一九	二一四	四二八	甲奴郡	一四	一	一五	八〇
山縣郡	一二五	一〇	一三五	二一〇	比婆郡	一	一	二	六二
高田郡	八〇	八	八八	一七六	雙三郡	三〇	一	三一	六二
賀茂郡	一〇五	一八	一二三	二四六	比婆郡	一四	一	一五	二八
豊田郡	九五	一〇	一〇五	二一〇	合計	一、四〇九	一一七	一、五二六	二、九九二
御調郡	一〇七	三六	一四三	二二六					
合計	一、五二五	一五五	一、六八〇	二、九二二					

第二節 第二回支部總會 (大正三年十月十二日)

支部長 寺田 春子  
主 事 門川 正之

(一) 總會開催につき通達文

赤十字社廣島支部總會ヲ開催スルト同時ニ愛國婦人會廣島支部ノ總會ヲモ開催セントス、其理由ハ本會事業ノ發展ヲ圖ルハ勿論年釀金ノ未納ヲ整理シ且從來ノ會員年ヲ逐フテ終身會員トナリ又退會死亡等ニテ現今著シク其ノ數ヲ減ゼリ、斯ノ如キ狀況ニテハ將來年一年毎ニ釀金ノ金額減少スルヲ以テ維持上大ニ憂慮シ居ル折柄御承知ノ通り客年十一月四日付辱クモ 皇后陛下ヨリ本會事業御補助ノ思召ヲ以テ大正二年ヨリ同十一年マテ十ヶ年間年々金貳千五百圓宛本會へ御補助相成タル次第ニ付本部ニ於テハ此機ヲ失セズ會員ノ大募集ヲナシ全國ニテ百萬ノ會員數ヲ有シ常ニ年賦會員女子人口千人ニ對シ四十人以上トナシ本會ノ目的ヲ達シ以テ 皇后陛下ノ御懿旨ニ副ヒ奉リ度希望ノ旨今般會長ヨリ申來タルニ付別紙ノ通り各幹事部ニ募集ノ人員ヲ配當セシ義ナリ (別紙畧ス)

一、愛國婦人會廣島支部第二回總會ヲ廣島市内ニ於テ日本赤十字社廣島支部總會ト同時ニ開催スルコト但シ開設ノ場所ハ道ヲ定ム

一、開催ノ期ハ本年五月ト豫定スル事

一、開催ノ際ハ 總裁殿下ノ台臨ヲ仰グ事

一、開催當日迄ニ會員ヲ増募シ且未納年釀金ヲ整理スル事但シ増募會員數ノ配當ハ別表ノ如シ就テハ募集費トシテ一人

下編 主要誌

ニ付金參拾錢交付ス(別表畧ス)

一、寄附金ハ專ラ有功章者ノ勸誘ヲ希望ス其ノ有功章ヲ希望スベキ者ニ對シテハ 總裁殿下ノ御親授ヲ仰グ事  
 一、參會ノ會員ヘハ記念品ヲ交付シ尙特別場所ノ觀覽又ハ興行場割引等ノ待遇ヲ爲スベキ事  
 右要旨通牒其の後郡市長會同の際支部顧問たる知事並支部長たる知事夫人より親しく懇談協議の結果異議なく進んで開催  
 のことに決せしも、本部の都合と支部準備の關係もあり十月に延期となり其の後兩本部交渉同月十二日と確定愈々本格的  
 に左記の通り諸事協定進行することゝなれり。

總會準備心得

一、十月十二日赤愛兩支部同時ニ總會開催ノコト、ス  
 一、總裁殿下ノ台臨ヲ仰ギシ所御聽許相成タリ  
 一、會場ハ國泰寺村中學校運動場トス  
 一、明治四十年第一回總會ノ節ハ婦人方ノ手數ヲ煩ハシタルガ此度ハ赤愛共同主催ニツキ男子ノミノ援助ニ依ルコト、ス  
 一、總裁兩殿下は十日新橋御出發神戸御一泊十一日午後二時五十五分廣島驛御着ニツキ支部副長並評議員ノ方ハ一時間前  
 ニ參着奉迎大手町三丁目長沼旅館ニ參向拜謁ヲ賜ハル、尙會長一行ハ溝口旅館ニ訪問ノコト  
 一、同十二日午前八時二十分御旅館御發同三十分會場台臨遊バサルベクニ付七時三十分迄ニ參集同校御車寄ニテ奉迎ノコ  
 ト  
 一、正午閉會後校内ニ於ケル午餐會ヘ參集ノコト  
 一、午後中學校内ニテ茶菓會開催ニ付有功章二、三等佩用者參集ノコト

一、午後五時ヨリ公會堂ニ 兩殿下ノ台臨ヲ仰ギ晚餐會開催ニツキ支部副長並佩一等有功章以上ノ方ハ四時三十分迄ニ參  
 集ノコト

一、十三日午前十時十二分 兩殿下殿島ニ成ラセラレ午後六時廣島驛御歸着ナルモ奉迎送ニ及バズ、但シ支部副長ハ殿島  
 ニ隨從ノコト

一、十四日午前六時四十一分 親王殿下、十五日午前十時十分 妃殿下廣島驛御出發ニツキ前日ノ通り奉送ノコト

一、服裝ハ可成質素ナル白襟紋付着用ノコト

一、總會參列ノ軍人遺族癡兵ニハ記念品ノ外辨當料トシテ金百疋ヅ、支部ヨリ贈與ス

總裁殿下隨員次の通り

愛國婦人會副會長	男爵夫人 菺尾 作子	愛國婦人會評議員	男爵夫人 原口せき子
同 第二部長	杉原 全德	同 事務員	三井光三郎
同 侍女	一人		

(二) 總會式次第

- 一、支部長開會ヲ宣告ス
- 二、總裁殿下御諭旨ヲ賜フ(一同最敬禮)
- 三、支部長答辭ヲ上ツル

下欄 主要誌

- 四、支部副長會務及會計報告ヲナス
- 五、本會長祝辭
- 六、支部長有功章 御親授ノ旨ヲ宣告ス
- 七、總裁殿下有功章御親授
- 八、支部長遺族癡兵ヘ特別御下賜金御親授ノ旨ヲ宣告ス
- 九、總裁殿下賜金御親授
- 一〇、支部長會務ノ成績優良ナル委員區ニ對シ御前ニ於テ彰功旗ヲ授與ス
- 一一、支部長閉會ヲ宣告ス

論 旨

愛國婦人會廣島支部は熱誠なる諸氏の盡瘁に依り會運日に隆盛に赴き茲に第二回總會を開くに當り諸氏と親しく相見るは欣喜の至りなり  
 今や時局に鑑み諸氏の力に俟つもの益々多し、諸氏尙一層奮發會務を擴張し本會の目的を達成せむことを望む

奉 答 文

爰に愛國婦人會廣島支部第二回總會を開くに當り長くも 總裁殿下の台臨を辱ふし特に優渥なる御諭旨を賜はる洵に

當支部の名譽にして光榮何ものか之に過ぎんや、將來益々奮勵して本會の隆昌を謀り以てこの光榮に副ひ奉らんことを期す謹みて奉答す

大正三年十月十二日

愛國婦人會廣島支部長 寺 田 春 子

(三) 有功章拜受者

- 一 等有功章 廣島市 海塚ヤエ子 廣島市 保田セイ子 廣島市 瀬川ミツ子
- 安佐郡 松浦リウ子 沼隈郡 井上利八
- 二 等有功章 支部副長川谷とめ子外四名(後の川谷眞規子)
- 三 等有功章 幹事部長古田チカ子外百三十五名

(四) 大正三年支部總會に當り御下賜金配當表

郡市別	遺族	發兵	計	金額	郡市別	遺族	發兵	計	金額
廣島市	一五六	九	一六五	一六五	山縣郡	三五	五	四〇	四〇
吳市	三四	二	三六	三六	高田郡	四〇	二	四二	四二
尾道市	三	一	三	三	賀茂郡	二五	六	三一	三一
安藝郡	一八四	二	一八六	一八六	豊田郡	五	一	六	六一
安伯郡	一八七	一	一八八	一八八	御調郡	三	一	四	六一
佐伯郡	一八七	一	一八八	一八八	世羅郡	一	一	二	六一
安佐郡	一四三	五	一四八	一四八		一	一	二	四一
計									
		五八二	一六五	一四八			一五六	四〇	一四

下欄 主要誌

沼隈郡	四								
深安郡	二								
廣品郡	二								
神石郡	一								
甲奴郡	四								
雙三郡	二								
比婆郡	二								
計		九七九		四九	一、〇二八	一、〇二八			

(五) 會務及會計報告

(1) 明治四十年一月一日當支部會員ハ一萬千五百三十三人ナリシガ同十一月第一回總會ヲ開クニ當リ臨時大募集ヲナシタル結果三萬七十七人ノ多數ヲ見ルニ至レリ、然レドモ爾來七ヶ年間轉入轉出アリ、退會アリ、死亡アリ此等異動ノ結果漸次減員トナリシガ今般第三回總會ヲ開催スルニ際シ更ニ臨時大募集ヲナシ今ヤ(大正三年九月三十日)三萬七千五百人トナレリ、然ルニ年餘金ノ收入ハ義務終了者逐次増加セシト未納者多キタメ會員ノ數ニ伴ハザリシニ付是亦今回其ノ整理ヲナシ殆下目的ヲ達シタルヲ以テ前途益々本會ノ旨趣普及ヲ圖リ尙一層ノ隆昌ニ至ラシメンコトヲ期セリ。

(2) 當支部が明治四十年より大正二年まで軍人遺族並に癩兵に對し贈與せし定期救護及び臨時救護の成績を表示せば次の如し。

種別	年度		合計
	四十年	四十一年	
定期救護	三、六三二	三、二九九	六、九三一
臨時救護	〇〇	六二	六二
合計	三、六三二	三、三六二	六、九九四

以上の如く定期、臨時に救護せし總人員三千六百四十二人之れに要せし總金額貳萬六千四百貳圓にして一人に對する一ヶ年の給額四圓乃至拾圓の間を以てせり、就中生業を補助するため金八拾圓を給與せし者一人あり。

(3) 明治四十年十一月廿四日當支部第一回總會を開催し 總裁殿下の台臨を辱ふし特に優渥なる御諭旨を賜はりたるは當支部の名譽とする所なり、殊に當支部會員にして本會の爲め功績顯著なりしもの並に篤志寄附金をなしたるものに對しては有功章の御親授あり、且つ軍人遺族並癩兵に對しては思召を以て金品を賜はりたり。郡市幹事部及各町村に於ては時々會員總會を開催して本會の擴張を圖りつゝあり。

(4) 明治四十五年十一月陸軍大演習に付き 明治天皇九州へ行幸の際汽車沿道に於ける奉迎送を始め軍隊其他の發着に際し職員會員は歓迎送をなし物品を寄贈せしことあり其の數枚舉に違あらず。

(5) 明治三十七八年事件の功に依り當支部へ銀盃壹組を管内各幹事部へ銀盃壹個を賜はりたり。

(6) 本部に於て軍人遺族癩兵子弟の内より教養生の募集あるに際し當支部管内より數名の志願者ありしが銓衡の上採用せられたるもの前後四名に及べり。

(7) 廣島市幹事部の事務は都合に依り明治四十二年八月十二日より支部に於て直接取扱ふこととなれり。

(8) 明治四十一年元朝國駐劄軍隊及び憲兵警察官に對し會員及有志者より慰問袋千百個及金貳萬九拾五圓を寄贈し、同四十二年以來臺灣討蕃隊へ慰問袋料として金壹千參百拾圓を寄贈し大正元年第五師團衛戍地より滿洲に駐劄せる軍隊へ慰問袋四千五百餘個を寄贈し尙留守家族の慰問をもなしたり、而して戦死者遺族並癩兵の慰問を常に怠ることなし。

(9) 明治四十一年二月七日は故奥村五百子刀自一週忌に相當し同四十二年二月七日は三週忌に相當せしを以て其の都度追弔法會を営みたり、又同氏の銅像建設の舉あるに付ては有志を募り其の費用の内へ金圓を寄贈したり。

(六) 公會堂に於ける晩餐會参列者(十月十二日)

總裁兩殿下

陪席者

寺田日赤支部長

西村日赤支部副長

大島委員副長

川谷愛婦副長

上田篤志副長

松井官内事務官

御附武官中島騎兵大佐

御用取扱吉田榮子

日赤本社副長松平子爵

愛婦本會理事 佐藤 正

同 庶務課長

三浦助一郎

篤志婦人會長 鍋島侯爵夫人

同 幹事々務取扱

小笠原伯爵夫人

同 事務囑託 後藤松太郎

愛婦副會長

濱尾男爵夫人

同 評議員 原口男爵夫人

同 部長

杉原全徳

赤星山口縣赤十字支部長

笠井岡山縣愛婦支部長

深町愛媛縣愛婦支部長

島田岐阜縣愛婦支部長

赤十字社佩有功章者 高木幹吾外三十名

愛婦佩有功章者 澤原コト外十二名

殿島に御成(十月十三日)

總裁兩殿下

扈從者

松井官内事務官、御附武官、御用取扱、赤十字社副社長、赤十字社理事、赤十字社庶務課長、篤志會長、同事務取扱、同囑託、愛婦副會長、同評議員、同部長、日赤愛婦兩支部長、西村日赤支部副長、川谷愛婦副長、上田篤志副長以上十七名

第三節 第三回支部總會 (昭和十二年五月廿三日)

支部長 富田花子  
主 事 土居肩吉

當支部は大正三年十月第二回支部總會を開催して以來二十餘年に及び、其の間屢々總會開催の議ありたるも種々の支障ありて其機至らざりしが、早川支部長の御英断により、支部會館新築を機として第三回支部總會開催の事を決意せられ豫め顧問參與の諒解を得て八月十日評議員會に諮りて満場の賛同を得、左案によりて愈々之が準備に着手せり。

左 案

- 一、支部會館を明十二年四月までに新築竣成すること
- 一、總會には 總裁殿下の台臨を仰ぐこと
- 一、總會には有功章の御親授を仰ぐこと
- 一、遺家族及傷痍軍人慰安會を開催すること
- 一、會員を倍加すること(現在六萬人を十二萬人とす)
- 一、會資寄付金五萬圓以上(有功章者)募集のこと
- 一、總會開催を十二年五月中下旬に豫定す

甲、總會まで



### 第一準備

昭和十一年八月二十六日支部會館敷地を國泰寺町に定め二百九十八坪の購入手續を結了す、直に會館の設計を本縣技師大隅營繕課長に託し十月設計を整へて之れが建築を西觀音町中邑哲吾氏と契約し十二月一日新築に着手せり。

### 第二準備

左記の總會開催趣意書を縣下各分會長等に發送し、更に早川支部長並に溫田參事は土居主事と共に各郡別分會長會を召集して總會に於ける諸般の打合せをなし一意萬全の準備に邁進す。

左記

### 第三回支部總會に就て

愛國婦人會廣島縣支部が總會を開催致しましたのは

第一回 明治四十年十一月 創立明治三十四年五月より六ヶ年目

第二回 大正三年十月 第一回より七ヶ年目

でございます。第二回後今日まで二十二ヶ年の間總會がございませぬ。此の間他府縣支部にては殆ど開催致されまして會勢の伸暢と婦人結束の上目覺ましく御活動なまつて居るのでございます。目下非常時局に際しまして一層國民の協調を要します際、銃後婦人の報國を使命といたします愛國婦人會員は遺憾なく其の使命に邁進御奉公いたさねばならぬのでございまして、我が廣島縣支部は皆様の御理解と御援助によりまして一生懸命に其の誠を盡し勞と資と精神とを怠りなく捧げてゐるのでございます。而もそれは支部も全力をそいで居りますが又市町村分會の皆様とも協力致しまして中には涙ぐましく幾多の事實を持ちて御奉公申し上げて居りますことは御同様に婦人の力として誠に嬉しく存

する次第でございます。而しながら此の大切な婦人奮起の折に當りまして縣下御婦人の中に愛國婦人會のかうした懸命の努力を御存知なき方もまだ、多數にある様でございます。その爲に志ありながら擧つて一同が互ひに相携へて御奉公の一路に進むと云ふことの出来ないことは誠に遺憾に存じます。畏くも

皇后陛下御令旨を賜ひ、協力一致婦人報國の使命を達成せよと訓へ給ひ畏くも 總裁殿下御諭旨を賜ひて我等日本婦人の進むべき報國の一路を訓へ給ひ、御自ら御席の暖まる御暇もあらせず全國に台臨あらせられ御激勵を給はる等實に恐懼感激の至りに堪えませぬ。

我が廣島縣支部はこゝに奮起いたしましたして二十三年振りに昭和十二年を期し 總裁殿下の台臨を仰ぎ奉りて支部總會を開催し一は會員結束奉公の實を顯現いたし、一は會旨の普及徹底を期して以て尊き御令旨有がたき御諭旨の萬一に酬い奉りたいと存じます。何卒縣下御婦人の皆様本會の精神と其の報國の實際とを御諒解下さいまして貧富を問はず、職業の別なく婦人報國の大傘下に御結合下さる様切に祈り上げます。

又市町村長様を始め當路の皆様地方名望有志の方々何卒私共女性を援けて報國の大使命を達成せしめられんことを御願ひいたします。

昭和十一年八月 日

廣島縣支部長 早川 敏子

### 第三準備

十月本會通常總會開催に際し支部長は主事を同伴して、先づ本會長に明年五月支部第三回總會開催の件を協議して承認を得、次で官邸に伺候して 殿下の御機嫌を奉伺したる後、支部總會台臨の御許しを受けて御日程等につき次の諸點を打合せて歸任せり。

- 一、支部總會は明年五月二十三日とす
- 一、總會前日二十二日有功章 御親授を仰ぐ
- 一、御親授終了後お茶の會御台臨を仰ぐ
- 一、遺族並に傷痍軍人慰安會に御台臨を仰ぐ
- 一、子女團の 御視閲を仰ぐ
- 一、吳市聯合分會及び福山市分會の總會に御成を仰ぐ
- 一、病院御慰問、縣立産業獎勵館、縣立福山工業試験所、賴山陽遺蹟記念館等御成の場所日程の豫定

第四準備

十一月早川支部長安岡支部副長は縣廳長官室に於て、早川顧問、安岡、光田、小管、長谷川、鈴木、柏、參與の會合を求め支部總會開催につき経過を報告して日程並に事務分掌の概要につき諒解を求む。

十二年二月子女團長を召集して總會開催を告示し 御視閲につき廣島、吳、福山の三ヶ所に集合の件等行事の打合せをなす。

第五準備

十二年一月早川支部長東京市へ御榮轉富田支部長三重縣より來任につき土居主事は直ちに三重縣に出張して富田支部長に總會準備等につき諒解を求め、御着任を待ちて二月縣廳に全委員の集合を求めて次の事務分掌により各々分擔を定め準備に萬遺漏なきを期したり。

事務章程と事務委員

第一條 愛國婦人會廣島縣支部第三回會員總會ノ事務ヲ處理スルタメ委員長、係長及委員若干名ヲ囑託ス

第二條 委員長ハ參與ニ囑託シ係長及委員ハ支部囑託員並ニ支部役職員及本縣官公吏員、市吏員其他ニ就キ支部長之ヲ依

囑ス

第三條 處務便宜ノタメ各係ヲ設ク其ノ分掌左ノ如シ

(一) 總務係 (係長 土居主事)

- 一、御日程ノ事
- 二、奉答案作製ノ事
- 三、上呈書作製ノ事
- 四、會務報告書作製ノ事
- 五、拜謁者經伺ノ事
- 六、お茶會參列者御允許手續ノ事
- 七、御賜登者御允許手續ノ事
- 八、同上献立案官家提出ノ事
- 九、御先導者名簿作製ノ事
- 一〇、御車列次定メノ事
- 二、御道筋取定メノ事
- 三、御撮影御允許手續ノ事
- 一一、豫算經理ノ事
- 四、割引交渉並割引券發行ノ事
- 一二、各役員名簿及囑託狀調製及發送ノ事
- 一三、各員徽章準備及交付ノ事
- 一七、各係員ノ食事及接待ノ事
- 一八、一般救護ニ關スル件
- 一四、各係ノ連絡協調ノ事
- 二〇、其他他係ニ屬セザル事項

(二) 拜謁係 (係長 大上人事課長)

- 一、御泊所御着拜謁者名簿作製及通知ノ事
- 二、御親授式前拜謁者名簿作製及通知ノ事
- 三、同上受付並案内ノ事
- 四、拜謁者ニ代リ顧問御禮言上案
- 五、御親授外ニ於ケル拜謁ニ關スル件
- 六、御機嫌奉伺準備ノ事

(三) 献上品係 (係長 大上人事課長)

- 一、献上品ノ準備ヲナス事
- 二、傳献品ノ檢整ヲナス事
- 三、隨員記念品ノ事

(四) 御旅館係 (係長 大上人事課長)

- 一、御旅館ノ設備裝飾及見取圖作製ノ事
- 二、御旅館附近ノ模様畧圖作製ノ事
- 三、御調度品準備ノ事
- 四、非常御立退所ヲ定ムル事
- 五、給仕人料理人其他従事員監督ノ事
- 六、本部職員ノ旅館並ニ接待ノ事
- 七、毎日御晝食ノ準備献進ヲナス事
- 八、陪食光榮者名簿作製通知及受付ノ事

(五) 御親授係 (係長 土居主事)

- 一、受章者名簿作製ノ事
- 二、受章者ニ通知狀發送及當日受付
- 三、有功章準備ノ件
- 四、受章者ノ整理呼出進行ノ事
- 五、お茶献進ノ事

(六) 總會係 (係長 柏赤十字主事)

- 一、奉答文準備ノ事
- 二、支部長開會ノ辭並閉會ノ辭準備ノ事
- 三、會務報告書準備ノ事
- 四、副長會務報告準備ノ事
- 五、式次第周知進行ノ事
- 六、傷痍軍人名簿ニ依リ特別御下賜金準備ノ事
- 七、御下賜金御親授ニ總代取定ノ事
- 八、軍人遺族名簿ニ依リ特別御下賜金準備ノ事
- 九、御下賜金御親授總代取定ノ事
- 一〇、會員ニ對シ總會案内狀發送並ニ受付ノ事

- 二、有功章者及役員案内並受付ノ事
- 三、招待者ニ對シ總會案内狀發送並ニ受付ノ事

- 三、優良分會名簿作製及案内狀發送並受付ノ事
- 四、來賓名簿作製及案内狀發送並ニ當日受付ノ事

- 一五、一家三人及四人以上ノ終身會員名簿作製案内狀發送並受付ノ事。當日受領總代取定ノ事

- 一六、傷痍軍人及遺族案内並受付ノ事
- 一七、來會者ニ贈呈品ノ準備ノ事

- 一八、來會者ニ渡スベキ一切ノ準備ノ事
- 一九、會場整理ノ事

- 二〇、救護ニ關スル事
- 二一、奏樂ノ事

- 二一、お茶献進ノ事
- 二二、煙火打揚ノ事

(七) 子女團御視關係 (係長 坂田學務課長)

- 一、御視閱名簿作製ノ事
- 二、御視閱場整理ノ事
- 三、式次第ヲ取定メ進行ノ事
- 四、お茶献進ノ事

(八) 傷痍軍人慰安會係 (係長 桑原社兵課長)

- 一、傷痍軍人名簿作製並ニ案内狀發送ノ事
- 二、同上當日受付案内ノ事
- 三、來賓名簿作製案内狀發送及受付ノ事
- 四、御紋菓其他準備ノ事
- 五、支部長慰安會ノ挨拶案準備ノ事
- 六、來賓祝詞豫メ取定メノ事
- 七、接待餘興ノ事

(九) 御賜餐係 (係長 西尾庶務課長)

- 一、御賜餐者名簿作製ノ事
- 二、御下附ノ御召狀發送並當日受付ノ事
- 三、御賜餐場ニテノ謹話者名簿作製ノ事
- 四、御賜餐御料理献立案作製ノ事
- 五、顧問御禮言上案準備ノ事
- 六、お茶献進ノ事

(五) お茶會保 (保長 中邑市教育部長)

- 一、お茶の會招待者名簿作製及案内狀發送ノ事
- 二、當日受付及會場整理ノ事
- 三、御茶菓謹製ノ事
- 四、献茶菓準備ノ事
- 五、御茶會ニテ顧問挨拶準備ノ事

(二) 奉迎送保 (保長 坂田學務課長)

- 一、御出迎御見送者名簿作製ノ事
- 二、所定ノ場所奉迎送通知及入場券發送ノ事
- 三、各所奉迎送ニ關スル連絡
- 四、御成先ニツキ連絡準備ヲナスコト

(三) 御警備保 (保長 栗原警務課長)

- 一、御通路御警備ノ事
- 二、御旅館御警備ノ事
- 三、奉迎送者取締ノ事
- 四、自動車調達及配車ノ事

(三) 衛生保 (保長 平松衛生課長)

- 一、御旅館並御調度品等衛生消毒ニ關スル事
- 二、御料理ノ衛生ニ關スル事
- 三、各所料理人給仕其他出入者ノ健康診斷ニ關スル事
- 四、其他一般ノ衛生救護ニ關スル事

(四) 設備保 (保長 中山營繕課長)

- 一、御親授式場ノ設備裝飾及見取圖作製ノ事
- 二、御親授者記念撮影準備及整理ノ事
- 三、お茶會場ノ設備裝飾及見取圖作製ノ事
- 四、御賜餐場ノ設備裝飾及見取圖作製ノ事
- 五、總會式場ノ設備裝飾及見取圖作製ノ事
- 六、傷痍軍人慰安會ノ設備裝飾見取圖作製ノ事
- 七、子女團御視閱場ノ設備及見取圖作製ノ事

(三) 撮影保 (保長 大貫特高課長)

- 一、御親授記念撮影ノ事
- 二、御允許ヲ得タル場所並記念ノタメ撮影スル場所ノ撮影ヲナスコト
- 三、活動寫眞撮影ノ事
- 四、新聞記者トノ連絡ノ事

各保別人員並氏名

支部長	富田花子	顧問	富田愛次郎
顧問	板垣喜久子	支部副長	安岡れい
委員長參與	安岡正光	副委員長參與	光田信
副委員長參與	小菅芳次	同	長谷川勝伍
同	鈴木修藏	同	柏四郎九
主事	土居肩吉		

總務保 保長 土居肩吉 主任 沖野寛一

下編 主要部

下欄 主要職

保員 新林健造

皆崎義顯

久都内徳植

佐々木 龍之助

齋藤專作

栗栖武人

梅田福人

本田一郎

拜賜保  
御旅館保  
献上品保

保長大上貞一

主任 山岡憲一

保員

藤井五平

藤本一三

畑中良臣

門藤矩夫

加藤初子

御親授保

(兼)保長 土居肩吉

主任 菅 重次郎

(兼)保員

小川士郎

(兼)吉田徳一

片岡ミネ

(兼)沖野寛一

(兼)廣井以忠

(兼)齋藤專作

(兼)柳川俊一

有藤マスノ

(兼)塩谷秀謙

(兼)栗栖武人

福永春甫

山蔭節九

佐々木 源

(兼)徳滿己之吉

(兼)桑本盛登

(兼)龍田謙淳

(兼)梨子木 ハツエ

(兼)内藤 巖

(兼)名和喜代子

(兼)福原フイコ

梅澤兵二

(兼)設樂藤香

總會保

保長 柏 四郎九

主任 和田理一郎

專任 小川士郎

(兼)保員

菅 重次郎

(兼)吉田徳一

(兼)片岡ミネ

(兼)廣井以忠

(兼)齋藤專作

(兼)柳川俊一

(兼)有藤マスノ

(兼)塩谷秀謙

(兼)栗栖武人

(兼)福永春甫

(兼)山蔭節九

(兼)佐々木 源

(兼)沖野寛一

廣幸平太郎

(兼)新林健造

徳滿己之吉

桑本盛登

桑木峯藏

龍田謙淳

名和喜代子

福原フイコ

設樂藤香

庄野政美

西川軍兵衛

上村莊太郎

國吉清人

三郎丸勳三

木村文雄

(兼)皆崎義顯

(兼)久都内徳植

(兼)梅田福人

(兼)佐々木 龍之助

佐伯アヤ子

山田政子

谷内 明

(兼)本田一郎

(兼)永井享一

(兼)伊達三郎

(兼)砂本 清

(兼)上野 茂

(兼)高井芳治

子女團御視閱保

保長 坂田啓造

主任 島田修三

專任 廣井以忠

保員

住谷一登

大石靜信

瀧本俊三

井口鐵雄

清水芳徳

土橋幸之進

加藤菊三郎

岡 猪眞二

傷痍軍人慰安會保

保長 桑原規一

主任 河野正郎

專任 塩谷秀謙

專任 柳川俊一

清水幹造

西田猪三

村上義登

浮乘 廉

有末慶喜

北川鐵三

古矢喜佐市

岡本 明

桑原修一

山内瀧四郎

松本 昇

岡田好治

中田吉壽

御賜餐保

保長 西尾森太郎

主任 光川逸平

專任 吉田徳一

下欄 主要職

- 係員 平岡通俊 田村繼一 二川謙造 森脇義男
- 小笠原優 首藤幸介 國久忠夫 東歸巖
- 伊達航吉 主任 三宅高二 專任 吉田徳一
- 御茶會係 係長 中邑元 主任 三宅高二 專任 吉田徳一
- 中井俊雄 片岡克巳 大濱眞一 勝井節二
- 渡邊元夫 堀井正司 高田逸二 正木敏郎
- 奉迎送係 係長 坂田啓造 主任 細川求巳 專任 小川士郎
- 係員 箱田實 崎本牧夫 富士登彰 都野田歳雄
- 後藤盛人 隅垣内數三 佐々木等
- 警備係 係長 栗原隆平 主任 栗原三郎 專任 小川士郎
- 係員 島田薫莊 松島要 田邊壽三 山本敏
- 衛生係 係長 平松敏雄 技術主任 津田廣義 庶務主任 和泉健一
- 專任 佐々木龍之助
- 係員 佐々木舜一 出井北郎 藤野龍 川本福吾
- 金崎三三
- 設備係 係長 中山元晴 主任 永井享一
- 砂本清 伊達三郎 頼實優
- 係員 山下竹夫 佐古田糸四郎 稻葉菊雄 佐々木勝登
- 海老村吾作

第六準備

(1) 御泊所

廣島市及び福山に於ける 總裁殿下の御泊所は「廣島市大手町吉川旅館、沼隈郡鞆町常盤旅館」として御内許を得、本部役職員の旅館は「廣島市鳥屋町虎屋旅館、鞆町常盤旅館並に對山館を充つることに決定す。

(2) 總會諸會場

- (1) 總會會場 縣立廣島第二中學校運動場
- (2) 御親授式場 廣島縣支部新築會館
- (3) 御茶會場 縣立廣島高等女學校講堂
- (4) (記念寫眞御撮影場) 同上運動場
- (5) 御賜餐場 廣島偕行社
- (6) 軍人遺族並傷痍軍人慰安會場 縣立廣島第二中講堂
- (7) 吳市聯合分會總會場 吳市二河公園
- (8) 福山市分會總會場 縣立福山誠之館中學講堂
- (9) 子女團御視閲場 廣島縣女、吳市女、福山縣女校庭

第七準備

次の諸項につき調査の遺漏なきことを期す。

1. 軍人慰安會

一、軍人遺族並に傷痍軍人に對して 總裁殿下の思召に依り特別御下賜金ある趣につき之れが調査に遺漏なきこと

2. 表彰

一、會員數女子人口百人に對し十五人以上に達し會費納入並に會業の成績良好なるものを優良分會として表彰す。

一、一家三人以上終身會員を有する家庭を表彰す。

一、特別有功者を表彰す。

3. 記念品

一、總會參列者には總會記念として「本會紋章を便化せる金屬製帶留一個を贈呈す。

一、總會參列者には汽車、電車の割引券並に諸興業觀覽割引券を贈呈す。

第八準備

五月本會通常總會に際し、富田支部長は土居主事を同伴して上京、本會に支部總會準備の狀況並に會員成績等を報告し更に官邸に伺候し 總裁殿下の御機嫌を奉伺して御台臨の御禮を言上し倉賀野事務官と日程並に御成順等につき一切の打合せを了して歸任せり。

五月十四日安岡委員長以下全委員の最後打合せをなして連絡に遺漏なきを期したり。

第九準備

五月十七日廣島市に於ける現地檢分を兼ね豫行演習を爲し、十八日吳市、十九日鞆町並に福山市に於ける豫行演習を爲したり。

支部御成御日程

五月二十日(木) 東京御發

東京御發

五月二十一日(金)

時刻

摘要

備考

午前九・五二

京都驛御發

普通急行列車

午後一・三八

岡山驛御通過

同 二・四〇

福山驛同

同 三・〇二

尾道驛同

同 三・一四

糸崎驛同

時刻

摘要

備考

午後四・三七

吳驛御通過

同 五・一一

廣島驛御着

同 五・一五

廣島驛御發

同 五・二五

御泊所御着

五月二十二日(土)

午前九・〇〇

御泊所御發

同 九・〇五

御親授式場御着

同 九・一〇

單獨拜謁

同 九・三八

列立拜謁

同 九・四五

御親授

同 一・五〇

御休憩

正 午

御晝餐

午後一・〇〇

御親授

午後二・〇〇

御親授了

廣島縣支部

御休憩所ニ於テ

次室ニ於テ

同

御休憩室ニ於テ

午後二・三〇

御休憩

同 二・三五

同所御發

同 二・四五

記念撮影場御着

同 三・二五

山陽記念館御着

同 三・三〇

同所御發

同 三・五〇

御茶會場御着

同 四・〇〇

同所御發

同 四・〇〇

御泊所御着

縣立廣島高等女學校運動場

縣立廣島高等女學校講堂

五月二十三日(日)

午前九・〇〇 御泊所御發  
 同 九・〇五 廣島陸軍病院御着  
 同 九・五〇 同所御發  
 同 九・五五 官祭招魂社御着  
 同 一〇・〇〇 同所御發  
 同 一〇・〇三 産業獎勵館御着  
 同 一〇・五〇 同所御發  
 同 一〇・五五 愛國子女團御着  
 同 一一・二〇 御視閲了  
 同 一一・四〇 同所御發  
 同 一一・五〇 御養養所御着  
 正 午 御養養

縣立廣島高等女學校

山本邸

五月二十四日(月)

午前八・五五 御泊所御發  
 同 九・〇五 廣島驛御着  
 同 九・一〇 同驛御發  
 同 九・五六 吳驛御着  
 同 一〇・〇五 吳海軍病院御着

普通列車

第二中學校運動場

第二中學校講堂

偕行社

午後一・〇〇 同所御發  
 同 一・一〇 總會場御着  
 同 一・二〇 式場台臨  
 同 二・一〇 總會了  
 同 二・三〇 御休憩  
 同 二・五〇 傷痍軍人台臨  
 同 三・〇〇 慰安會  
 同 三・〇〇 同所御發  
 同 五・二〇 御泊所御着  
 同 五・二五 同所御發  
 同 六・一〇 御賜養場御着  
 同 六・一五 同所御發  
 同 六・一五 御泊所御着

午前一〇・三五 同所御發  
 同 一〇・五〇 吳市分會  
 同 一一・〇五 總會場御着  
 同 一一・一〇 同所御發  
 同 一一・一〇 愛國子女團御着  
 同 一一・三〇 御視閲了

二河公園

吳市高等女學校

五月二十五日(火)

午前一一・三五 同所御發  
 同 一一・四五 水交社御着  
 午後〇・三〇 同所御發  
 同 一・四五 長官々邸御發

鐵守府長官々邸ニ入ラセラル

午後一・五〇 吳驛御着  
 同 一・五三 同驛御發  
 同 三・五二 福山驛御着  
 同 四・三〇 新町御泊所御着

常盤旅館(自動車)

縣立誠之館中學校

午後二・一五 福山市分會  
 同 二・二八 同所御發  
 同 二・四〇 福山陸軍病院御着  
 同 二・五〇 同所御發  
 同 三・〇〇 福山工業試驗場御着  
 同 三・四〇 同所御發  
 同 三・五〇 福山驛御着  
 同 三・五三 同驛御發御歸還

普通急行列車



行事細目

日 時	行 事	要 項
五月二十一日	岡山驛ニ御出迎	支部長、顧問、副長、參與(警察部長)大上係長、土居主事ハ午前八時三十分廣島驛上リ京 都行ニテ廣島驛出發午後〇時十七分岡山驛ニ着シテ御待テ受ケ慰從ス
午後一・三八 岡山驛御着	岡山驛御通過	坂田奉迎係長ハ福山驛ニ先着シテ驛ホーム奉迎送者ノ整理ヲナシ之レヨリ慰從ス
午後二・四〇	福山驛御通過	(驛ホーム奉迎者ハ別ニ定メタルモノニヨル)
同 三・〇二	尾道驛御通過	(驛ホーム奉迎者ハ別ニ定メタルモノニヨル)
同 三・一四	糸崎驛御通過	(驛ホーム奉迎者ハ別ニ定メタルモノニヨル)
同 四・三七	吳驛御通過	(驛ホーム奉迎者ハ別ニ定メタルモノニヨル)
同 五・一一	廣島驛御着	驛ホームニテ安岡委員長、參與、各係長、參事、評議員、佩有功章二付以上、子女團長、 子女團員代表、廣島市分會顧問、相談役、其他別ニ定メタルトコロニヨリ奉迎ス 御着車驛長開扉御下車支部長以下扈從、驛長御先導御召自動車ニ御乗車 奉迎係ハ午後五時マデニ奉迎者ノ整列ヲナス 配車係ハ午後五時マデニ所定ノ位置ニ自動車ノ配置ヲ整フ御荷物係ハ午後五時マデニホ ムニ入場配車係ト連絡シテ待機ス
同 五・一五	廣島驛御發	御車列次第一圖
同 五・二五	御泊所御着	參與先着御泊所支關前ニテ奉迎 支部長 御先導御居間ニ御案内申シ上ゲ

五月二十二日 御親授式

自午前七・三〇	受付	御親授係ハ午前七時マデニ部署ニ就ク 御親授ヲ拜受スルモノハ裏門ヨリ入場、拜謁ヲ賜ハルモノハ表門ヨリ入場、受付ニ於テソ レソレ各控室ニ案内ス
同 八・三〇	配車準備	配車係ハ此ノ時刻マデニ御泊所ト隨從員旅館トニ準備ヲ整フ
同 八・四〇	御泊所ニ御出迎	支部長、顧問、副長、委員長、主事ハ御泊所ニ御出迎
同 九・〇〇	御泊所御發	支部長 御先導ニテ御泊所御發式場ニ成ラセラル
午前 九・〇五	式場御着 (廣島縣支部)	御車列次第二圖 奉迎係ハ午前八時四十分表門入場ヲ停止シ清掃シテ御着ヲ待ツ 奉迎者(參與、廣島市分會顧問、支關内左側、參事評議員ハ右側)所定ノ位置ニ整列ス 拜謁係ハ拜謁者ニ心得方説明ス
同 九・一〇	單獨拜謁	支部長 御先導御休養所ニ御案内申上ゲ 支部長、顧問、副長、委員長拜謁ヲ賜ハリ 支部長ヨリ「此御席ニテ單獨拜謁ヲ賜ハリタキ旨」ヲ言上シ此ノ時拜謁係長ハ事務官ヲ經テ 單獨拜謁者名簿ヲ奉呈シ更ニ名簿一通ヲ會長ニ提出ス 拜謁係ハ御休養所ニ御入室後直ニ單獨拜謁者ヲ室外入口近ク縱列セシム 拜謁係長ハ氏名ヲ呼稱シテ拜謁セシム 此際侍立スル者ハ本部隨從員、支部長、顧問 單獨拜謁終リタル時支部長ハ「單獨拜謁終リタル旨」言上シ御休養所ヲ請フ

行事細目

日 時	行 事	要 項
五月二十一日 午後一・三八 岡山驛御着	岡山驛ニ御出迎	支部長、顧問、副長、參與(警察部長)大上係長、土居主事ハ午前八時三十分廣島驛上り京 都行ニテ廣島驛出發午後〇時十七分岡山驛ニ着シテ御待テ受ケ慰從ス
午後二・四〇	福山驛御通過	坂田奉迎係長ハ福山驛ニ先着シテ驛ホーム奉迎送者ノ整理ヲナシ之レヨリ慰從ス
同 三・〇二	尾道驛御通過	(驛ホーム奉迎者ハ別ニ定メタルモノニヨル)
同 三・一四	糸崎驛御通過	(驛ホーム奉迎者ハ別ニ定メタルモノニヨル)
同 四・三七	吳驛御通過	(驛ホーム奉迎者ハ別ニ定メタルモノニヨル)
同 五・一一	廣島驛御着	驛ホームニテ安岡委員長、參與、各係長、參事、評議員、佩有功章二付以上、子女團長、 子女團員代表、廣島市分會顧問、相談役、其他別ニ定メタルトコロニヨリ奉迎ス 御着車驛長開扉御下車支部長以下扈從、驛長御先導御石自動車ニ御乗車 奉迎係ハ午後五時マデニ奉迎者ノ整列ヲナス 配車係ハ午後五時マデニ所定ノ位置ニ自動車ノ配置ヲ整フ御荷物係ハ午後五時マデニホ ムニ入場配車係ト連絡シテ特機ス
同 五・一五	廣島驛御發	御車列次第一圖
同 五・二五	御泊所御着	參與先着御泊所玄関前ニテ奉迎 支部長 御先導御居間ニ御案内申シ上ゲ

五月二十二日  
自午前七・三〇  
御親授式  
受付

同 八・三〇	配車準備	支部長、顧問、參與、主事ニ奉調ヲ賜フ 旅館係ハ隨從員ヲ旅館ニ案内ス 支部長、顧問御挨拶ヲ申上ゲテ退下ス
同 八・四〇	御泊所ニ御出迎	(記念御撮影、御茶會) 御親授係ハ午前七時マデニ部署ニ就ク 御親授ヲ拜受スルモノハ裏門ヨリ入場、拜調ヲ賜ハルモノハ表門ヨリ入場、受付ニ於テソ レソレ各控室ニ案内ス
同 九・〇〇	御泊所御發	配車係ハ此ノ時刻マデニ御泊所ト隨從員旅館トニ準備ヲ整フ 支部長、顧問、副長、委員長、主事ハ御泊所ニ御出迎
午前九・〇五	式場御着 (廣島縣支部)	御車列次第二圖 奉迎係ハ午前八時四十分表門入場ヲ停止シ清掃シテ御着ヲ待ツ 奉迎者(參與、廣島市分會顧問、玄関内左側、參事評議員ハ右側)所定ノ位置ニ整列ス 拜調係ハ拜調者ニ心得方説明ス
同 九・一〇	單獨拜調	支部長 御先導御休憩所ニ御案内申上ゲ 支部長、顧問、副長、委員長拜調ヲ賜ハリ 支部長ヨリ「此御席ニテ單獨拜調ヲ賜ハリタキ旨」ヲ言上シ此ノ時拜調係長ハ事務官ヲ經テ 單獨拜調者名簿ヲ奉呈シ更ニ名簿一通ヲ會長ニ提出ス 拜調係ハ御休憩所ニ御入室後直ニ單獨拜調者ヲ室外入口近ク縱列セシム 拜調係長ハ氏名ヲ呼稱シテ拜調セシム 此際侍立スル者ハ本部隨從員、支部長、顧問 單獨拜調終リタル時支部長ハ「單獨拜調終リタル旨」言上シ御休憩ヲ請フ

單獨拜謁ヲ終リタルトキ	御茶獻進	御茶獻進係ハ豫メ階上準備室ニ用意シテ單獨拜謁終リタル時直ニ御茶菓ヲ獻進ス 同時ニ隨從員一同ハ御茶菓ヲ獻ム 拜謁係ハ單獨拜謁終ル頃マデニ列立拜謁者ヲ所定ノ位置ニ整列セシム 顧問、副長、委員長侍立ノ位置ニ着ク 拜謁係長ハ列立拜謁者名簿ヲ事務官ヲ經テ奉呈ス 更ニ名簿一通ヲ會長ニ提出ス
午前 九・三八	列立拜謁	支部長 ハ「列立拜謁ヲ賜ハリタキ旨」言上シ列立拜謁場ニ御案内申上グ此時係員ハ一同ニ對シ「氣ヲ付ケ」ト呼ブ 殿下ノ御着席ヲ見テ拜謁係長ハ「最敬禮」ト呼ビ一齊ニ敬禮「直レ」ト呼ブ 次デ 顧問ヨリ簡單ナル御挨拶ヲ言上ス 支部長 御先導御休憩所ニ御案内申上グ 拜謁係ハ拜謁者ヲ速ニ後方ヨリ退場セシム 此時主事ハ事務官ヲ經テ有功章拜受者名簿ヲ奉呈ス 御親授係ハ此時マデニ拜受者ヲ式場入口マデ整列セシメ置キ列立拜謁ヲ終リテ直ニ式場ニ整列セシム 參事評議員ハ所定ノ位置ニ整列ス 支部長ハ御休憩所ニ於テ「一部有功章御親授ヲ賜ハリタキ旨」言上ス 主事呼稱ス 支部長 ハ「之レヨリ有功章御親授ヲ賜ハリタキ旨」言上シ式場ニ御案内申上グ 呼名ハ名簿ニヨリ主事之ヲ行ヒ有功章ハ支部長評議員之ヲ御前ニ奉呈ス 約一時間後十分間ノ御休憩ヲ願フ此際ハ支部長「御休憩ヲ願ヒタキ旨」言上シテ御休憩所ニ御案内申上グ 此時御茶ヲ獻進ス 同時ニ隨員ニ御茶ヲ獻ム 御休憩後支部長「續イテ御親授ヲ賜ハリタキ旨」言上シテ式場ニ御案内申上グ 此時御茶ヲ獻進ス
午前 九・四五	御親授	
同 一一・五〇	御休憩	

正 午	御養餐	御養餐係御休憩所ニテ御養餐ヲ差上グ 御養餐ノ準備ハ階上準備室ニ於テス 午前ト同ク(御親授ノ前御茶ヲ獻ズ)
午後 一・〇〇	御親授	
同 二・〇〇	御親授了ル	
同 二・二五	御休憩	
同 二・三〇	御親授式場御發	
同 二・三五	記念御撮影場台臨 (廣島縣女)	御養餐係御休憩所ニテ御養餐ヲ差上グ 御養餐ノ準備ハ階上準備室ニ於テス 午前ト同ク(御親授ノ前御茶ヲ獻ズ) 有功章拜受ヲ終リタルモノハ記念御撮影場ニ至リテ整列スルコトヲ係員ヨリ豫メ注意ス 支部長 ハ御前ニ進ンデ「有功章ノ拜受終リタル旨」言上シテ御休憩所ニ御案内申上グ 御茶菓ヲ獻進ス 同時ニ隨從員一同ニ御茶菓ヲ獻ム 支部長 「記念御撮影ヲ願ヒタキ旨」言上シテ御先導記念御撮影場ニ御案内申上グ 顧問副長、委員長、奉迎係長、主事ハ玄關ニ奉送シテ御撮影場ニ扈從ス 配車係ハ二時二十分マデニ自動車ノ準備ヲ整フ 御撮影係コノ時刻マデニ撮影ノ整頓ヲ終リテ御來着ヲ待ツ(此時ニ枚撮影ノコトヲ一般ニ注意ス) 御車列次第二圖
同 二・四五	山陽記念館御着	參與先着奉迎 撮影係ノ指揮ニヨリ御撮影 御撮影場ヨリ知事「山陽記念館ニ御台臨ヲ仰ギタキ旨」言上シテ御先導御案内申上グ 御茶會係ハ記念御撮影場ニ於テ直ニ御茶會場ニ參集ノコトヲ告ゲ午後三時二十分マデニ着席整頓ヲ終ル 顯彰會理事門内ニテ奉迎ス 知事御先導御案内申上グ 御台覽後御休憩室ニ御案内申上グ 支部長 「御茶會ニ御台臨ヲ仰ギタキ旨」言上シテ御先導會場ニ御案内申上グ 參與、廣島市顧問、會場ノ學校長、拜謁係長、奉迎係長、御茶會係長玄關前ニテ奉迎
同 三・二五	同所御發	
同 三・三〇	御茶會場御着 (廣島縣女)	

同	三・四五	御茶會場御退場
同	三・五〇	同所御發
同	四・〇〇	御泊所御着
<b>五月二十三日 總會</b>		
午前	八・三〇	配車準備
原	八・四〇	御泊所ニ御出迎
同	九・〇〇	同所御發
午前	九・〇五	廣島陸軍病院御着

學校長御先行、支部長御先導御休憩所ニ御案内申上ケテ御茶會係一同ニ御着ヲ告ゲ且ツ注意ス

支部長 御茶會場ニ御案内申上ケ  
殿下御入場ノ際御茶會係「氣ヲ付ケテ」最敬禮ト呼ブ  
支部長 御菓子ヲ献ジ次テ副長御茶ヲ献ズ  
顧問ハ御禮ヲ言上シ半バ諸員ニ向ヒ挨拶ヲ述ブ  
次テ會長ノ祝辭アリテ一同御茶ヲ頂戴ス

支部長 ヨリ御退下ヲ言上シ「氣ヲ付ケテ」一同最敬禮ノ裡ニ支部長御先導御休憩所ニ入ラセラル

支部長 御先導奉送裡ニ御泊所ニ御歸還アラセラル  
奉送ハ奉迎ノ時ニ同ジ

御茶會係ハ御菓子ヲ御泊所ニ届ク  
支部長 顧問、本日ノ御禮ヲ申上ケテ退下ス

**(子女團御視閲、傷痍軍人慰安會、御賜餐)**  
配車係ハ此ノ時刻マデニ御泊所ト隨從員旅館トニ配車ノ準備ヲ整フ  
支部長、顧問、副長、委員長、主事ハ御泊所ニ御出迎  
支部長 御先導御泊所御發  
御車列次第二圖

師團長、軍醫部長、病院長、職員、玄關前ニテ奉迎  
病院長御先導御休憩所ニ入ラセラレ師團長、軍醫部長、病院長拜謁ノ後病院長ヨリ狀況言上  
病院長御先導病室御慰問(約三十分間)

同	九・五〇	同所御發
同	九・五五	廣島招魂社御着
同	一〇・〇〇	同所御發
同	一〇・〇三	産業獎勵館御着
同	一〇・五〇	同所御發
同	一〇・五五	愛國子女團御視閲場御着(廣島縣女)
同	一一・〇五	式場台臨
同	一一・二〇	御視閲了ル
同	一一・四〇	同所御發
同	一一・五〇	御晝餐所御着

娛樂室御立寄(一旦御休憩所ニ入ラセラル)

知事御先導廣島招魂社ニ御案内申上ケ  
社寺兵事課長神官一同奉迎  
知事御先導御參拜

知事「産業獎勵館(御台臨ヲ仰ギタキ旨)言上御先導御案内申上ケ  
館長、館員、玄關ニテ奉迎  
知事御先導御休憩所ニ御案内申上ケ  
館長御先行御説明申上ケ(約三十五分間)  
一旦御休憩所ニ入ラセラル

支部長 御先導愛國子女團御視閲場ニ御案内申上ケ  
學校長、御視閲係長、拜謁係長玄關ニテ奉迎  
學校長御先行、支部長御先導御休憩所ニ入ラセラル  
各子女團長、校長其校職員、廊下ニ列立シテ奉迎ス  
支部長、事務官ヲ經テ名簿ヲ奉呈ス  
學校長單獨拜謁ヲ賜ハリ後直ニ式場ニ着席ス  
知事 縣内女子教育ノ狀況ヲ言上ス

支部長 「愛國子女團ノ御視閲ヲ賜ハリタキ旨」ヲ言上シテ式場ニ御案内申上ケ  
式次ニ從ヒ御視閲終了、支部長御先導御退場  
子女團長御先導、成績品御台覽ノ後御休憩所ニ入ラセラル  
支部長 御先導御晝餐所ニ御案内申上ケ  
平野町山本實一殿邸

正	午後	同	同	同	同	同	同	同
午後	一・〇〇	一・一〇	一・二〇	二・一〇	二・三〇	二・四五	二・五〇	三・〇〇
御養發	同所御發	總會場御着 (二中)	式場台臨	總會了	傷痍軍人慰安會場 台臨 (二中講堂)	御退場	同所御發	御泊所御着

御養發係ノ指圖ニヨリ獻進ス  
 支部長 御先導總會場ニ御案内申上ゲ  
 總會係員ハ午前九時マデニ各部署ニ就ク  
 參與、奉迎係長、總會係長、學校長支關前ニテ奉迎  
 學校職員ハ廊下ニ列立シテ奉迎ス  
 支部顧問、副長、參與ハ總會係長ノ案内ニヨツテ式場ニ整列シテ御待申上ゲ  
 學校長先行、支部長御先導御休憩所ニ入ラセラル  
 學校長單獨拜謁ヲ賜ハル  
 支部長 事業報告書ヲ事務官ヲ經テ奉呈ス、主事ハ會長ニ提出ス  
 支部長 御先導式場ニ成ラセラル  
 此時總會係ハ合圖ヲナシテ國歌ヲ奏樂セシム  
 式次第ニヨリテ進行ス  
 支部長 式終了ノ旨言上シ閉會ヲ宣シタル後御先導御休憩所ニ御案内申上ゲ  
 慰安會係ハ總會參與ノ傷痍軍人ヲ直ニ慰安會場ニ御案内ス  
 献茶係ハ御茶菓ヲ獻進ス  
 此時隨從員一同へ御茶菓ヲ獻ム  
 支部長 「傷痍軍人慰安會へ御台臨ヲ願ヒタキ旨」言上シ御先導會人場へ御案内申上ゲ  
 式次第ニヨツテ進行  
 支部長 御先導御退場御休憩室ニ御案内申上ゲ  
 支部長 御先導御泊所ニ御露亞アラセラル

同	同	同	同	同	同	同	同	同
午後	六・一〇	六・一五	五月二十四日	午後	八・四〇	八・四〇	八・四〇	八・四〇
御泊所御發	同所御發	御泊所御着	吳市 御成	御賜養場ニ御台臨	御賜養場御退場	同所御發	廣島驛奉送準備	廣島驛奉送準備

支部長 御先導御賜養場ニ御案内申上ゲ  
 御車列次第第二圖  
 參與、奉迎係長、御賜養係長、メインテーブルニ召サレタルモノ支關ニテ奉迎  
 御賜養係長先行、支部長御先導御休憩所ニ入ラセラル  
 支部長 「御召ノ光榮ニ浴シタル一同ノ記念寫眞撮影ニ御成リヲ願ヒタキ旨」言上シ庭内ノ  
 撮影場ニ御案内申上ゲ  
 更ニ御休憩所入ラセラレ此間諸員着席  
 御賜養係長御先導事務官御先導御賜養場ニ御案内申上ゲ  
 一同起立最敬禮  
 (メインテーブルノ席次ハ別ニ定ム)  
 支部顧問、適當ノ時期ニ於テ御禮ノ御挨拶ヲ述ブ  
 本會長、祝辭ヲ述ブ  
 謹話者二人(御賜養係長職氏名ヲ呼ブ)(十分間)  
 事務官御先導御退場一旦御休憩所ニ入ラセラル  
 一同最敬禮  
 支部長 御先導御泊所ニ御歸還アラセラル  
 支部長、顧問、本日ノ御禮ヲ申上ゲテ退下ス  
 支部職員ハ吳市、福山市、鞆町ニ先着シテ其準備ヲ連絡ス  
 御旅館係ハ鞆町ニ先着ス  
 奉送係ハ二十一日廣島驛御着奉迎ノ時ト同様ノ整頓ヲナシテ 殿下ノ御着驛ヲ待ツ  
 配車係ハ此時刻マデニ御泊所前ニ配車ヲ準備ス

同	八・五五	御泊所御發	支部長、顧問、委員長、副長、警備係長、御旅館係長、支部主事ハ午前八時四十分マデニ御泊所ニ御出迎慰從ス
同	九・〇五	廣島驛御着	支部長、顧問、委員長、副長、警備係長、拜謁係長、奉迎係長、主事扈從シテ吳市ニ至ル
同	九・一〇	同所御發	吳市分會長、顧問ハ廣島驛マデ出迎ヘヲナス車中ニテ拜謁ヲ賜ハル
同	九・四〇	同所御發	配車係ハ此時刻マデニ吳驛前ニ配車ヲ整フ
同	九・五六	吳驛御着	奉迎者ハ別ニ定ム
同	一〇・〇五	吳海軍病院御着	吳驛長御先導御下車一旦貴賓室ニ入ラセラル次イデ御召自動車ニ御乗車(此間三分ノ豫定)
同	一〇・三五	海軍病院御發	支部長 御先導海軍病院ニ御案内申上ゲ 御車列次第三圖 分會長ハ支部副長、拜謁係長ヲ總會場ニ案内ス支部員隨行ス 子女團御視謁係長ハ御親謁場ニ先着ス 鎮守府長官、參謀長、病院長、職員、玄關ニテ奉迎 病院長御先導御休憩所ニ入ラセレ長官、參謀長、病院長拜謁ノ後病院長ヨリ狀況言上 病院長御先導御立寄りノ後一旦御休憩所ニ入ラセラル 此時支部長「吳市分會總會御立寄り願ヒタキ旨」言上 新築寄贈ノ娛樂室御立寄りノ後一旦御休憩所ニ入ラセラル 病院長御先導御召自動車ニ御乗車 吳市分會顧問御先行支部長御先導吳市分會總會場成ラセラル 御車列次第三圖

同	一〇・五〇	吳市分會總會場御着 (二河公園)	分會長御先行支部長御先導御休憩所ニ入ラセラル 此時先着ノ支部副長、拜謁係長及分會副長、佩有功章者ハ御道筋ニ整列シテ奉迎ス 御休憩所ニ於テ分會長、分會顧問ニ單獨拜謁ヲ賜ハル 拜謁係長氏名ヲ呼稱シ拜謁セシム 支部長 分會總會場ニ御台臨ヲ願ヒ分會長御先導式場ニ成ラセラル一同最敬禮 分會長御禮言上 支部長 御先導御退場御休憩所ニ入ラセラル 次イデ御召車ニ御乗車御視謁場ニ御案内申上ゲ 御視謁係長、學校長、子女團長、職員玄關内ニテ奉迎 學校長御先行支部長御先導御休憩所ニ入ラセラル 學校長單獨拜謁各校長及其校職員次室ニテ列立拜謁ヲ賜ハリ後直ニ式場ニ着席ス 支部長 「御視謁ヲ賜ハリタキ旨」言上シテ式場ニ御案内申上ゲ 式次ニ從ヒテ御視謁終了 支部長御先導御退場一旦御休憩所ニ入ラセラル 支部長 「記念御攝影所ニ御立寄り願ヒタキ旨」言上シテ御案内申上ゲ御攝影後吳市分會長御先行支部長御先導水交社ニ御案内申上ゲ 御車列第四圖
同	一一・〇五	同所御發	參謀長夫人、病院長夫人、副官及夫人ハ玄關前ニテ奉迎
同	一一・一〇	愛國子女團御視謁場御着(吳市高女)	吳市顧問御先導御休憩所ニ御案内申上ゲ
同	一一・三〇	御視謁了	此時御陪食ヲ許サレタルモノニシテ扈從セザルモノハ御畫餐所ニ着席シテ御待チ申ス
同	一一・三五	同所御發	吳市分會長御先導御畫餐場ニ御案内申上ゲ(一同最敬禮)
同	一一・四五	水交社御着	御着席ヲ待チテ分會顧問御禮言上
同	一一・三〇	御茶獻進	支部長 御先導一同最敬禮ノ裡ニ御退場アラセラレ一旦御休憩所ニ入ラセラル
同	一一・一〇	御畫餐	
同	一一・三〇	御畫餐終了	

午後	一・三〇	配車
同	一・四五	吳鎮守府長官々邸御發
同	一・五〇	吳驛御着
同	一・五三	吳驛御發
同	三・四〇	福山驛御着
同	三・五二	福山驛御着
同	四・三〇	鞆町御泊所御着
五月二十五日	福山市御成	
午前	九・〇〇	御泊所御發
同	一・〇〇	御車準備

此時支部長ハ光榮ノ記念寫眞撮影ニ御立寄りヲ請フ、御案内申上ケ撮影了リテ參謀長夫人御先導鎮守府長官々邸ニ成ラセラル

御車列次第五圖  
 支部長、顧問、吳分會長、主事ハ玄関前ニテ奉送ス  
 御車列次ニ加ハザルモノニ長官々邸ニ行クモノハ直ニ裏山ヨリ至ル  
 配車係ハ此時刻マデニ水交社ヨリ長官々邸ニ自動車ヲ廻シテ配車ヲ整フ

支部長 御先導吳驛ニ成ラセラル  
 御車列次第六圖  
 驛長御先導一旦貴賓室ニ入ラセラレテ次イデ御乗車  
 奉送者ハ別ニ定ム  
 支部長、顧問、委員長、副長、警備係長、奉迎係長、拜謁係長主事ハ扈從シテ鞆町ニ至ル  
 糸崎、尾道御通過ノ奉迎送ハ二十一日ノ時ト同シ  
 配車係ハ此時マデニ福山驛前ニ配車ヲ整フ  
 驛長御先導御召自動車ニ御乗車直ニ御發車  
 御車列次第七圖  
 奉迎者ハ別ニ定ム  
 鞆町分會長、顧問其他ハ定刻二十分前ニ御泊所前ニ整列シテ奉迎ス  
 支部長 御先導御對面所ニ御案内申上ケ  
 分會長、顧問ニ拜謁ヲ賜ハリテ後御居間ニ御案内申上ケ

知事御先導(鞆町ニテノ御行程ハ別ニ定ム)  
 配車係ハ此時刻マデニ御泊所前ニ配車ヲ整フ

同	一・一〇	鞆町御發
正	午	御養養所御着
午後	一・一〇	御養養所御發
同	一・一五	福山城御着
同	一・三〇	福山城御發
同	一・四〇	愛國子女團御視閲場御着 (國立福山高女)
同	二・〇〇	御視閲了
同	二・〇五	同所御發
同	二・一五	福山市分會總會場御着(誠之館中學)

支部長 御先導福山市ニ御案内申上ケ(自動車)  
 御車列次第八圖  
 分會長ノ車ハ福山市入口ニ先着シテ此處ヨリ御先行申上ケ  
 福山市分會顧問御案内 支部長御先導御養養御休養所ニ御案内申上ケ  
 三ノ丸町安部和助殿邸  
 知事福山城御立寄りヲ願フ、福山市長御先導  
 御車列次第九圖  
 子女團御視閲係長ハ福山縣女御視閲場ニ先着ス  
 分會長ハ支部副長、拜謁係長ト共ニ分會總會場へ先着ス(支部員同行ス)  
 福山市市長御説明申上ケ

支部長 御先導子女團御視閲場へ御案内申上ケ  
 先着係長、學校長子女團長玄関前ニテ奉迎ス  
 學校長御先行 支部長御先導御休養所ニ入ラセラル  
 學校長單獨拜謁各子女團長及其校職員次室ニテ列立拜謁ヲ賜ハリ後式場ニ着席ス  
 支部長「御視閲ヲ賜ハリタキ旨」言上シテ式場ニ御案内申上ケ  
 式次ニ從ヒテ御視閲了 支部長 御先導御退場一旦御休養所ニ入ラセラル  
 支部長「福山市分會總會御立寄り願ヒタキ旨」言上福山市分會顧問先行總會場へ御案内申上ケ  
 先着ノ支部副長、分會長、分會副長、分會職員ハ玄関ニテ奉迎  
 列立拜謁者ハ廊下ニ整列シテ奉迎ス  
 分會長御先行 支部長 御先導御休養所ニ入ラセラル  
 御休養所ニ於テ分會長、顧問、參與ニ單獨拜謁ヲ賜ハル、拜謁係長氏名ヲ呼稱シテ拜謁セ

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二・二八	二・四〇	二・五〇	三・〇〇	三・四〇	三・五〇	三・五三	同所御發	同所御發	同所御發
同所御發	福山陸軍病院御着	同所御發	工業試験場御着	同所御發	福山驛御着	同所御發			
シム	支部長 分會總會ニ御台臨ヲ願ヒ分會長御先導式場ニ成ラセラル	分會長御禮言上	支部長 御先導御退場一旦御休憩ニ入ラセラル	支部長 御先導福山陸軍病院ニ御案内申上グ	病院長職員玄關前ニテ奉迎	病院長御先導御休憩所ニ入ラセラル	病院長拜謁ノ後狀況ヲ言上ス	病院長先導御慰問	知事 御先導工業式驗場ニ御案内申上グ
									場長、職員玄關ニテ奉迎、場長先導御休憩所ニ入ラセラル
									場長御先導御台覽場長御説明申上グ
									支部長 御先導福山驛ニ成ラセラル
									驛長御先導御乗車アラセラル
									御歸還アラセラル
									奉送ハ奉迎ノ時ニ同シ
									支部長、顧問、委員長、副長、警備係長、坂田、大上係長、土居主事、岡山驛マデ扈從奉送ス

各種式次第書

(1) 有功章御親授式次第書

- 日時 昭和十二年五月二十二日 会場 廣島縣支部
- 午前七時三十分 受付開始
  - 午前九時五分 殿下御着
  - 總裁殿下支部長御先導御休憩所ニ入ラセラル
  - 御休憩所ニテ單獨拜謁
  - 次室ニテ列立拜謁
  - 一部御親授(御休憩室ニ於テ)
  - 午前九時四十五分支部長御先導式場へ台臨
  - 御親授
  - 午後二時御親授了ル
  - 總裁殿下支部長御先導御退場(午後二時三十分)

(2) 御茶會次第書

- 日時 昭和十二年五月二十二日 会場 縣立廣島高等女學校
- 参列者一同着席(午後三時二十分)
  - 總裁殿下御着(午後三時三十分)
  - 總裁殿下支部長御先導會場へ台臨(午後三時三十五分)
  - 参列者一同最敬禮
  - 支部長御菓子ヲ御前ニ奉呈
  - 支部副長御茶獻進
  - 支部顧問御禮言上
  - 會長祝辭
  - 参列者一同御茶頂戴
  - 参列者一同最敬禮
  - 總裁殿下支部長御先導ニテ御退場(午後三時四十五分)
  - 會場御發御歸還(午後三時五十分)
  - 参列者退場



(3) 總會次第書

日時 昭和十二年五月二十三日

會場 廣島第二中學校運動場

- 一、午前十時半第一信號(煙火)受付開始
- 一、午後〇時五十分第二信號(煙火)一同所定ノ位置ニ整頓
- 一、午後一時十分第三信號(煙火)會場御着
- 一、午後一時二十分第四信號 式場へ

一、總裁殿下支部長御先導ニテ式場へ台臨

國歌奏樂 一同最敬禮

三、支部副長會務ノ狀況ヲ報告ス

二、支部長開會ヲ言上シ參列者ニ開會ヲ宣ス

五、支部長奉答

四、總裁殿下御諭旨ヲ賜フ 一同最敬禮

七、總裁殿下傷痍軍人總代ニ特別御下賜金御親授

八、總裁殿下軍人遺族總代ニ特別御下賜金御親授

九、會長ヨリ成績優良ナル分會ニ表彰狀贈與

一〇、會長ヨリ一家三人以上入會ノ篤志者總代ニ表彰狀贈與

二、支部長ヨリ優良分會へ彰功牌贈與

三、支部長ヨリ特別被表彰者總代ニ表彰狀贈與

一三、支部長式終了ノ旨言上シ參列者ニ閉會ヲ宣ス

一同最敬禮

一四、總裁殿下支部長御先導ニテ御退場(國歌奏樂)

一五、參列者退場 午後二時十分頃ノ豫定此時第五信號(煙火)

(4) 愛國子女團御開式書

日時 昭和十二年五月二十三日

會場 縣立廣島高等女學校(吳、福山ヲ略ス)

一、一同整列(午前十時三十分)

一、總裁殿下會場御着(午前十時五分)

三、總裁殿下支部御先導式場ニ台臨(午前十一時五分)

國家奏樂 一同最敬禮

四、支部長御視閲子女團言上

五、一同最敬禮

六、愛國子女團代表御禮言上

七、愛國子女團團歌合唱

一同最敬禮

八、總裁殿下支部長御先導ニテ御退場

九、子女團長代表御先導子女團員成績品御台覽

一〇、會場御發(午前十一時四十分)

(吳、福山ハ廣島ニ陳列ス)

(5) 傷痍軍人慰安會次第書

日時 昭和十二年五月二十三日

會場 廣島市第二中學校講堂

一、參列者一同入場着席(午後二時十分)

二、總裁殿下支部長御先導台臨(國歌奏樂)  
(午後二時三十分)

三、一同最敬禮

四、支部副長開會ノ辭

五、支部長慰安ノ辭

六、來賓祝辭

七、一同最敬禮

八、總裁殿下支部長御先導御退場(國歌奏樂)  
(午後二時四十五分)

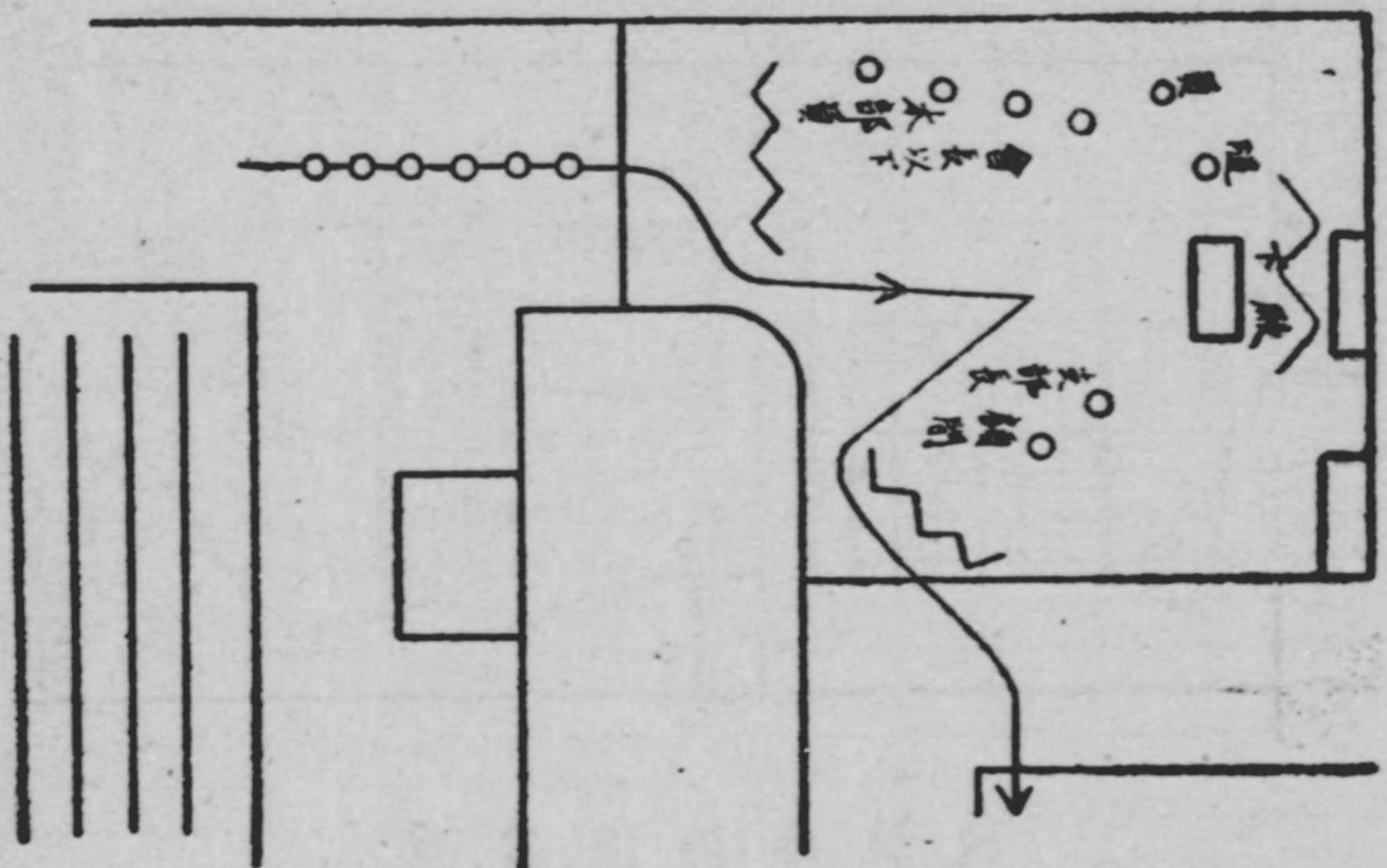
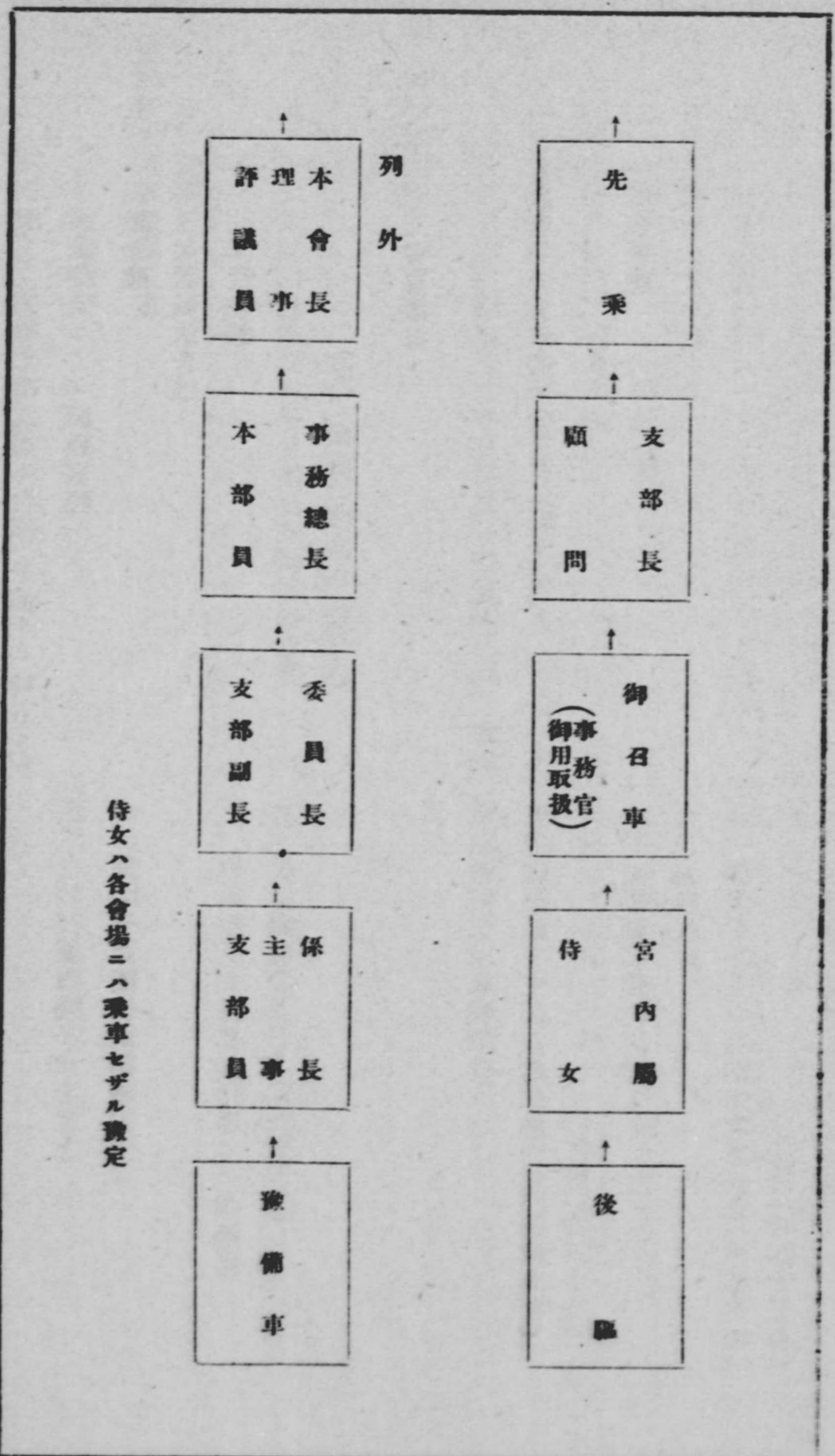
九、會場御發

一〇、支部顧問御禮言上ノ旨披露

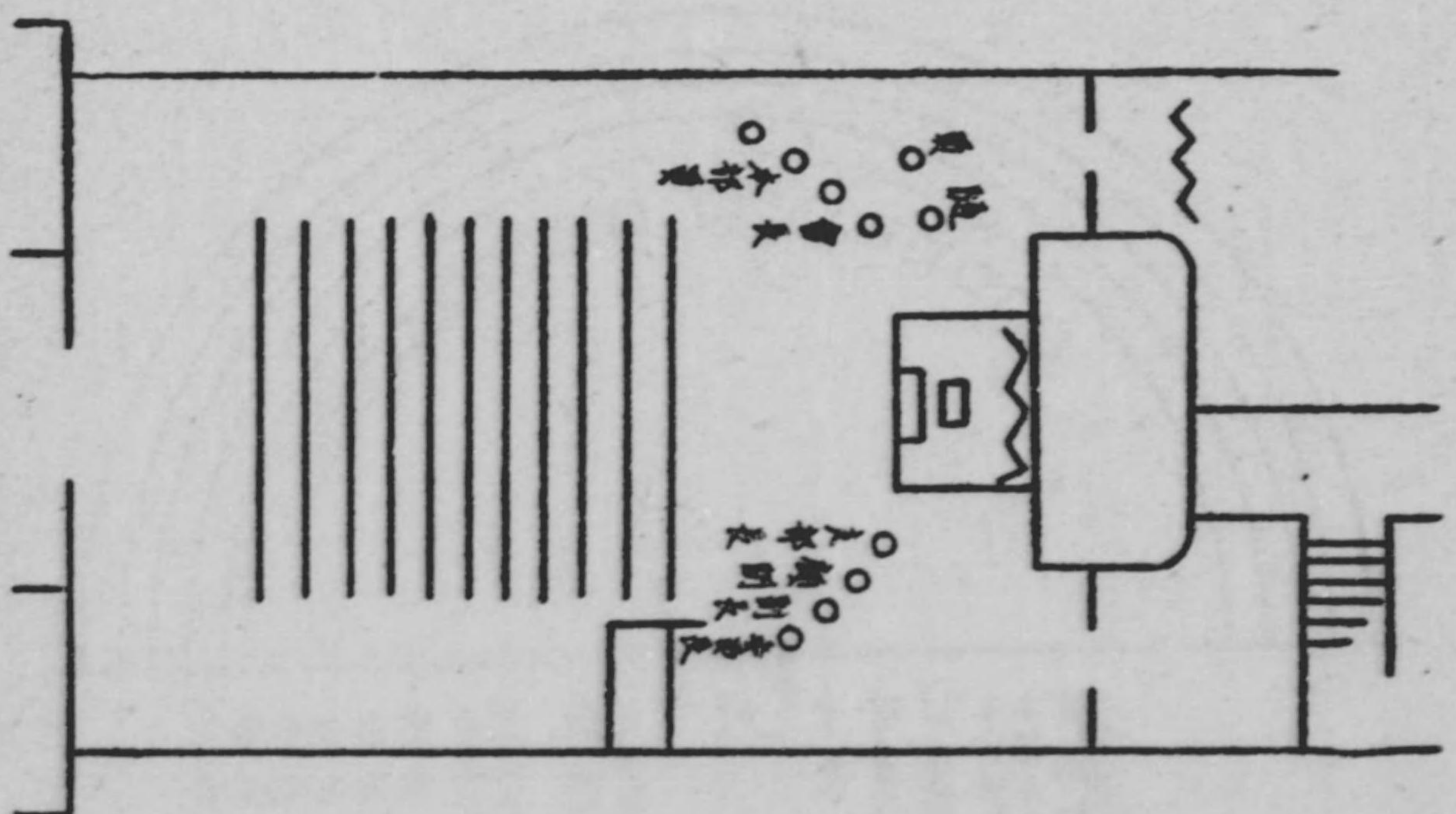
二、餘興

三、慰安會係長閉會ノ辭(午後四時ノ豫定)

自動車序列第一圖(他へ必要者以外略ス)

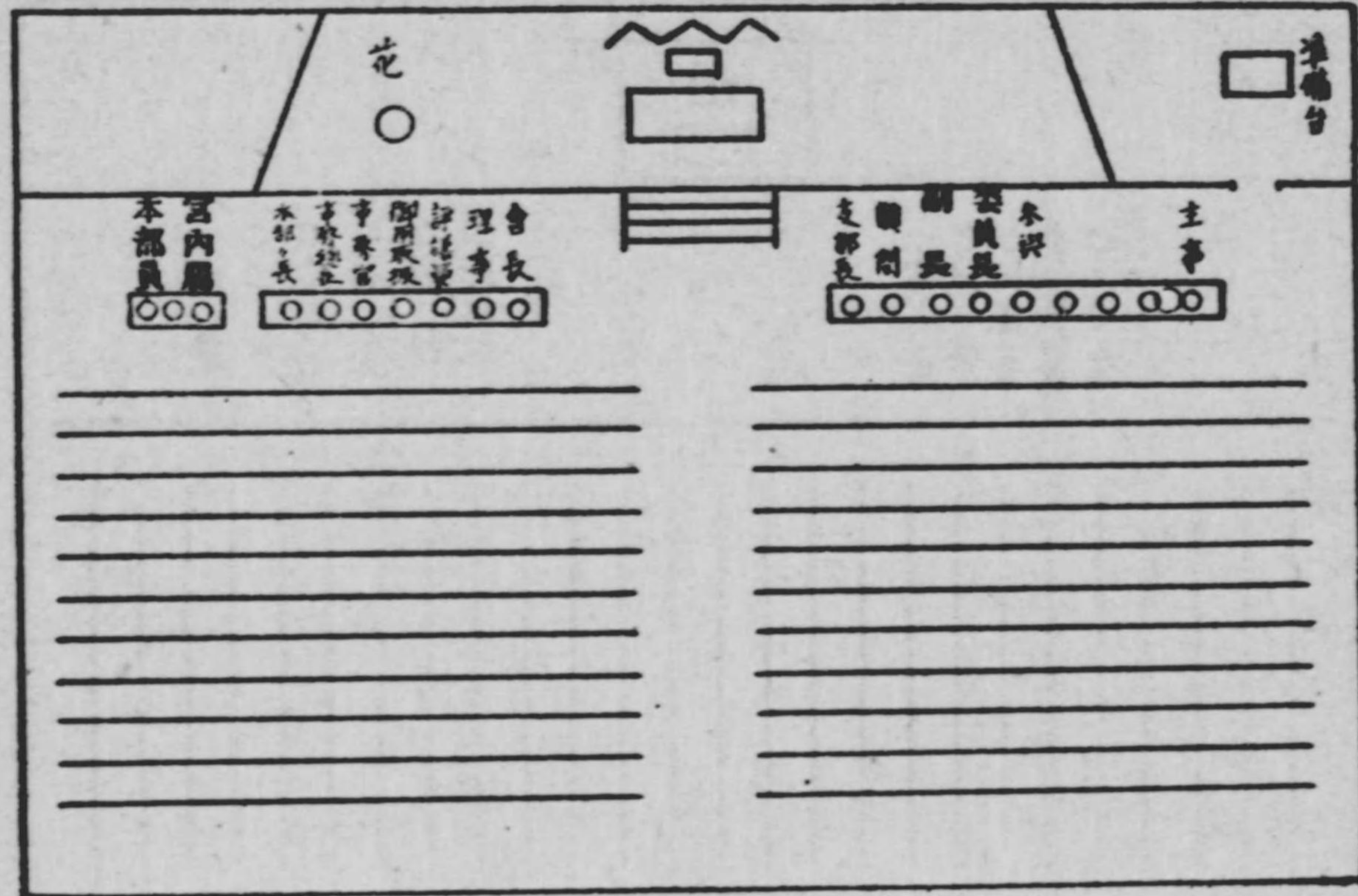


單獨拜謁略圖



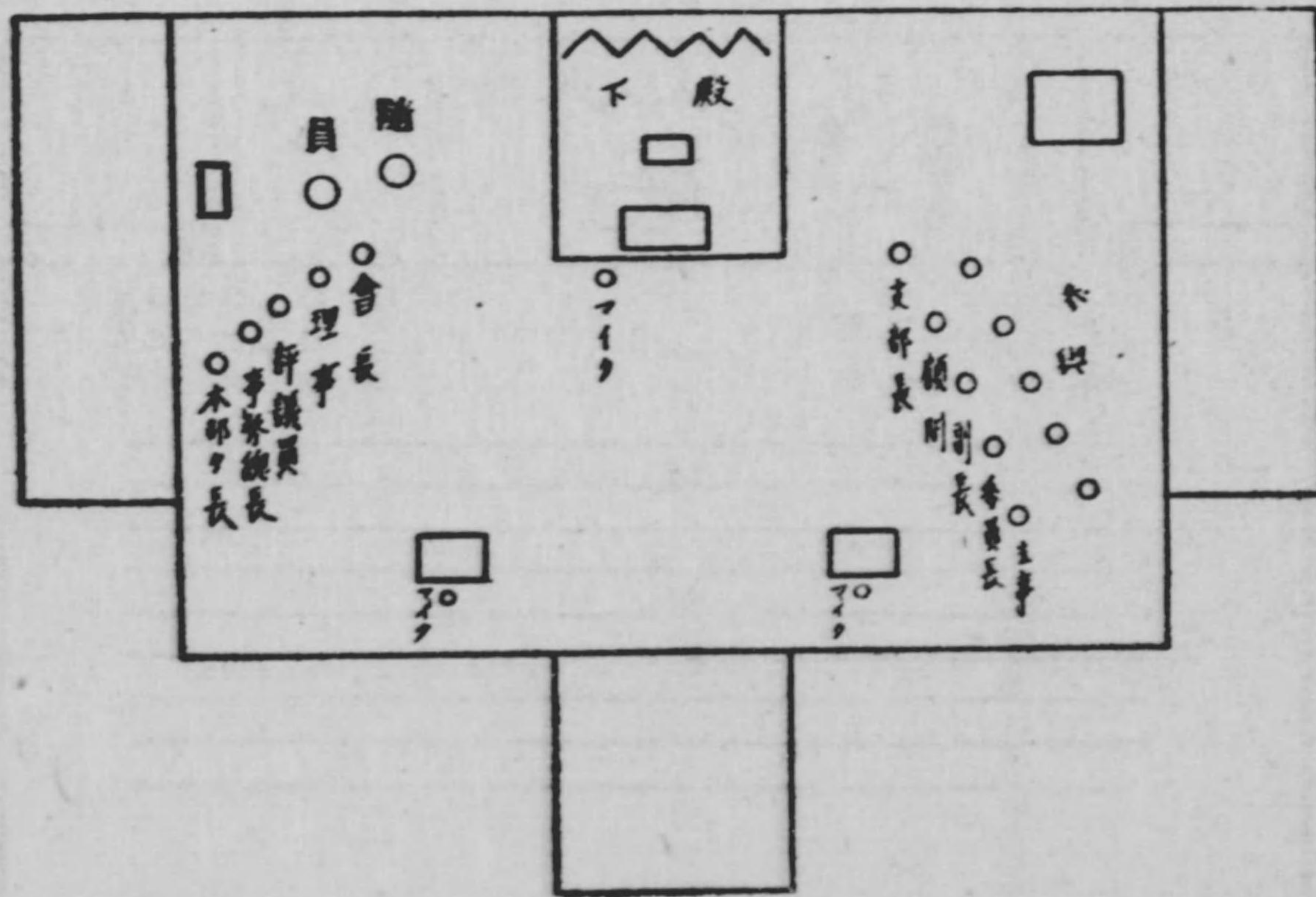
列立拜謁略圖

打茶會場略圖



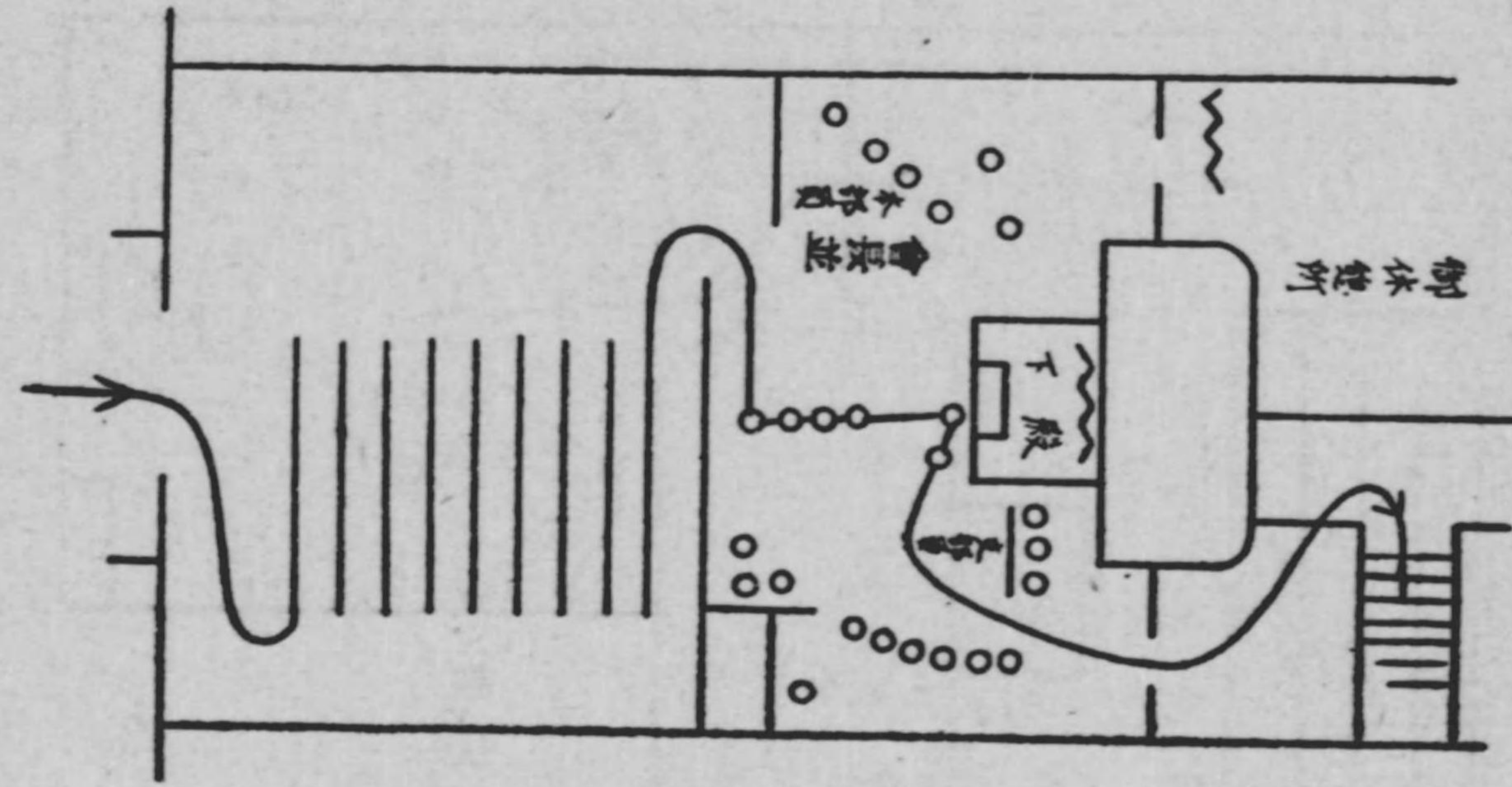
下編 主要圖

總會式場略圖



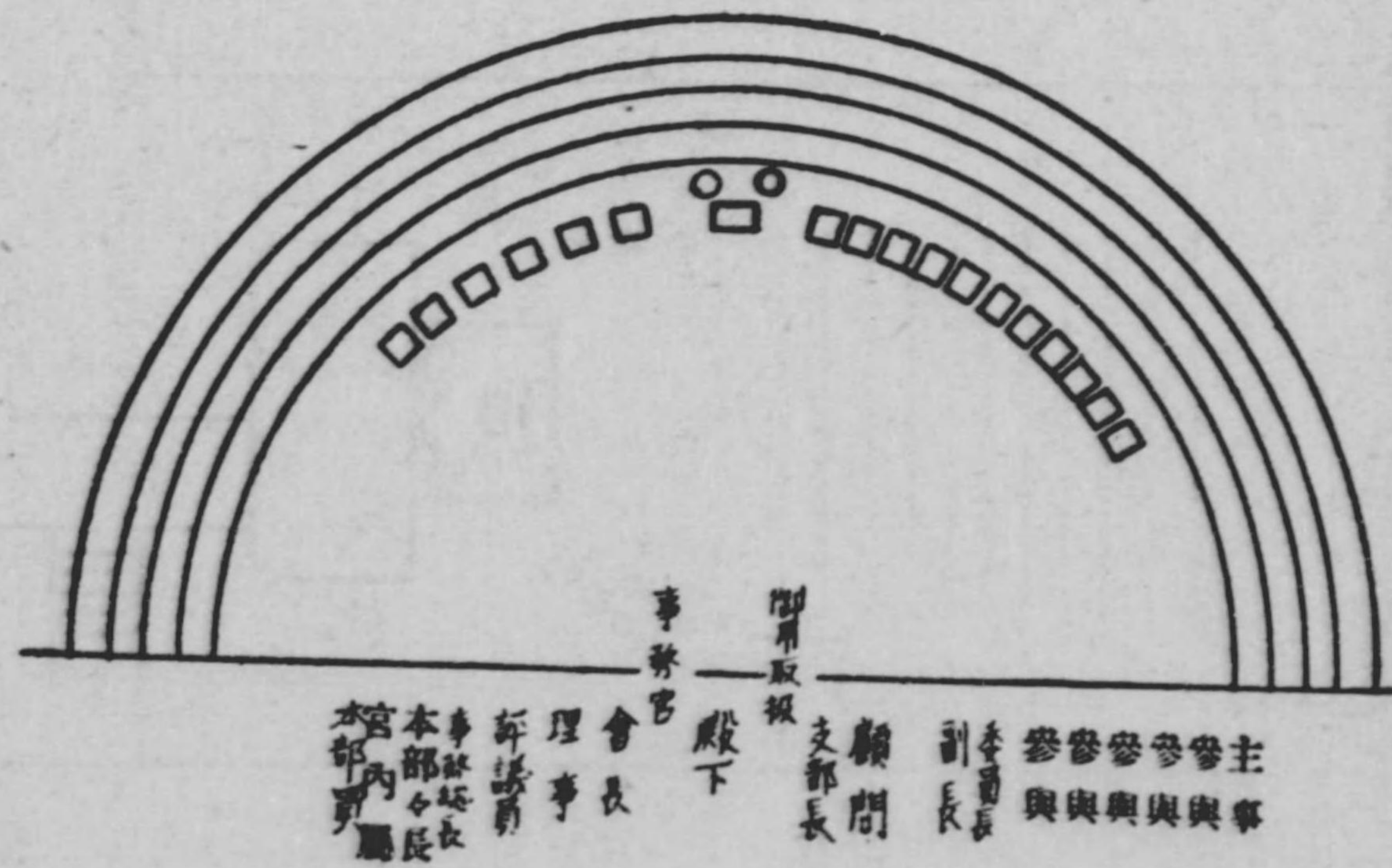
四五五

御親授代場略圖



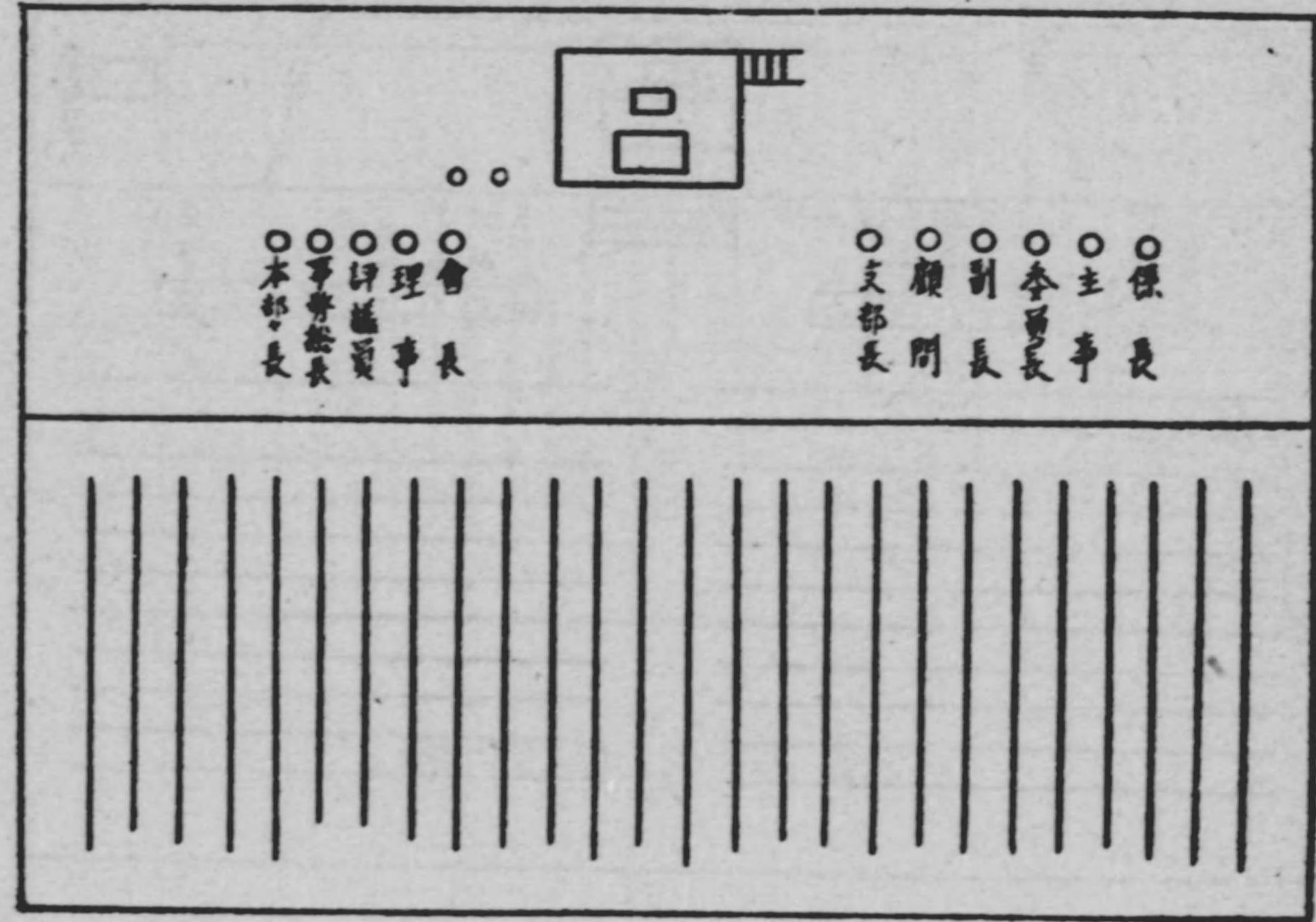
下編 主要圖

御寫眞撮影所



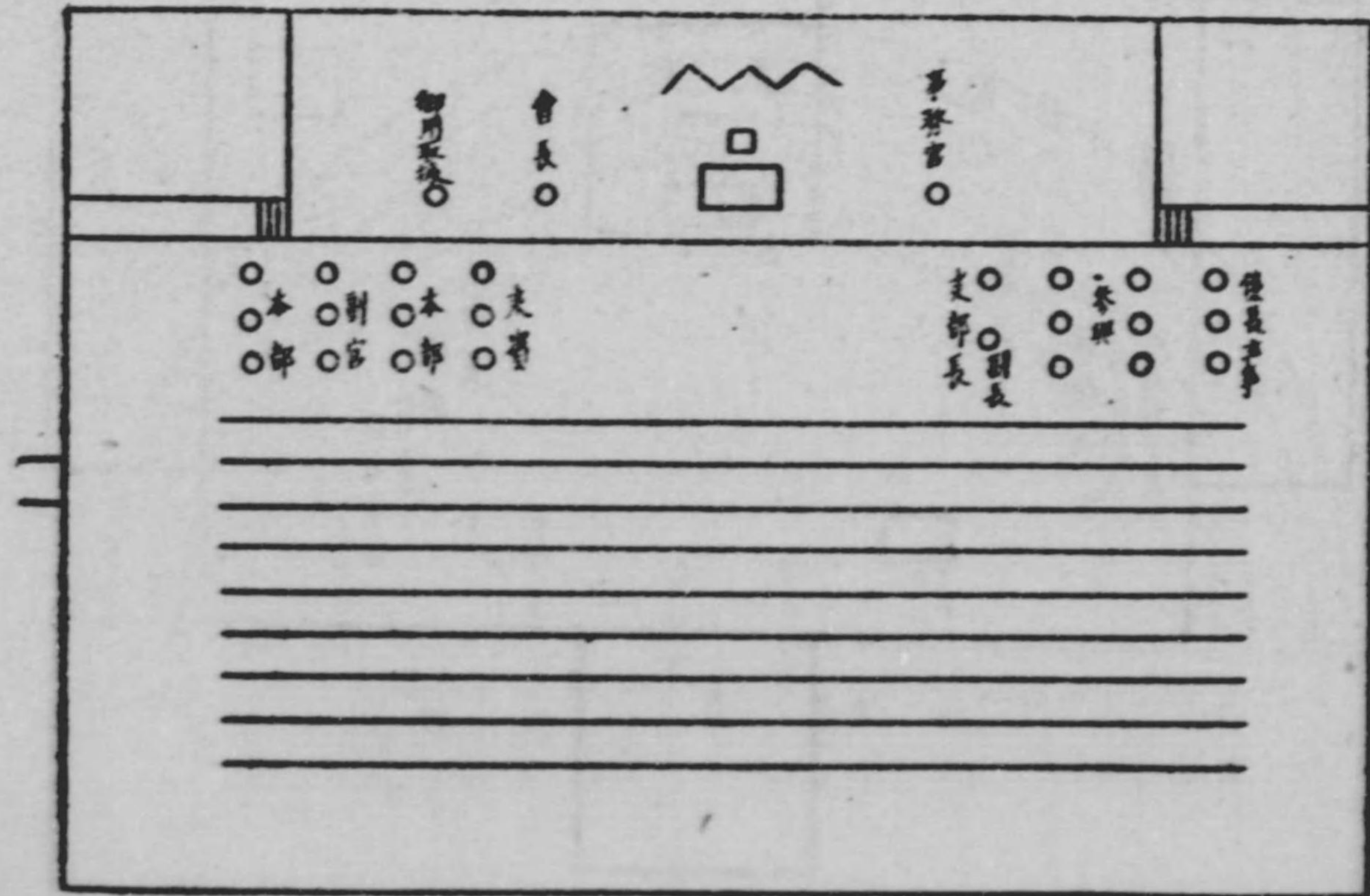
三五四

女子團御視閱式場略圖



下編 主要誌

傷軍人安慰會場略圖



三五六

五月二十一日

御道筋

1 広島驛ヨリ御泊所へ

驛前ヨリ——猿猴橋——京橋——八丁堀電車道路ニ出デ、左折——八丁堀停留所ヨリ右折——紙屋町交叉點ヲ眞直ニ西ニ通過シテ——大手町一丁目ヨリ左折——三丁目御泊所

五月二十二日

1 御泊所ヨリ御親授式場へ

御泊所——大手町四丁目新橋通ヲ左折——白神社停留所ヨリ右折——広島市役所南角ヲ廻リテ國泰寺町市役所裏ヲ北上シ愛國婦人會広島縣支部

2 式場ヨリ記念御撮影場へ

広島縣支部前ノ道路ヲ北上シ縣女西門ヨリ撮影所へ

3 記念御撮影場ヨリ山陽記念館へ

縣女西門ヨリ縣女ニ沿フテ北上——總務部長官舎ヨリ左折——記念館

4 山陽記念館ヨリお茶會場へ

總務部長官舎西側ヲ小町ニ出テ縣女西南角ヲ左ニ廻リテ南ヨリ縣立高女正門ニ入ル

5 お茶會場ヨリ御泊所へ

縣立高女正門ヨリ南へ小町ヲ通りテ電車路白神社停留所ヨリ新橋通り大手町四丁目ニ出デ北上御泊所

下編 主要誌

三五七

6 御泊所ヨリ

五月二十三日

- 1 御泊所ヨリ陸軍病院へ  
御泊所——大手町一丁目電車路ヨリ招魂社鳥居ニ入りテ舊幼年學校前ヲ西ニ——轡重兵營門前ヲ通りテ陸軍病院正門ニ入ル
- 2 陸軍病院ヨリ廣島招魂社へ  
病院ヨリ轡重兵營門前——舊幼年學校前——招魂社
- 3 廣島招魂社ヨリ産業獎勵館へ  
招魂社——鳥居ヲ通りテ電車道路ニ出テ右折シテ赤十字社支部ノ前ヨリ獎勵館正門へ
- 4 獎勵館ヨリ子女團御視閲場へ  
産業獎勵館——元安橋ヨリ横町——革屋町停留所ヨリ右折——白神社停留所ヨリ左折——小町縣女南側ヲ通りテ縣女正門へ入ル
- 5 子女團御視閲場ヨリ御晝餐所へ  
縣立高等女學校正門ヨリ東寺町——富士見橋ヨリ左折昭和大道路ヲ東ニ京橋川土手ニ出テ右折シテ山本邸御着
- 6 御晝餐所ヨリ總會場へ  
山本邸ヨリ大學グラウンド北側ニ出テ千田小學校南側ヨリ電車路ニ出テ鷹野橋——明治橋——住吉橋——觀音橋ヲ渡リテ西へ——第二中學校正門ニ入ル
- 7 總會場ヨリ御泊所へ

第二中學校正門ヨリ——觀音橋住吉橋——明治橋ヲ渡リテ大手町九丁目ヨリ大手町ヲ北上御泊所ニ御歸還

8 御泊所ヨリ御賜餐場へ  
御泊所ヨリ——大手町一丁目——電車道路ニ出テ右折シテ東ニ紙屋町停留所ヲ過ギ偕行社ニ入ル

9 偕行社ヨリ御泊所へ  
偕行社ヨリ電車道路ニ出テ右折——紙屋町交叉點ヲ眞直ニ西ニ通過シテ大手町一丁目ヨリ左折——御泊所ニ御歸還

五月二十四日

- 1 御泊所ヨリ廣島驛へ  
御泊所——大手町一丁目電車道路ニ出テ東ニ八丁堀停留所ヨリ左折——京橋口ヨリ右折——京橋——猿猴橋ヲ渡リテ左折——廣島驛御到着
- 2 吳驛ヨリ吳海軍病院へ  
驛前ヨリ右折——海軍第一門ニ入りテ左折海軍病院正門ニ入ル
- 3 海軍病院ヨリ吳市分會總會場へ  
病院ヨリ第一門ヲ出テ——本通五丁目ヨリ左折——市役所前ヲ通り——市立高等女學校ヲ北ニ廻リテ——公園道路ヲ北上——公園ニ入ル
- 4 總會場ヨリ子女團御視閲場へ  
總會場ヨリ——吳市立高等女學校公園通り正門ニ入ル
- 5 子女團御視閲場ヨリ水交社へ  
高等女學校ヨリ

- 6 第一門前ヨリ水交社ニ入ル
- 7 吳鎮守府長官々舎ヨリ吳驛へ
- 8 第一門ヲ出テ、左ニ廻リ龜山橋ヲ渡リ吳驛へ
- 9 福山驛ヨリ鞆町へ
- 10 驛前ヨリ市役所東側——霞町——地吹町——鞆街道——鞆町へ

五月二十五日

- 1 鞆町ヨリ福山市へ鞆御泊所ヨリ——鞆街道——地吹町——霞町——市役所東——驛前通り福山紡績第一工場前ヨリ
- 2 東ニ廻リ消防屯所前ヲ左折シ驛東一番踏切リテ越シテ左折シ安部別邸ニ至ル
- 3 安部別邸ヨリ福山城へ
- 4 安部別邸ヨリ福山城東昇リ口
- 5 福山城ヨリ縣女へ
- 6 公園東下リ口ヨリ公園下ヲ通りテ縣女へ
- 7 縣女ヨリ誠之館へ
- 8 公園下ヲ通りテ東ニ誠之館中學ニ至ル
- 9 分會總會場ヨリ陸軍病院へ
- 10 陸軍病院ヨリ工業試験場へ
- 11 工業試験場ヨリ福山驛へ

乙、總會第一日(五月廿一日)

總裁殿下御安着、榮光各所に輝く

二十三年振りに 總裁殿下を迎へ奉る光榮の支部總會の日が遂に來た。五月二十一日午前八時半廣島驛發の上り列車にて安岡知事代理(富田知事は長官會議にて上京不在)小菅警察部長は富田支部長、安岡支部副長、土居主事と共に岡山驛に御出迎へ申上げ、總裁東伏見宮妃殿下には御途上御障りもあらせられず、倉賀野事務官、島御用取扱以下隨員並に本野會長、小原事務總長等扈從し奉り午後五時十一分廣島驛に御安着あらせられ、驛頭には板垣師團長、光田學務部長、横山廣島市長其の他市内顯官各學校長並に板垣顧問、濇田參事、山本評議員以下各評議員、二等有功章佩用者以上子女團長等奉迎、富田支部長御先向申し上げ御降車あらせられ、岡上驛長の御先導に依りて奉迎者に一々御會釋を賜ひ、構内貴賓室にて暫し御休憩遊ばされ午後五時十五分御召自動車にて御機嫌麗はしく一路御泊所吉川旅館に向はせらる、此の日全市は國旗を掲揚して奉迎の赤誠を披瀝し、驛前には有功章佩用者堵列し、それより御道筋猿猴橋、京橋、八丁堀紙屋町、大手町御泊所に至る沿道には各學校生徒兒童及び御泊所近く愛婦會員堵列奉迎申し上げた。御泊所に於て安岡知事代理、富田支部長、安岡支部副長、土居主事に單獨拜謁を賜はり光榮に感泣して退下した。

一、本會扈從員

- |        |       |      |      |
|--------|-------|------|------|
| 會長     | 本野久子  | 監事   | 大倉繁子 |
| 評議員    | 柴田いよ子 | 事務總長 | 小原新三 |
| 參事     | 清水惠   | 副參事  | 八重樫壽 |
| 下編 主要誌 |       |      |      |

副參事 北谷 亮

一、官家隨員

事務官	倉賀野 明	御用取扱	鮫 島 豊 子
宮内屬	影山 俊一	宮内屬	小口 良 武
侍 女	二 名		

總會第二日(五月廿二日)

(一) 御親授式

掃き清められたる新装の支部新館玄関兩脇には參與評議員並列して御着をお待ちする、颯て午前九時五分御召自動車は  
之る如く御安着、富田支部長の御先導にて階上貴賓室に入らせらる、御少憩の後有資格者に單獨拜謁を賜ひ續いて列立  
拜謁を賜ふ、安岡顧問代理 殿下の御前に進み恭しく御禮を言上す。

御禮言上

今回愛國婦人會廣島縣支部第三回會員總會に際しまして縣下有資格者に對し厚き御恩召を以て拜謁の光榮を賜はり  
誠に恐懼感激の至りに堪へませぬ、茲に一同を代表いたし謹みて御禮を言上致します。

(單獨拜謁者) 支部長富田花子、支部副長安岡れい、顧問板垣喜美、參與安岡正光、主事土居肩吉、第五師團長板垣征

四郎、廣島控訴院長櫻田壽、陸軍運輸部長松田養平、廣島高工校長長俊一、廣島稅務監督局長中村應、廣島地方專賣  
局長武部弘成、廣島鐵道局長山田新十郎、在郷軍人聯合分會長河瀬健吉、廣島市長横山金太郎、縣會議長望月乙也、  
縣學務部長光田信、土木部長長谷川勝伍、警察部長小菅芳次、經濟部長鈴木修藏、愛婦廣島縣支部參與柏四郎九、同  
參事澁田冬子、評議員山本園子、吉田ゆう、中村文子、熊平うら、谷野茂登、光田富子、横山トヨ、倉田綾子、早水  
マス、安達ソモ、長谷川庸子、松田てつ子、小菅文江、三宅カツ、鈴木美也子、岡崎千賀子、重藤ソルエ、武内久代  
佩有功章者川谷真規、新林健造、柳田八重子、荒谷イロ、今野イソ、竹内ジョウ、齋藤恒彦の四十六氏

(列立拜謁者) 一等有功附加章小松マツノ外十二名、一等有功章山根ヒデ子外三十五名、町村分會顧問永田轟外十名、  
計五十七氏

午前九時四十五分より本野會長、本部員並に富田支部長、安岡、板垣兩顧問、安岡副支部長、侍立し一千九百三十二名  
に有功章を御親授あらせられ午後二時拜受を終る。

特別有功章拜受者 藤野あさ子、藤野千代子、藤野セキノ、倉田綾子、山口秀代、菅トモ子、小松マツノ、宮下文子、  
太田園子、熊平ウラ、廣井以忠、菅重次郎

有功章拜受者市郡別表





當支部は縣下婦人の赤誠に燃ゆる報國精神の顯現を如實に示すべく茲に第三回會員總會開催のことを提唱致しましたところ、各市町村共聲に和して奮起せられ新入會員並に會費補助の篤志者多數に上り、本日有功章を拜受せられたるもの一千六百餘人會員數十萬人を超ゆるの盛況を呈するに至りましたことは之れ偏へに、總裁殿下御高德の餘澤にして洵に感激に堪へない次第であります。亦一面皆様の賢明なる御理解と好意ある御盡力に依りたることでありまして、婦人報國のため御同慶に堪へざると共に深く感謝の意を表する次第であります。

茲に 殿下を迎へ奉り皆様と共に親しく御尊顔を拜し奉りて無上の光榮に感激いたして居ります。一層協心戮力益々會運の隆昌に努め會業の擴充に盡しまして以て御諭旨に副ひ奉り本日の光榮に答へ奉らんと存じます。何卒皆様に於かれまして今後一層の御盡力と御援助を下されます様切に御願ひ申し上げます。一言申し述べまして御挨拶と致します。

愛國婦人會廣島縣支部顧問 廣島縣知事 富田愛次郎

(四) 農村藝術台覽 本日午後富田縣知事は、有功章御親授を了へさせられたる 殿下御慰勞のため、羽田別荘に御案内申し上げ、農村藝術たる、縣下山縣郡王生町の田植踊りを台覽に供せられしが、殿下には殊の外御興深く御觀賞遊ばされ御機嫌麗はしく拜した。

總會第三日(五月二十三日)

(一) 陸軍病院慰問あらせらる 二十三日午前中廣島陸軍病院に白衣の勇士を慰問遊ばされ、院長室にて板垣師團長、齋藤軍醫部長、武田病院長に單獨拜謁を賜はり、病院長の御先導により親しく勇士を御慰問御懇ろなる御言葉賜はり、且それ〴〵御紋菓を賜はつた。

(二) 官祭廣島招魂社御参拜

(三) 産業獎勵館に成らせらる 常に婦人報國に御心を注がせ給ふ 殿下には、産業御獎勵の思召により廣島産業獎勵館に成らせらる、峰松館長御先行陳列の縣下重要産物につき御説明申上げたが、其の官島細工の實技の輕妙なるに笑ませ給ひ御機嫌麗はしく台覽を終らせられたのであつた。

(四) 愛國子女團御視閲 本縣に於ける子女團は、全國に魁けたもので、團數四十、團員一萬七千名に及びしが、今回支部總會に當り長くも、御視閲を賜ふこととなり、廣島地方集合の十四團廣島市内廣島縣女、進徳、山中、女學院、西高女愛仁女校の六校の他市外江田島、津田、可部、吉田、三次、上下、賀茂、河内の八校の團員四千六百餘名は廣島縣女校庭に整列して只管 殿下御着の時を待ちたりしが、折悪しくも御着の頃より天候不良となり、小雨を降り來り遂に校庭に御視閲を仰ぐこと不能となり、俄かに講堂及雨天體操場に變更せしため多數の團員は、雨を恨みて一ト先づ解散し各校代表のみ約一千名御視閲を受くることとなり講堂と體操場とに整列御待ち申し上げし所、清水縣女校長御先行支部長御先導式場に成らせられ、海軍々樂隊の國歌奏樂、一同最敬禮の裡に御視閲の光榮に浴し、清水團長より御禮を言上し愛國子女團歌を合唱して式を終り、別室に陳列の團員の成績品をいと御熱心に御台覽遊ばされた。

愛國子女團御視閲式ニ於テ支部長言上

當支部管内愛國子女團ノ數ハ四十團デ御座イマシテ團員總數ハ一萬七千五百五十三名デ御座イマス

本日御視閲ノ光榮ニ浴シマスル子女團ハ十五團六千九百二十名デ御座イマス右謹ミテ言上シ奉リマス

昭和十二年五月二十三日

廣島婦人會廣島縣支部長 富田花子

子女團代表御禮言上

總裁殿下ニハ畏クモ愛國子女團ノ御視閲ヲ賜ハル洵ニ恐懼感激ノ至リニ堪ヘズ團員一同益々奮勵其ノ使命ノ達成ニ努メ以テ本日ノ光榮ニ酬ヒ奉ランコトヲ期ス  
右一同ヲ代表シ謹ミテ御禮ヲ言上シ奉ル

昭和十二年五月廿三日

廣島高等女學校愛國子女團長 清水芳徳

殿下には子女團の御視閲を終らせられて御晝餐所中國新聞社長山本實一氏邸に成らせられ、太田の清流注ぐ京橋河畔の雨景を殊の外賞でさせながら山本副社長令嬢三代子さん等の御給仕にて晝餐を召させられたる後家族に記念撮影を給ひ午後一時總會場に向はせられた。

(五) 支部總會の事は切つて下さる 縣下十三萬會員待望の時は来た、朝來打揚ぐる煙火に市内は全く總會氣分に浸り、縣

下より集まる會員は午前十時より會場に押し寄せ十一時には六千坪の會場は既に立錐の餘地なきに至れり、夜來低迷せる暗雲は遂に此頃より雨脚を見せたるが二萬の會員は去らんとせで只管開會の時刻を待てり。午後一時十分一發の號報は高く轟き 殿下の御着を告ぐ場内肅として聲なし、殿下には富田支部長の御先導にて御休憩所に入らせられ、吉本學校長に單獨拜謁を賜はりたる後、同校運動場なる會場に成らせられた。富田支部長開會を言上し開會の辭を述べて安岡副支部長會務を報告し 殿下より有難き御諭旨を賜ひ支部長奉答、本野會長の祝辭の後、殿下は傷痍軍人、軍人遺族總代へ特別御下賜金御親授あらせられ、本野會長より篤志會員に表彰狀贈與、富田支部長より優良分會へ彰功牌、特別會員總代に表彰狀を贈與したる後、支部長より總會終了の旨言上して盛大裡に總會の式を終了した。

論 旨

愛國婦人會廣島縣支部第三回會員總會ニ臨ミ親シク諸氏ト相見ルヲ欣ブ  
當支部ハ諸氏ノ熱誠ナル努力ニ依リ近時著シク會勢ノ伸暢ヲ見ルト共ニ軍事後援其他各般ノ施設宜シキヲ得  
着々其ノ實績ヲ擧ゲツ、アルハ深ク満足スル所ナリ  
惟フニ現下ノ國情ト社會ノ趨向トハ本會活動ノ力ニ俟ツベキモノ甚ダ多シ諸氏宜シク一致協力奉公ノ赤誠ヲ  
效シ愈々會務ノ擴充ニ努メ以テ婦人報國ノ使命ヲ達成セムコトヲ望ム

昭和十二年五月二十三日

愛國婦人會總裁 故依仁親王妃勳一等 周

子

奉 答 文

本日愛國婦人會廣島縣支部第三回會員總會ヲ開クニ當リ畏クモ 總裁殿下ノ御台臨ヲ辱フシ且ツ優渥ナル御諭旨ヲ賜フ當支部ノ光榮何モノカ之ニ過ギン抑々會運今日ノ隆昌ヲ見ルニ至レルモノ一ニ 總裁殿下御高德ノ賜ニシテ洵ニ恐懼感激ノ至リニ堪ヘズ會員一同協心戮力益々奮勵シテ會勢ノ擴張ト事業ノ進展トニ努メ以テ御諭旨ノ萬一ニ副ヒ奉ランコトヲ期ス謹ミテ奉答ス

昭和十二年五月二十三日

愛國婦人會廣島縣支部長 富田花子

會長 祝辭

愛國婦人會廣島縣支部ガ今回 總裁殿下ノ台臨ヲ仰ギ奉リ茲ニ第三回會員總會ヲ開催セラル、ニ至リマシタ事ハ誠ニ慶賀ニ堪ヘナイトコロデ御座イマス。

當支部ハ内外交通ノ要路ニ當リ自然出動軍隊及ビ傷病兵或ハ戰病死者遺骨ノ迎送等會務繁劇ナル多ク他ニ其ノ比ヲ見ザル所ナルニ拘ラズ、支部長始メ役員並會員御一同ノ熱誠ト御努力ニ依リ軍事後援ノ任務ヲ完フシ、先ニハ縣及市町村當局共ノ他ノ多大ナル御援助ニヨリ分會ノ組織ヲ整備シテ其ノ活動ヲ促シ、今又會勢ノ急激ナル進展ヲ見ルニ至リマシタ事ハ眞ニ感謝措ク能ハザルトコロデ御座イマス。

惟フニ國家ノ現狀ト社會ノ趨勢トハ益々本會ノ活動ヲ促シテ止マナイモノガ御座イマス。私共婦人ハ一致結束シテ愈々忠誠ノ實ヲ擧ゲ、各其ノ分ニ應ジテ懸命ノ奉仕ニ立チ上ラナクレバナナイト存ジマス、就キマシテハ皆様方ニ於カセラレマシテハ何卒今日ノ成功ニ安ンゼズ一層會員ノ結束ヲ固ウシ、戮力協心更ニ大イニ會務ノ擴張ト之ガ充實トニ努メ以テ本會使命ノ達成ニ御邁進下サイマス様切ニ御願ヒ申シ上ゲル次第デ御座イマス。

茲ニ一言ヲ述ベテ祝辭トイタシマス。

愛國婦人會長 本野 久子

特別御下賜金拜受者

- 一、傷痍軍人 陸軍歩兵少尉大塚彌七殿外五八名
- 二、軍人遺族 陸軍砲兵大尉林政富妻林萬壽殿外三一六名

本會長表彰

一、成績優良分會

佐伯郡觀音村分會	同	平良村分會	同	飛渡瀬村分會	同	石内村分會
安佐郡川内村分會	同	山縣郡雄鹿原分會	同	吉坂村分會	同	高田郡横田村分會
賀茂郡御蘭字分會	同	寺西村分會	同	郷田村分會	同	坂城村分會
比婆郡敷信村分會						

二、一家四人以上の終身會員を有する篤志家庭

廣島市 今野イソ	會員及贊助員八名	賀茂郡下野村	村上ヒナ	會員	七名
廣島市 武内久代	會員	吳市	桑原チサト	同	五名
賀茂郡川尻町 中野ソノ	同	御調郡羽和泉村	恩地リエ	同	五名
廣島市 中村ノブ	同	廣島市	宮本ケイ	同	四名
同 古川ウメ	同	同	大野カネ	同	四名
同 本田忍	同	吳市	三宅カツ	同	四名
吳市 三宅チカノ	同	福山市	安部フミコ	同	四名
佐伯郡平良村 枝松ハル	同	佐伯郡河内村	田中タマ	同	四名
同 石内村 吉田チヨメ	同	豊田郡御手洗町	頼田カツヨ	同	四名

三、一家三名以上の終身會員を有する篤志家庭



豊田郡大長村 新谷 トマ  
 同 瀬戸田町 谷本 ソネ  
 沼隈郡藤江村 桑木 政恵  
 蘆品郡新市町 千葉 ミツ  
 同 中山 ヒデ  
 比婆郡東城町 生熊 イソ

豊田郡御手洗町 木村 御代子  
 御調郡田熊村 岡野 チャウ  
 蘆品郡新市町 福原 マサ  
 同 出原 須磨子  
 比婆郡希釋村 木村 カツ

支部長表彰

一、特別表彰 一家八名の佩有功事者ある家庭

廣島市千田町一丁目今野イソ氏に對し記念品として花瓶を贈呈

二、一家六名以上の會員を有する家庭

廣島市 久保オスエ	會員 八名	廣島市	小林チカノ	同	七名
賀茂郡下野村 村上ヒナ	同 七名	同	谷川タメ	同	六名
廣島市 渡邊可子	同 六名	同	頼田カズヨ	同	六名
御調郡羽和泉村 恩地リエ	同 六名				

三、會員歩合優良分會

金色彰功牌授與(會員歩合百分ノ廿五以上ノモノ)

安藝郡戸塚村分會	佐伯郡五日市分會	同	石内村分會	同	河内村分會
同 八幡村分會	同 觀音村分會	同	平良村分會	同	飛渡瀬村分會
安佐郡川内村分會	山縣郡八幡村分會	同	雄鹿原分會	同	吉坂村分會
高田郡横田村分會	賀茂郡西條分會	同	吉土實分會	同	御蘭字分會
同 寺西分會	同 川上村分會	同	郷田村分會	同	坂城村分會
同 上黒瀬分會	同 乃美尾村分會	同	中黒瀬分會	同	下黒瀬分會
同 西高屋分會	豊田郡田萬里小谷組合分會	御調郡八幡村分會	雙三郡和田村分會		
比婆郡敷信村分會					

銀色彰功牌授與(會員歩合百分ノ十五以上ノモノ)

安藝郡海田市町分會	同 瀬野村分會	同	矢野町分會	同	上蒲刈島村分會
佐伯郡玖波町分會	同 砂谷村分會	同	水内村分會	同	津田町分會
同 吉和村分會	同 大柿町分會	同	安佐郡長束村分會	同	安村分會
同 伴村分會	同 久地村分會	同	鈴張村分會	同	大林村分會
同 三入村分會	同 中原村分會	同	深川村分會	同	福木村分會
同 落合村分會	山縣郡加計町分會	同	上殿村分會	同	戸河内町分會
同 大朝町分會	同 南方村分會	同	本地村分會	同	原村分會
同 安野村分會	高田郡郷野村分會	同	來原村分會	同	三田村分會

賀茂郡吉川村分會	同	郷原村分會	同	廣村分會	同	仁方町分會
同 内海町分會	同	三津町分會	同	竹原町分會	同	下野村分會
同 賀永村分會	同	造賀村分會	同	東志和村分會	同	豊田郡忠海町分會
同 吉名村分會	同	木谷村分會	同	久友村分會	同	大長村分會
同 御手洗町分會	同	中野村分會	同	高根島村分會	同	瀬戸田町分會
同 東生口村分會	同	名荷村分會	同	御調郡河内村分會	同	今津野村分會
同 坂井原村分會	同	大濱村分會	同	土生町分會	同	世羅郡津久志村分會
同 小國村分會	同	上山村分會	同	同 吉川村分會	同	沼隈郡山波村分會
同 柳津村分會	同	田島村分會	同	深安郡神邊町分會	同	同八尋外二ヶ村組合分會
同 廣瀬村分會	同	蘆品郡河佐村分會	同	同 福相村分會	同	同 戸手村分會
同 雙三郡河内村分會	同	君田村分會				

表彰状

何郡何町村分會

常ニ會運ノ進展ニ留意セラレ其ノ成績優良ナリ依テ茲ニ支部表彰規程ニ依リ金色(銀色)彰功牌ヲ贈與シテ之ヲ表彰ス

昭和十二年五月廿三日

支部長

(六) 傷痍軍人慰安會 總會に續いて二中講堂で傷痍軍人千八十五名を招待して慰安會を行つた。殿下御台臨を賜はり一同

は尊顔を拜し、御下賜金或は御紋菓を頂き、御仁慈に感泣した。式後 殿下の有難き慰問の御言葉を傳達し漫才其の他の餘興ありて午後四時終了した。

支部長慰安の辭

總裁殿下ノ御許ヲ得マシテ一言御挨拶申シ上ゲマス。

愛國婦人會廣島縣支部第三回會員總會ニ際シ茲ニ傷痍軍人慰安會ヲ催フシマスルニ當リマシテ長クモ 總裁殿下ノ御台臨ヲ辱フ致シ洵ニ恐懼感激ノ至リニ堪ヘマセヌ、謹ミテ御禮ヲ言上致シマス。

來賓並名譽アル軍人ノ皆様本日ハヨウコソ御來臨下サレマシテ有難ク存ジ上ゲマス。

私共ガ君國ニ盡シマス誠忠ノ途ハ色々アルコトデ御座イマスガ、凡ソ一身一家ヲ犠牲トシ一命ヲ捧ゲテ御奉公致スコト程大キナル御奉公ハナイト存ジマス。コノ尊キ御奉公ニ對シマシテハ國民擧ツテ全幅ノ感謝ヲイタス次第デ御座イマス。皆様ハ護國ノ第一線ニ立タレマシテ遠ク敵地ニ渡リ進ンデハ敵線ヲ潜リ劍戟ヲ交ヘ止ツテハ寒暑風土ト戦ヒ、所謂一家ノ存亡ヲ顧ル遑モナク一身一命ヲ捧ゲテ御奮闘ナサレマシタ盡忠無二ノ方々デ御座イマシテ、皆様ノ胸ニ下デラレマスル勳章ノ前ニハ自ゾト頭ガ下ルノデ御座イマス。我ガ愛國婦人會ハ皆様ニ對シテ滿腔ノ謝意ト更ニ援助イタスベキ誠意トヲ持チマシテ明治三十四年來陰ニ陽ニ及バズナガラモ感謝ノ誠ヲ效シ援助ノ事實ニ精進イタシテ居ルノデ御座イマス。皆様ハ名譽ノ負傷トハ申シナガラ定メシ萬事ニツケテ御不自由ニ入ラセラレルコト、察シマス、モシ私共ノ力ニ添フベキコトガ御座イマスナラバ遠慮ナク御相談ニ預カリタイト存ジマス。茲ニ皆様ト共ニ親シク總裁殿下ノ御尊顔を拜シ奉リコノ光榮ノモトニ皆様ノ御慰安ヲイタシマスコトハ偏ニ 殿下御仁慈ノ賜デ御座イマ

シテ洵ニ恐懼感激泣ノ極ミテ御座イマス。何卒皆様ハ此上トモ御身ヲ厭ハセラレマシテ永ク誠忠ノ範ヲ示シテ後人ヲ御導キ下サレ餘生ヲ全ウセラレンコトヲ御祈リイタシマス。コレヲ持チマシテ御慰問ノ御挨拶トイタシマス。

(七) 御賜餐會の光榮 殿下には二十三日午後五時より、廣島偕行社に於て御賜餐の御催しあり、支部長、顧問、參與、參事、評議員、一等有功章附加章以上の佩用者、其他縣市各部課長、師團長、旅團長、部附少將、運輸本部長、吳海軍部内其他團體長、市長、代議士、縣會議長、學校長、地方名士等二百十二名御賜餐の光榮に浴し、富田顧問より御禮言上し、本野會長祝詞ありて、廣島市長横山金太郎氏謹話申し上げ午後六時諸員奉送裡に御機嫌麗はしく御歸還あそばされた。

御賜餐場ニ於ケル富田顧問御禮言上

殿下ノ御許ヲ得マシテ御賜餐ノ光榮ニ浴シマシタル一同ニ代リ謹ミテ御禮ヲ言上致シマス。今回愛國婦人會廣島縣支部總會開催ニ方リ畏クモ 總裁殿下ニ於カセラレマシテハ四月四國九州三縣ノ支部總會ニ台臨アラセラレ續イテ本月初旬本部總會ヲ行ハセラル、等實ニ御多端御繁用ニ涉ラセラレ御休養ノ御時モアラセラレザルニモ拘ラズ、本縣支部事業御獎勵ノ難有御思召ヲ以テ 御台臨ノ御許ヲ蒙リ昨日ハ午前午後ニ涉リテ多數ノ有功章會員ニ御手ヅカラ有功章ヲ御親授遊バサレ、本日ハ總會ニ於テ有難キ 御諭旨ヲ賜ヒ其ノ他子女團ノ御視閲 病院ニ時局患者ノ御慰問、傷痍軍人慰安會ニ成ラセラレタル等數々ノ光榮ニ浴シ一同恐懼感激致シテ居ル次第アリマス。然ルニ今夕ハ更ニ厚キ御思召ヲ以テ賞支部功勞者並ニ平素本會ニ對シ御援助下サル地方有力者多數御召ヲ蒙リ 御陪食ノ恩命ニ浴シマシタルコトハ洵ニ光榮ノ至リデアリマシテ一同恐懼ニ堪ヘヌトコロデアリマス。今後一層微力ヲ盡シマシテ本會使命ノ達成ニ努メ以テ

御思召ノ萬一二副ヒ奉ランコトヲ期シマス。謹ミテ御禮ヲ申シ上ゲマス。

總會第四日(五月廿四日)

廣島市に於ける第三回支部會員總會の諸行事滞りなく終了して本日は吳市分會總會に 御台臨を仰ぎ奉る、昨日來の雨尙止まず一同恐懼して御泊所に伺候し奉れば 殿下には午前八時五十分御泊所を立たせられ沿道奉送の會員、各學校生徒に御會釋を賜ひつゝ、廣島驛に御着、廣島驛まで御出迎へ申し上げたる吳市水野分會長並に水野顧問に車中 拜謁を賜はり、午前九時五十六分吳驛に御安着、貴賓室にて加藤吳鎮守府司令長官以下奉迎の諸員に 拜謁を賜はりて富田支部長御先導吳海軍病院を慰問あらせらる。

吳市分會總會に御台臨

午前十時五十分水野吳市分會顧問御先行富田支部長御先導二河公園總會場に御着あらせらる。今日の光榮に浴せんものと雨にも拘はらず參集せる會員一萬餘人、高齢者は莫産席に正座し、麗はしき 御顔を拜みて感泣奉迎せり。總會は富田支部長祝詞を述べ水野分會長御禮言上して式を終はり雨中をも御厭ひもあらせられず 殿下には吳市立高等女學校に集合せる吳市地方愛國子女團(吳縣女、吳市女、吳精華、丸橋高女、土肥高女、吳市立實科、藝陽實科、竹原高女、忠海高女廣實科、江田島實科の十一團)の御視閲を賜はり一同恐懼感激泣し奉つた。それより御晝餐所吳水交社に成らせられて、菅原海軍病院長、本野會長、富田支部長、富田顧問、安岡委員長、安岡支部副長、水野吳市分會長、土居主事其他隨員等に御陪食を賜はり、いと御機嫌麗はしく御物語らせられ、記念寫眞御撮影を賜はつた。此の頃より雨も霽れ上り午後一時五

十三分吳驛御發軔町に向はせらる、沿道の各驛には地方分會長會員奉迎送申し上げ 殿下には車窓より御優しく 御言葉  
を賜はり一同有難き光榮に感泣した。

吳市分會總會支部長祝詞

吳市分會ハ本日 總裁殿下御立寄りノ光榮ヲ辱フシテ茲ニ第七回會員總會ヲ開催セラル洵ニ慶賀ノ至リニ堪ヘマセヌ  
當分會ハ分區組織ノ整備ト共ニ役職員皆様ノ一致協力セル御奮勵ニヨリテ大都市稀ニ見ル統制アル御活動ヲナサレ、  
今回新ニ入會セルモノ六千人ヲ數ヘ會運益々隆昌ニ赴キ殊ニ海軍都市トシテ常ニ入團兵ノ送迎、艦隊ノ接待ニ努メラ  
レ且ツ毎年廣島陸軍ノ慰問ヲ怠ラレタルコトナク其他出動軍人並遺家族ノ慰藉扶助等軍事後援ニアラユル懸命ノ努力  
ヲ盡サレ一面報國運動社會施設ニ至リテモ率先共ノ範ヲ示シ或ハ他ノ團體ト協力シテヨク奉公ノ使命ヲ遂行セラル、  
等、着々トシテ其ノ實績ヲ擧ゲラレツ、アルハ全ク役職員ノ努力ト共ニ、市當局ノ御指導市内有志ノ理解アル御援助  
ニ依ルコトハ勿論ナルモ又會員諸姉ノ時勢ニ目覺メラレタル婦人報國ノ熱烈ナル御誠意ニ基クモノニシテ深く感激致  
ス次第御座イマス。

惟フニ現時ノ國情ハ彌々婦人結束ノ力ニ俟ツモノ多ク本會ノ使命ハ益々重キヲ加ヘマス、何卒皆様一層赤誠を披瀝致  
サレマシテ會業ノ振興ニ勉メラレ以テ畏キ 御令旨御諭旨ニ副ヒ奉ラレシコトヲ冀望スル次第御座イマス。  
此ノ光輝アル盛大ナル分會總會ニ列席致シ一言申述ベマシテ祝詞ト致シマス。

愛國婦人會廣島縣支部長 富田 花子

軔町御泊所御着

午後三時五十二分福山驛御着、雨後の澄み入りたる軔街道を進ませられ同四時三十分御泊所軔町常盤旅館に御着あらせ  
られた。軔町分會は 總裁殿下御泊の光榮に感激し御旅情を御慰め奉らんものと同夜は五色の燈籠流しをなして海峽一面  
火の海の景を御覽に供し、翌日は名物鯛網を御覽に供したるが何れも殊の外御興深く御覽あそばしたるやに拜し奉つた。

總會第五日(五月廿五日)

殿下には朝御早く瀬戸内海公園の仙醉島に上らせられ、澄み渡りたる内海の風景を賞でさせられ、午前十一時二十分軔  
町御發福山に成らせられ、午後一時福山城に御立ち寄り市長中野有光氏より大演習當時 陛下御野立所等御説明申し上げ  
福山縣女にて東部愛國子女團の御視閲を賜ひ、福山市分會總會に 御台臨を仰ぎ、續いて福山陸軍病院を御慰問あそばさ  
れ、産業獎勵の思召を以て縣立福山工業試験場に立ち寄せ給ひたり。當日分會總會に於ける支部長祝詞は次の通りであ  
つた。

福山市分會總會支部長祝詞

福山市分會ハ本日 總裁殿下御立寄りノ光榮ヲ辱フシテ茲ニ第二回會員總會ヲ開催セラル洵ニ慶賀ノ至リニ堪ヘマセ  
ヌ。私共女性ガ一家ヲ整ヘ國家社會ニ盡シマス道ハ多々アルコトデ御座イマスガ、愛國婦人會員トシテ 總裁殿下ノ  
御諭旨ヲ奉戴シテ全國幾百萬人ノ御婦人ト共ニ一致結束婦人報國ノ一路ニ進ムコトガ最モ力強ク最モ大キナ御奉公デ  
アルト信ズルノデ御座イマス。

當福山市分會ハ役職員ノ御奮勵ト市當局ノ御指導トニヨリ市内有志ノ賢明ナル御理解ト御援助ヲ得テ年ト共ニ發展シ



今回更ニ多數ノ新入會員ヲ得マシタコトハ全ク當市御婦人ノ時勢ニ目覺メラレタル熱意ノ結果デ御座イマシテ深く感  
激致ス次第デ御座イマス。

惟フニ現時ノ國情ハ彌々婦人結束ノ力ニ俟ツモノ多ク本會ノ使命ハ益々重キヲ加ヘマス、何卒皆様本會ガ本日マデ懸  
命ニ盡シテ参リマシタ軍事後援並ニ報國運動社會奉仕等婦人報國ノタメ一層赤誠ヲ披瀝致サレマシテ會業ノ振興ニ勉  
メラレ以テ畏キ 御令旨御諭旨ニ副ヒ奉リ、本日 總裁殿下御台臨ノ光榮ニ酬ヒ奉ランコトヲ冀望スル次第デ御座イ  
マス。此ノ光輝アル盛大ナル分會總會ニ列席イタシ一言申シ述ベマシテ祝詞ト致シマス。

愛國婦人會廣島縣支部長 富田 花子

五月二十一日 殿下を本縣に迎へ奉りて以來五日間 殿下には本縣御台臨の御旅程を御滞りなく終へさせられ、いさ  
かの御障りもあらせられず御機嫌いと御麗はしく本日午後三時五十分諸員奉送萬歲聲裡に福山驛御乗車御歸京の途につか  
せ給ふ、富田顧問、富田支部長、安岡委員長、安岡支部副長、土居主事、其他各係長等は岡山驛まで奉送を爲し、富田顧  
問より最後の御禮を言上して一路御平安を御祈り申し上げた。

越えて六月十一日富田支部長は、土居主事を帯同して上京、常盤松の官邸に伺候して 殿下御台臨の光榮を拜謝し御禮  
を言上し奉りたるが 殿下より種々有り難き御言葉を賜はり恐懼感激して退下した。それより本部に本野會長、小原事務  
總長を訪問し、支部總會開催に當り御臨席の榮を得たることを謝し、且前後本部の多大な御指導と御援助とに對し深甚の  
謝辭を述べた。茲に二十三年來待望の第三回支部總會も滞りなく終了し縣下會員は 殿下の御高德に恐懼感激して、將來  
益々一致結束、婦人報國の至誠に邁進せんことを誓つたのである。

## 第六章 記念施設

### 第一節 本會創立三十五周年(昭和十一年)

本會創立三十五周年に方リ

總裁殿下より賜はりし御歌

もゝとせをかさねむまてもひたすらに  
みくにのためにつくせをみなら

#### (一) 記念式と表彰

昭和十一年三月二日は、本會創立三十五周年に相當せしが當支部は同月二十日を下し記念式を舉行した。當日は縣知事  
(代理)横山廣島市長、林師團長夫人、松田陸軍運輸部長夫人、米澤衛成病院長、中呂廣島市教育部長、市兵事課長、  
植木廣島市町總代聯合會長、天野、早水、柏の各元主事等多數貴賓の参列を得、左記の式次に依り記念式並功勞者の表  
彰を行ひ、尙式後濶田参事の「會祖を偲ぶ」といふ題下に講演があつた。

(I) 式次

- 一、被表彰者入場
- 二、來賓入場
- 三、一同敬禮
- 四、神宮並皇居遙拜
- 五、總裁殿下御影開扉奉拜
- 六、國歌合唱
- 七、皇后陛下令旨奉讀
- 八、總裁殿下諭旨奉讀
- 九、總裁殿下御影奉拜閉扉

- 一〇、支部長式辭
- 一一、本會感謝狀並記念品傳達
- 一二、支部表彰狀並記念品贈呈
- 一三、本會長祝辭
- 一四、來賓祝辭
- 一五、被表彰者總代謝辭
- 一六、記念講話
- 一七、一同敬禮
- 一八、式終了挨拶

(2) 被表彰者

本會よりの感謝狀並記念品傳達

支部 参事	温田 冬子
名譽評議員	倉田 久子
評議員	山本 國子
廣島市分會幹事	太田 園子
吳市分會幹事	池田 カネ

感謝 狀 (同文)

温田冬子殿

會務ニ對スル御功績顯著ナルヲ以テ本會創立三十五周年ノ慶典ニ方リ

總裁殿下ノ台閣ニ達シ御染筆複製並ビ掛軸ヲ贈リテ茲ニ感謝ノ意ヲ表ス  
昭和十一年三月二日

愛國婦人會長 本野 久子

(附) 右五氏經歷概要

- 明治三十四年支部創設當時ヨリ世話係依頼
- 明治三十六年五月廣島支部幹事囑託大正三年九月解囑
- 大正三年九月廣島支部評議員囑託昭和四年六月解囑
- 昭和四年七月廣島縣支部副長囑託同七年九月解囑勤續三十二年九ヶ月
- 昭和七年九月廣島縣支部参事囑託

廣島縣支部参事 特別維持會員 佩特別有功章 温田 冬子

- 廣島縣支部名譽評議員 特別維持會員 佩特別有功章 倉田 久子
- 明治三十七年一月廣島支部幹事囑託大正三年九月解囑
- 大正三年九月廣島支部評議員囑託昭和十年七月名譽評議員トナル
- 昭和二年七月特別維持會員トナル勤續三十二年三ヶ月

廣島縣支部評議員 特別會員 佩一等有功章 山本國子

明治三十八年六月廣島支部幹事囑託大正八年十二月解囑

大正八年十二月廣島支部評議員囑託勤續三十一年九ヶ月

廣島市幹事 特別維持會員 佩一等有功附加章 太田園子

明治三十七年十二月廣島支部佐伯郡幹事部幹事囑託後廣島市轉任

引續キ同市幹事囑託勤續三十一年三ヶ月

昭和三年五月特別維持會員トナリ同五年八月一等有功附加章贈與セラレ

吳市分會幹事 終身特別會員 佩一等有功章 池田カネ

明治三十九年三月吳市幹事部幹事囑託爾後勤續三十年一ヶ月

大正十二年四月二等有功章昭和七年五月一等有功章贈與セラレ

(3) 優良分會並分會長表彰

佐伯郡石内村分會及同分會長

豊田郡名荷村分會及同分會長

高田郡横田村分會及同分會長

同 郡西生口村分會及同分會長

賀茂郡郷田村分會及同分會長

佐伯郡八幡村分會及同分會長

同 郡御蘭宇村分會及同分會長

高田郡郷野村分會及同分會長

山縣郡雄鹿原村分會及同分會長

安佐郡川内村分會及同分會長

佐伯郡平良村分會及同分會長

豊田郡中野村分會及同分會長

同 郡久友村分會及同分會長

同 郡鷺浦村分會及同分會長

協力一致本會精神ノ徹底ニ努メラレ會員實ニ女子人口百分ノ〇〇名ニ達シ益々會業ノ發展ヲ見ルハ婦人報國ノタメ感激ノ至リニ堪ヘズ茲ニ本會創立三十五周年ニ當リ分會旗(分會長ハ記念品)ヲ贈呈シテ之ヲ表彰ス

昭和十一年三月二日

愛國婦人會廣島縣支部長 鈴木照子

(4) 十年以上勤績役職員表彰

支部 參事 淵田多子(三十三年)

支部名譽評議員 倉田久子(三十二年)

支部評議員 山本國子(三十年)

廣島市分會幹事 太田園子(三十年)

廣島市分會幹事 横山ウメ(廿九年)

菅 友(廿八年)

同 荒谷イロ(廿八年)

同 今野イソ(廿八年)

同 山本ヨネ(十五年)

同 森田マキ(十五年)

同 藤野アサ(十四年)

同 長門皆代(十三年)

同 小田玉代(十三年)

同 宮下文(十三年)

同 梅林寺千代(十三年)

同 脇本品代(十三年)

同 杉本 榮(十一年)

同 門マツノ(十一年)

支部職員 菅 重次郎(廿七年)

支部職員 廣井以忠(十八年)

同 河野正朗(十一年)

同 吳市分會職員 齋藤恒彦(廿三年)

表彰狀 (同文)

澁田冬子殿

本會ノタメ役職員トシテ盡力セラル、コト三十三年會務今日ノ進展ヲ見タル其功勞洵ニ勤カラズ茲ニ本會創立三十五周年ニ當リ記念品ヲ贈呈シテ感謝ノ意ヲ表ス

昭和十一年三月二日

廣島縣支部長 鈴木照子

(5) 會員募集隊送迎寄附義捐金募集其功勞表彰

支部評議員 田部とら

支部評議員 中村文子

同 熊平うら

同 谷野茂登

同 早水マス

同 多山千代

外に各市町村分會役職員及廣島市分會幹事柳田八重子外二百六十一名

表彰狀 (同文)

田部とら殿

夙ニ婦人報國ノ御志厚ク本會事業ノ發展ト會勢ノ伸長ニ盡力セラル洵ニ感謝ノ至リニ堪ヘズ茲ニ本會創立三十五周年ニ當リ記念品ヲ贈呈シテ深甚ノ謝意ヲ表ス

昭和十一年三月二日

廣島縣支部長 鈴木照子

(6) 一家三名以上入會者家庭表彰

廣島市猿樂町安田留代殿外百五十三家庭

表彰狀 (同文)

安田留代殿

貴家ハ夙ニ婦人報國ノ御志厚ク本會ノ趣旨ニ賛シ一家五名ノ多數入會セラレタルハ洵ニ感激ノ至リニ堪ヘズ茲ニ本會創立三十五周年ニ當リ記念品ヲ贈呈シテ感謝ノ意ヲ表ス

昭和十一年三月二日

廣島縣支部長 鈴木照子

(7) 事變其他ニ關スル功勞感謝狀

廣島市分會外百四十七分會及會員四百七十一名

感謝狀 (同文)

氏名

日支事變以來本會事業ノ發展ト會員増募ニ盡瘁セラレタルハ婦人報國ノタメ洵ニ感謝ノ至リニ堪ヘズ本會創立三十五周年ニ當リ茲ニ深甚ノ謝意ヲ表ス

昭和十一年三月二日

廣島縣支部長 鈴木照子

(8) 特別表彰

表彰狀

南キヌ殿

貴婦ハ眞ニ日支事變勃發スルヤ其ノ三男子身ヲ軍籍ニ置ク能ハザルヲ遺憾トセル際本會ノ使命トシテ貢獻セル軍事後  
 援ニ感激シ婦人報國ハ本會ニ入會スルニ在リトシ昭和六年通常會員トナリ爾來一會員トシテ晝夜ノ別ナク軍隊ノ送迎  
 患者ノ慰問ニ赤誠ヲ捧ゲ尙會資補助ノ爲ニ翌年特別會員ニ昇格翌八年更ニ特別維持會員ニ進ミ終身本會ノ爲ニ盡シ事  
 業ノ進展ニ寄與セントスル其ノ篤志洵ニ感ズベシ、仍テ茲ニ本會創立三十五周年ニ當リ之ヲ表彰ス

昭和十一年三月二日

廣島縣支部長 鈴木照子

式辭

本日多數來賓並ニ皆様ノ御臨席ヲ辱フイタシマシテ茲に本會創立三十五周年記念式並ニ表彰式ヲ舉ゲマスルコトハ誠  
 ニ光榮ノ次第デゴザイマス。

本會ハ會祖奥村五百子刀自ガ熱烈至誠ノ精神ニ依リマシテ長クモ上 皇后陛下ノ御獎勵ヲ賜ハリ朝野多數ノ御贊助ヲ  
 得マシテ明治三十四年三月二日東京九段下ニ呱呱ノ聲ヲ舉ゲタノデ御座イマス。

爾來 官妃殿下ヲ總裁ニ仰ギ奉リ年ト共ニ會運益々伸展イタシ只今デハ北ハ樺太ヨリ南ハ臺灣南洋諸島、西ハ朝鮮滿  
 洲ハ申スニ及バズ東ハ遠ク布哇ニ至ルマデ苟モ日本女子ノ住ンデ居リマスル所ハ山間奥地モ率土ノ濱ニモ、必ズ愛國  
 婦人會員ガ居ラレマシテ婦人報國ノ赤誠ヲ盡シテ居リマスルコトハ誠ニ力強ク存ジマス次第デ御座イマス。

斯様ニ私共女性ガ一致結束御國ノ爲ニ御奉公致スコトノ出來マスルノハ上 皇室ノ御庇護ニヨリマスコトハ申スマデ  
 モゴザイマセヌガ、又國家社會ノ重責ニ任ジテ朝夕奮闘シテ居ラル、男子ノ方ノ御理解ト御指導ト御援助ニヨリマス

コトヲ深く感謝イタシテ居ルノデゴザイマス。

我が廣島縣支部ノ業績ヲ回顧イタシマスルニ明治三十四年五月本部主任佐藤正將軍御夫妻ト奥村會祖ノ遊説御來廣ニ  
 依リマシテ、時ノ縣知事江木千之閣下及ビ夫人中子様ノ御熱心ナル御努力ト共ニ當時先覺御婦人ノ献身的御活動ニヨ  
 リテ、其ノ六月ニハ百八名ノ會員ヲ以テ支部ガ初聲ヲ上ゲタノデ御座イマス。

本縣ハ全國ニ比類ナキ重要軍都ヲ有シテ居リマス關係上他縣ニテ見ルコトモ或ハ想像スルコトモ出來ナイ程軍部トノ  
 關係ガ頻繁ニ且ツ深イノデゴザイマシテ、其ノ御奉公モ一段ト際立ツテ居ル様ニ存ジマス、之ヲ會員數ヨリ見マシテ  
 モ明治三十六年即チ日露戰爭前ニハ千九十六名ノ會員デ御座イマシタモノガ此ノ戰爭中ニ一躍一萬ヲ超ヘテ三十八年  
 末ニハ一萬一千四百名トナツタノデゴザイマス。其ノ當時ノ軍事後援ノ記録ヲ見マシテモ皆様ノ活動ノ目覺マシカリ  
 シコトヲ想像シテ感激イタスノデゴザイマス。

日支事變勃發致シマスルヤ皆様ノ御奮起御奉公ノ熱烈ナリシコトハ目新ラシク耳新ラシク周知ノコトデゴザイマシテ  
 全國的ニハ既ニ事變ハ打切リトナツテ居リマシテモ本縣ノミハ今尙事變當時ト其ノ氣分ニ於テモ亦報國ノ實際ニ於テ  
 モ少シモ變リナク御奉公イタシテ居ルノデゴザイマス。

斯様ニイタシテ當支部ガ統後ノ婦人トシテ軍事後援ノタメニ赤誠ヲ披瀝イタシ、又更ニ社會事業ニモ奉仕イタスコト  
 ヲ得マスルノハ全ク皆様御熱心ナル不斷ノ御努力ト御活動トニ依ルモノデ御座イマシテ誠ニ感謝ニ堪ヘナイ次第デゴ  
 ザイマス。

目下國ヲ舉ゲテ一致協力セネバナラヌ非常時ニ直面イタシテ本會ノナスベキ婦人報國ノ活動ハ軍事ニツキマシテモ社  
 會ニ對シマシテモ、益々其ノ方法ヲ盡シテ努力ナサネバナラヌコトデゴザイマシテ今後一層皆様ノ御援助ト御奮勵ヲ  
 願ハネバナラヌコトデゴザイマス。

表彰狀

南キヌ殿

貴婦ハ曩ニ日支事變勃發スルヤ其ノ三男子身ヲ軍籍ニ置ク能ハザルヲ遺憾トセル際本會ノ使命トシテ貢獻セル軍事後  
 援ニ感激シ婦人報國ハ本會ニ入會スルニ在リトシ昭和六年通常會員トナリ爾來一會員トシテ晝夜ノ別ナク軍隊ノ送迎  
 患者ノ慰問ニ赤誠ヲ捧ゲ尙會資助ノ爲ニ翌年特別會員ニ昇格翌八年更ニ特別維持會員ニ進ミ終身本會ノ爲ニ盡シ事  
 業ノ進展ニ寄與セントスル其ノ篤志洵ニ感ズベシ、仍テ茲ニ本會創立三十五周年ニ當リ之ヲ表彰ス

昭和十一年三月二日

廣島縣支部長 鈴木照子

式辭

本日多數來賓並ニ皆様ノ御臨席ヲ辱フイタシマシテ茲ニ本會創立三十五周年記念式並ニ表彰式ヲ舉ゲマスルコトハ誠  
 ニ光榮ノ次第デゴザイマス。

本會ハ會祖奥村五百子刀自ガ熱烈至誠ノ精神ニ依リマシテ長クモ上 皇后陛下ノ御獎勵ヲ賜ハリ朝野多數ノ御贊助ヲ  
 得マシテ明治三十四年三月二日東京九段下ニ呱呱ノ聲ヲ舉ゲタノデ御座イマス。

爾來 宮妃殿下ヲ總裁ニ仰ギ奉リ年ト共ニ會運益々伸展イタシ只今デハ北ハ樺太ヨリ南ハ臺灣南洋諸島、西ハ朝鮮滿  
 洲ハ申スニ及バズ東ハ遠ク布哇ニ至ルマデ苟モ日本女子ノ住ンデ居リマスル所ハ山間奥地モ率土ノ濱ニモ、必ズ愛國  
 婦人會員ガ居ラレマシテ婦人報國ノ赤誠ヲ盡シテ居リマスルコトハ誠ニ力強ク存ジマス次第デ御座イマス。

斯様ニ私共女性ガ一致結束御國ノ爲ニ御奉公致スコトノ出來マスルノハ上 皇室ノ御庇護ニヨリマスコトハ申スマデ  
 モゴザイマセヌガ、又國家社會ノ重責ニ任ジテ朝夕奮闘シテ居ラル、男子ノ方ノ御理解ト御指導ト御援助ニヨリマス

コトヲ深く感謝イタシテ居ルノデゴザイマス。

我が廣島縣支部ノ業績ヲ回顧イタシマスルニ明治三十四年五月本部主任佐藤正將軍御夫妻ト奥村會祖ノ遊説御來廣ニ  
 依リマシテ、時ノ縣知事江木千之閣下及ビ夫人中子様ノ御熱心ナル御努力ト共ニ當時先覺御婦人ノ献身的御活動ニヨ  
 リテ、其ノ六月ニハ百八名ノ會員ヲ以テ支部ガ初聲ヲ上ゲタノデ御座イマス。

本縣ハ全國ニ比類ナキ重要軍都ヲ有シテ居リマス關係上他縣ニテ見ルコトモ或ハ想像スルコトモ出來ナイ程軍部トノ  
 關係ガ頻繁ニ且ツ深イノデゴザイマシテ、其ノ御奉公モ一段ト際立ツテ居ル様ニ存ジマス、之ヲ會員數ヨリ見マシテ  
 モ明治三十六年即チ日露戰爭前ニハ千九十六名ノ會員デ御座イマシタモノガ此ノ戰爭中ニ一躍一萬ヲ超ヘテ三十八年  
 末ニハ一萬一千四百名トナツタノデゴザイマス。其ノ當時ノ軍事後援ノ記録ヲ見マシテモ皆様ノ活動ノ目覺マシカリ  
 シコトヲ想像シテ感激イタスノデゴザイマス。

日支事變勃發致シマスルヤ皆様ノ御奮起御奉公ノ熱烈ナリシコトハ目新ラシク耳新ラシク周知ノコトデゴザイマシテ  
 全國的ニハ既ニ事變ハ打切リトナツテ居リマシテモ本縣ノミハ今尙事變當時ト其ノ氣分ニ於テモ亦報國ノ實際ニ於テ  
 モ少シモ變リナク御奉公イタシテ居ルノデゴザイマス。

斯様ニイタシテ當支部ガ統後ノ婦人トシテ軍事後援ノタメニ赤誠ヲ披瀝イタシ、又更ニ社會事業ニモ奉仕イタスコト  
 ヲ得マスルノハ全ク皆様御熱心ナル不斷ノ御努力ト御活動トニ依ルモノデ御座イマシテ誠ニ感謝ニ堪ヘナイ次第デゴ  
 ザイマス。

目下國ヲ舉ゲテ一致協力セネバナラヌ非常時ニ直面イタシテ本會ノナスベキ婦人報國ノ活動ハ軍事ニツキマシテモ社  
 會ニ對シマシテモ、益々其ノ方法ヲ盡シテ努力ナサネバナラヌコトデゴザイマシテ今後一層皆様ノ御援助ト御奮勵ヲ  
 願ハネバナラヌコトデゴザイマス。

本日コノ芽出度キ記念式ニ當リマシテ茲ニ御盡力深カリシ分會及ビ皆様ニ些カノ記念品ヲ贈呈シテ感謝ノ微意ヲ表スル次第デゴザイマス、之ヲ以テ式辭トイタシマス。

昭和十一年三月二十日

廣島縣支部長 鈴木照子

本會長ノ祝辭

茲ニ愛國婦人會創立三十五周年記念ノ式典ヲ舉ゲラル、ニ方リ一言祝辭ヲ申シノブルノハ久子ノ最モ光榮トイタス所デ御座イマス。

明治三十四年三月、我が愛國婦人會ガ會祖奥村女史ニヨツテ創立サレマシテカラ、今年ハ恰モ滿三十五年ニ相當イタシマスノデ本部ハ固ヨリ地方本支部ニ於キマシテハ何レモ今日ノ記念日ヲトシテ全國一齊ニ式典ヲ舉ゲ、同時ニ益々本會將來ノ發展ニ資スル爲各種ノ記念施設ガ行ハレルコトニナツテ居リマス。

過去三十五年トイフ長イ間本會ガ進ツテ参リマシタ道ハ必ズシモ坦々タルモノデハナカッタノデ御座イマスケレドモ畏々モ上ハ、皇室ノ御恩寵ト、總裁殿下ノ御高配トニ依リ下ハ役職員及會員各位ノ涙ダマシイ御努力ニヨツテ倍々會運ノ隆昌ヲ致シ、特ニ昭和七年機構改正以後ハ日支事變ノ勃發ト相待ツテ急速ノ進歩ヲ遂ゲ今ヤ全國ニ亘リ、二百四十萬ノ會員ヲ擁スル大婦人團體トナリ同時ニ會ノ事業ニ於テモ軍事後援事業ヲ始メ、社會事業ニ各種運動ニ着々トシテ婦人報國ノ大使命達成ノ爲ニ邁進シツハアルノデアリマス。カクテ私共婦人モ纖手ヨク奉公ノ大義ニ參ジテ社會ノ爲ニ重荷ヲ領チツ、アリマス事ハ洵ニ御同慶ニ堪ヘザル所デ御座イマス。

希クハ此ノ慶賀スベキ祝典ヲ機會トシテ更ニ皆様方ノ一段ノ御努力ニヨリ奥村會祖ガ常ニ抱懷サレテ居リマシタ婦人報國ノ大業ヲ達成スル爲ニ十全ノ効果ヲ舉グルニ至ラン事ヲ切ニ望ンデ止マナイ次第デ御座イマス。一言感謝ト希望ノ辭ヲ述ベテ祝詞ニ代ヘル次第デ御座イマス。

愛國婦人會長 本野久子

廣島市長ノ祝詞

愛國婦人會ハ明治三十四年婦人報國ヲ理想トシ夙ニ賢婦人ノ名アル奥村五百子女史ノ熱烈ナル主唱ニ依ツテ創設セラレタモノデアリマシテ爾來三十有五年ノ久シキニ及ビ、其ノ開戦時ハ勿論平時ニ在ツテモ軍人及其遺家族ニ對シ感激感謝ノ誠意ヲ以テ慰藉シ更ニ幾多ノ社會奉仕ト會員相互ノ修養研鑽トニモ力ヲ致シ「家ノ守ハ國ノ守」デアルト言フ信念ノ下ニ始終シテ参ラレマシタ日本女性ノ一大結束デアリマシテ、其ノ精神ノ國家的デアリ奉公的デアリ獨創的デアアルコト、又其ノ業績ノ偉大ニシテ有意義ナリシコトニ於テ宇内古今ヲ通ジテ唯一無二ノ婦人團體デアリマス。本會トガ常ニ、皇室ノ御庇護ヲ辱フセラレ皇族殿下ヲ總裁ニ戴カレ各、官妃殿下舉ツテ會員デアラセラル、ノモ蓋シ故アリト申サナケレバナリマセヌ。

肇國三千年我國ガ赫々タル皇威國光ヲ世界ニ輝カシツ、アリマスル所以ノモノハ上ニ歷朝國民ヲミソナハシ給フコト赤子ノ如ク、下ニ、皇室ノ御仁慈ト皇徳ヲ神ト瞻仰シ一旦緩急アレバ義勇公ニ奉ズル臣民赤誠ノ結晶ニ外ナラスノデアリマスガ、此ノ光輝アル歴史ノ裏面ニハ絶ヘズ我國婦人ノ謙讓優雅ニシテ而モ壯烈偉麗ナル隠レタル功績ノ潜ンデ居ツタコトモ亦否ムコトノ出來ヌ嚴肅ナル事實デアリマス。

今ヤ我國デハ國內的ニモ國際的ニモ非常時性濃厚デアリマシテ國民ハ須ク我ヲ棄テ、公ニ就キ、皇威國光ノ宣揚ニ懸命デナケレバナラス秋デアリマス、然ルニ動モスレバ國民ノ一部分ニハ尙之レニ醒メズ華ニ流レ實ヲ失ヒ已ニ奉ズル

ニ念ニシテ國ニ報ユルコトノ緩ナルモノアルヤノ嫌ヒガアリマス。寔ニ寒心ノ至ニ堪ヘヌノデアリマス、然ルニ本日ノ吉辰ヲトシ本會創立三十五周年記念式ヲ舉行セラル、ニ方リ過去ニ於ケル本會事業ニ對スル功勞者表彰ヲ行ハレマシタルコトハ本會發展ノ表徴ニシテ一大盛事デアリマス、從テ其ノ御企ハ洵ニ適切妥當ノ舉デアツテ景仰感謝措ク能ハザルト共ニ被表彰者各位ニ對シ衷心ヨリ慶祝ノ至情ヲ披瀝シ併セテ今後一段ノ御奮勵ヲ御望ミ致ス次第デアリマス。私ハ本會ガ益々發展セラレマシテ直接ノ軍事後援ヤ社會奉仕ハ申スニ及バズ進ンデ日本婦人ノ全部ガ悉ク本會員トナソテ教養ヲ重ネラレ、此ノ教養セラレタル婦人ノ力ニ依ツテ全家庭ガ陶冶淨化セラレ同時ニ其ノ子女ガ薰化セラレマシラバソレコソ非常時日本ノ絶大ナル強味デアルト信ジ且之ヲ希フモノデアリマス。本日ノ式典ニ參列ノ光榮ヲ得マシテ以上無辭ヲ述ベ祝詞ト致シマス。

廣島市長 横山金太郎

(二) 記念事業 本記念日に當リ本會が創立以來常に意を注ぎ來れる軍人慰安のため、廣島、福山の二ヶ所に兵士の休養所を建設して常時安息娛樂の會場を供することとせり。而して廣島の休養所は支部會館内に併設することとし、昭和十二年四月落成し、福山兵士ホームは、福山市霞町に新築昭和十六年十月竣工せり、當時の建設趣旨書次の如し。

兵士休養所と婦人ホーム

愛國婦人會は國家的事業でありますので皆様の御出し下さつた會費は其の爲に逆も大きな御奉公をいたして居ります。本年は創立三十五周年を迎へまして其の喜びに意義ある本會の使命を記念するため平時に於ける次の三大事業を實行したいと思ひます。

一、日夜軍務に盡して下さる現役兵士の方が日曜祭日等外出の時或は親や親類知人が面會に來られた時など氣樂な我が家として一日を樂しく來て遊び語らるゝ様に兵士の休養所を設けて娛樂讀書入浴等の設備をなし、若き勇士の慰安と其士氣の振作に盡したいと思ひます。

一、家の守りは國の守り子供は家の寶、國の寶、家を健全に守り子供を強く賢く育てることは目下の急務であります。其の爲こゝに妊産婦乳幼兒の保護並に家庭生活改善と婦人修養に關する設備をいたし婦人の保護向上に資したいと思ひます。

一、軍人遺家族の婦人、及農村子女のために婦人作業部を設けて職業輔導をなしたいと思ひます。

以上の記念事業を遂行いたしますに必要な資金は婦人報國の誠に熱意を捧げられつゝある皆様の御贊助の力によりて完成いたしましたと思ひます、どうか賛助袋を一つづゝ御引受け下さいませ。

(1) 支部會館 支部創設以來、會勢の發展と、會業、會務の擴充繁忙を極むるに伴れ、獨立會館新築の必要は多年の要望であつたので、歴代の支部長初め、直接執務の衝に當れる主事の苦心せる所なりしも、經費其他の關係上容易に實現するに至らず、爲に三十餘年の長年月間、縣廳及赤十字支部の一部を借り受け不便を忍び來つたものである。然る所時機遂に到來して昭和十一年時の早川支部長並に土居主事の計畫と決心とに依り、顧問評議員等の賛同と、本部の承認を得三十五周年記念事業として、第三回支部總會開催までに落成せしむるため、同年十二月工事に着手し、同十二年四月三十日竣工、翌五月廿二日(支部總會前日)有功章御親授の式場に始めて新館を使用し、總裁殿下の御休憩を貴賓室に仰ぎたるは實に光榮ある記念となつたのである。斯くて總會も終了し、六月四日事務所の移轉を行つたのである。今會館の概様を記すれば

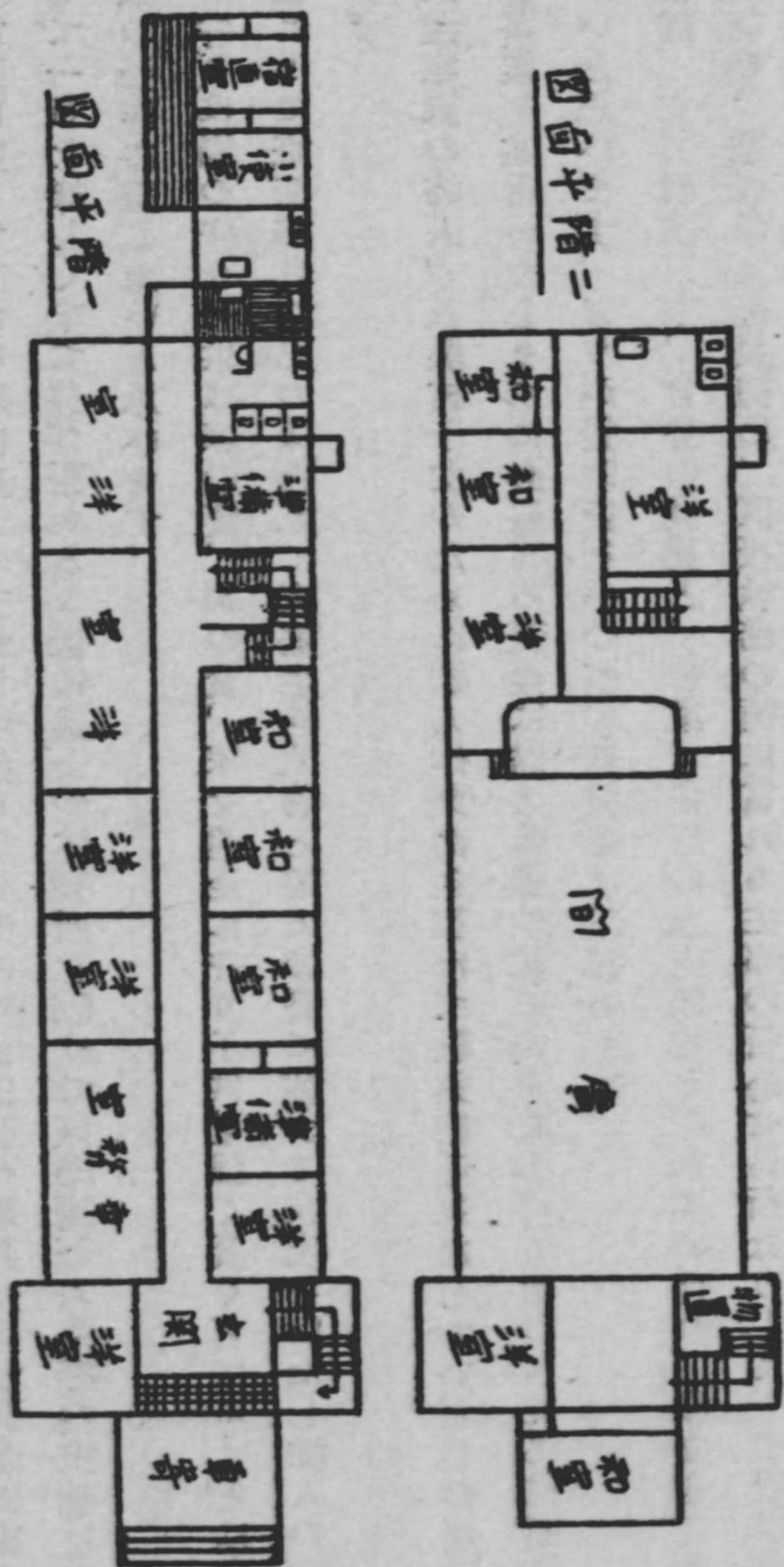
イ、敷地 東西三十三間、南北九間の長方形にして二百九十八坪、此の價格壹萬七千五百圓



日、建物 洋式二階建にして階下百三十六坪階上二百二十坪總延坪二百五十六坪なり、此の建築費並に設備費參萬八千圓  
 (支那事變勃發前にて比較的低价の際なりし故輕費にて建築し得たのである)

ハ、建物の内容

階上 貴賓室、大講堂、應接室、準備室、和室三、洗面所、手洗所、外に三階物置及露臺  
 階下 事務室、應接室、準備室二、作業室二、主事室、診斷室、調理室、宿泊和室三、手洗所  
 別棟 浴場、宿直室、小使室、物置等

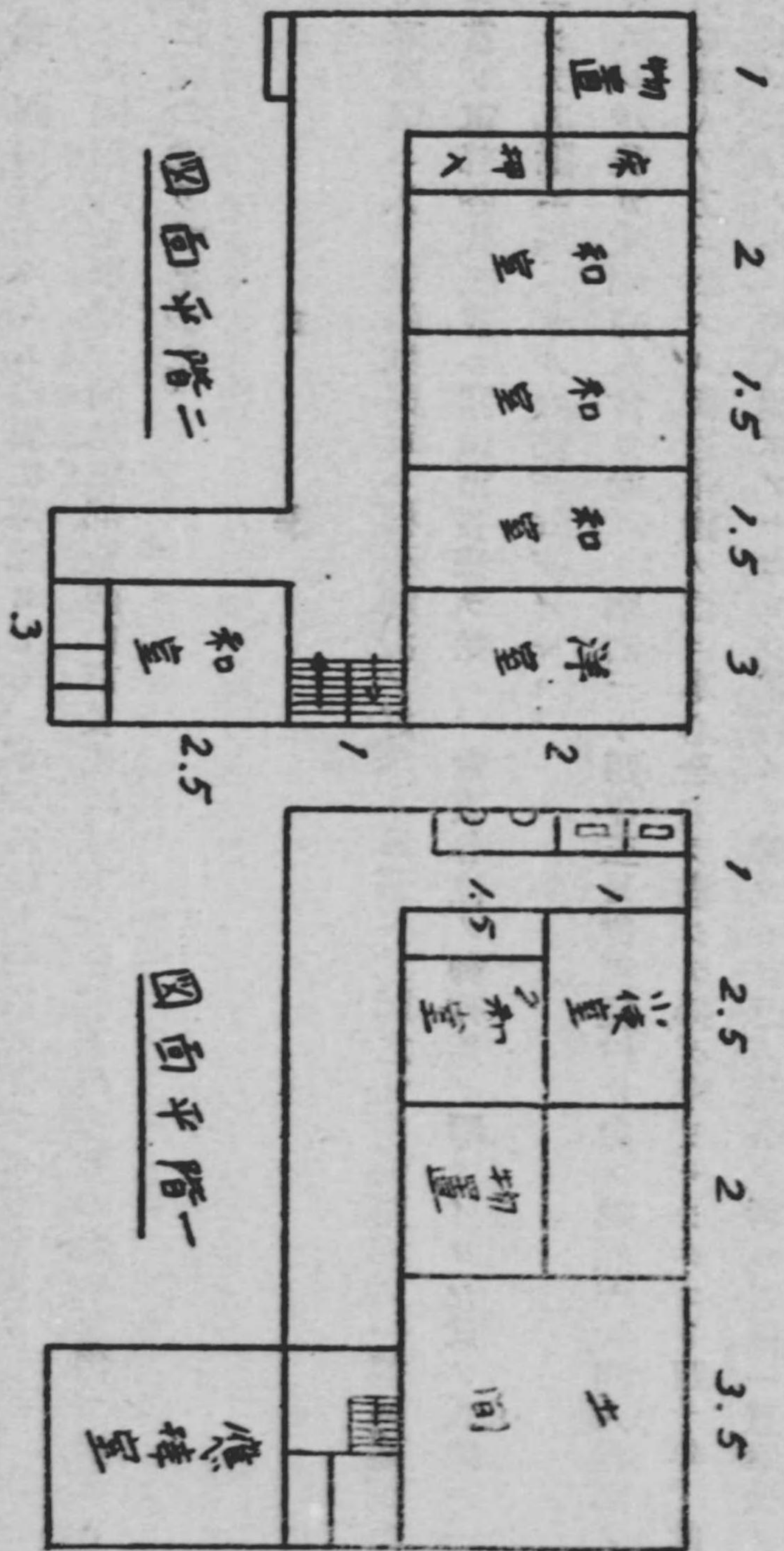


(2) 福山兵士ホーム 福山兵士ホームも支部會館と同時に起工の豫定なりしも、敷地の選定並購入に時日を要し只様延引  
 中なりしが兵士休養所亦其の必要の急なるに至り十五年四月元誠之館中學跡地の一部を敷地として購入し、福山市技手  
 に設計を託し八月着工して同年十一月竣成せり、今其の概様を記せば

イ、敷地 七十六坪三合此購入價格貳千七百五拾圓

ロ、建物 洋式二階建にして階下四〇、一坪 階上三九坪、總延坪七九、一坪なり、此建築費壹萬參千六百拾圓

ハ、建物内容 階上 宿泊室三、圖書室一、來賓室一 階下 應接室一、食堂一、宿泊室二、物置一



(二) 開館式 福山兵士ホームは曩に落成せしも、都合に依り開館の運びに至らざりしが、本年四月六日、石井支部長代理臨席の下に開館式を挙げ、同地軍部及福山市長並に地方分會役職員多數の參列を得て盛大に開館した、因に當日の支部長式辭は次の通りであつた。

式 辭

時恰モ春風懷ニ入り葦陽城頭正ニ櫻花爛漫ノ好季本日茲ニ元誠之館中費跡地ノ一部ニ建設セル兵士ホームノ開館式ヲ行フニ當リ軍部各代表並ニ福山市長様ヲ始メ、貴賓各位ノ御列席ヲ辱フィタシ此ノ式典ニ一段ノ權威ヲ加ヘラレ誠ニ光榮ニシテ感謝ニ堪ヘザル次第デゴザイマス。

願ミマスレバ我が愛國婦人會ガ過グル明治三十四年三月會祖奥村女史ノ熱烈ナル婦人報國ノ赤誠ニ依リ創設セラレマシテ以來軍人ノ方ニ對スル御恩報謝ノ爲ニ専心全力ヲ盡シテ捧ゲ來リマシタコト四十年、此間數度ノ戰役事變ニ遭遇イタシ未ダ本會ノ外ニ婦人團體ノナカリシ當時ヨリ聊カモ自己ノ利害ヲ考ヘズ只一意奉公ノ足ラザランコトヲ省ミテ今日ニ至リマシタ。

滿洲事變後一時平時ノ狀態トナリマシテ明治十一年ガ恰モ本會創立三十五周年ニ相當イタシ其ノ記念事業トシテ平時ニ於ケル軍人報恩感謝ノ一端ニモト考ヘマシテ廣島、福山ニ兵士ホームヲ建設シ吳ニ病院娛樂室ヲ献納イタスコトヲ企テマシタ所、漸ク廣島ヲ終リテ未ダ落成ノ式ヲ舉グル迄ナク吳ハ建設ノ半バニシテ今回ノ事變ニ遭遇イタシ時局多端ニシテ福山ホームニ着手スル能ハザリシモ、廣島支部會館ノ利用ニ鑑ミ實情ハ寧ロコノ非常時ニコソ兵士ホームノ必要ナルヲ痛感スルモノ之レアリ、一日モ早く着工センコトヲ祈念イタシタル所デゴザイマシタガ幸ヒニ當市長様ヲ初メ、關係ノ皆様容易ナラザル御斡旋ト御援助トニヨリマシテ漸ク昨年八月着工イタシ本日コ、ニ開館スルコトヲ得

マス喜ビノ日ヲ迎ヘマシタ、誠ニ欣喜ニ堪ヘマセン。コノ兵士ホームハ一面ニハ在營兵士各位ノ良キ休息所トシ、一面ニハ御家族ノ御面會或ハ休息宿泊等ニ便スルタメニ建設イタシタモノデゴザイマス、規模ニ於テ充分ナラザル憾ミアリ内容ノ設備未ダ整ハザルコトデゴザイマスガ、何卒皆様ノヨリ多大ナル御援助ヲ仰ギマシテ本會ガ軍人ニ對スル御恩報謝ノ誠心ヲ盡シ得マス様兵士各位及ビ御家族方ノ良キ御利用ヲ頂キマスコトヲ御願ヒ申ス次第デゴザイマス。茲ニ更ニ閣下各位ノ御後援ヲ深謝イタシマシテ式辭トイタシマス。

因に此の記念二大建築物は本會解散のため、他に譲渡することとなり、支部會館は財團法人興亞女子翼賛會に於て、大東亞建設に躍出する興亞女性の鍊成道場として活用し、福山兵士ホームは、福山市に於て福山日婦支部として建設の目的に即して經營せしむることとなり、是亦有意義に之が活用を繼續することとなり。

第二節 本會創立四十周年(昭和十六年)

十年一と昔といへば、四十年間は正に四昔を重ねたのである。此の間本會として、支部として、歩み來つた足跡は随分大きなものがある。即ち明治三十七八年の日露戰爭、大正六七年の世界戰爭、昭和六七年の所謂滿洲事變、近くは昭和十二年勃發の支那事變から大東亞戰、この外國内民間の變災としては、關東大震災を初め、遠く臺灣の震災、駿遠播但地方岡山京阪地方の風水害、函館の大火、さては東北各縣の海嘯や冷害に因る凶作。尙縣下では安藝、安佐、佐伯地方の水害。山縣、安佐、廣島の火災等、何れも愛婦の使命として活躍せねばならぬ軍事後援、乃至社會救濟の事業である。従つて多大の出費と、努力と相當の時日を要し、此間町村に於ては或は分會として、或は會員個人として、大なる功績を残さ

れたる方も尠くない。茲に輝しき四十周年を迎ふるに當り、記念式を擧げて軍人に感謝すると共に是等會勢發展のため努  
力せられたる分會又は個人に對する表彰を行つたのである。今其の概況を記さんに、

(一) 記念式

- (1) 時 日 昭和十六年六月六日午前十時夜來の降雨も止み滿天薄雲で覆はれ外出には誂へ向の天候であつた。
- (2) 會 場 廣島縣立第一高女講堂
- (3) 來賓並に會員 此の日參列の來賓は本會會長代理富田評議員(元本縣支部長) 吉永縣知事、吳守府司令長官代理  
師團長代理、藤田廣島市長、永田縣下町村長會長、廣島市内各學校長、町内會長等二百餘名、其他支部評議員を初め  
會員代表として各市聯合分會長、各市町村分會長、顧問たる各町村長、廣島市内各分會幹事等役員會員約千五百名で  
あつた。

(4) 式 次

- 一、一同互禮
- 二、開式の辭
- 三、官城遙拜
- 四、默禱
- 五、國歌奉唱
- 六、皇后陛下より賜はりたる令旨奉讀
- 七、總裁殿下御寫眞開扉
- 八、創立四十周年記念式に賜はりたる諭旨奉讀
- 九、支部長代理式辭
- 一〇、廣島縣知事告辭
- 一一、本會表彰狀並記念品傳達
- 一二、支部表彰狀感謝狀並記念品贈呈
- 一三、本會長祝辭
- 一四、來賓祝辭

一五、被表彰者代表答辭

一六、宣言決議

一七、總裁殿下御寫眞閉扉

式は右の順序に依り國民儀禮の後、令旨奉讀(石井支部長代理) 諭旨奉讀(堀田評議員)ありそれより本部表彰狀傳  
達、支部の表彰狀及感謝狀の贈呈ありしが、此の日軍人感謝のため感謝狀と慰安品とを贈呈したる一家三名以上の戰  
死者を出せし安佐郡久地村平川健太郎氏及び豊田郡南生口村久松みよの氏に對する感謝狀朗讀に當りては、滿場肅と  
して謹聽只感謝と同情の念に充たされ袖を潤ぼさざりしものなかりき。

一八、閉式の辭

一九、一同互禮

感 謝 狀

(各 通)

安佐郡久地村 平川 健太郎殿  
豊田郡南生口村 久松みよの殿

今次事變ニ當リ大命ヲ奉ジテ征途ニ就カレシモノ貴家ヨリ實ニ三名酷寒ヲ冒シ炎熱ヲ凌ギ飢餓ニ堪ヘ萬難ヲ克服シテ  
日夜奮戦力闘克ク皇軍ノ威力ヲ發揮シ皇國ノ使命達成ニ活躍セラレシモ可惜三名共壯烈ナル忠死ヲ遂ゲラル其ノ誠忠  
偉勳ハ固ヨリ永ク後世ノ鑑トナリ國民ノ等シク景仰感激スル所ナルガ一死既ニ然ルヲ三士前後相次イデ共ニ君國ニ  
捧ゲラル死ヲ讚稱スルハ遺族ノ忠ナリ泣イテ追惜スルハ遺族ノ情ナリ吾等感極マリ陳ブルニ辭ナシ茲ニ愛國婦人會創  
立四十周年ニ當リ深ク感謝ノ意ヲ表ス

昭和十六年三月二日

愛國婦人會廣島縣支部長 相川 靜

尙贈呈の慰安品は、吉永知事の特別揮毫に成れる

忠誠貫於金石 孝弟通於神明

を軸表装としたものであつたが式後支部員各實家に持參英靈に拜禮の上贈呈したのであつた。

(3) 本會ヨリノ表彰狀傳達

(イ) 創立功勞者 支部參事溫田冬子殿外三十七名

(ロ) 勳績功勞者 佐伯郡平良村分會顧問枝松五六殿外六百二十五名

(4) 支部ヨリノ表彰狀感謝狀贈呈

(イ) 支那事變ニ於テ一家ヨリ三名以上軍務公用ニ就カレタル家庭ニ感謝狀贈呈 廣島市吉積明一殿外二百四十名

感謝狀 (各通)

吉積明一殿

今次ノ時局ニ當リ大命ヲ奉ジテ軍務ニ就カレシモノ實ニ貴家ヨリ三名以上ニ及ビ出デテハ身命ヲ塔シテ君國ノ御楯トナリ内ニハ老幼婦女相扶ケテ銃後ノ憂ナカラシメラル實ニ吾等ノ景仰感激ニ堪ヘザル所ナリ茲ニ愛國婦人會創立四十年ニ當リ深ク感謝ノ意ヲ表ス

愛國婦人會廣島縣支部長 相川 靜

昭和十六年三月二日

(ロ) 優良分會表彰 會員歩合女子人口百分ノ四十以上ニ達セルモノ

佐伯郡八幡村分會	同 郡石内村分會	同 郡觀音村分會	同 郡廿日市町分會
山縣郡筒賀村分會	同 郡雄鹿原村分會	同 郡美和村分會	高田郡横田村分會
安佐郡久地村分會	同 郡深川村分會	賀茂郡吉川村分會	同 郡郷田村分會
同 郡上黒瀬村分會	同 郡乃美尾村分會	同 郡野路中切組合村分會	同 郡東野村分會
同 郡西條町分會	豊田郡田万里小谷組合村分會	沼隈郡百島村分會	

表彰狀 (各通)

八幡村分會

協力一致本會精神ノ徹底ニ努メラレ會員數實ニ女子人口百分ノ四十以上ニ達シ會業ノ發展ヲ見タルハ婦人報國ノタメ感激ノ至リニ堪ヘズ茲ニ愛國婦人會創立四十年ニ當リ之ヲ表彰ス

昭和十六年三月二日

愛國婦人會廣島縣支部長 相川 靜

(ハ) 一家三名以上ノ會員ヲ有スル家庭表彰 廣島市谷川タメ殿外二百六家庭

表彰狀 (各通)

谷川タメ殿

夙ニ本會ノ主旨ニ賛同セラレ會員ニ列スルコト一家三名以上ニ至レルハ洵ニ感激スル所ナリ茲ニ愛國婦人會創立四十年ニ當リ之ヲ表彰ス

昭和十六年三月二日

愛國婦人會廣島縣支部長 相川 靜

(二) 創立ノ際入會ノ現存會員表彰 廣島市上田種子殿外四百三十五名

表・彰 狀 (各通)

上田種子殿

本會創立ノ際率先入會セラレ爾來今日ニ至ル洵ニ奇特トスル所ナリ、茲ニ愛國婦人會創立四十周年ニ當リ之ヲ表彰ス  
昭和十六年三月二日 愛國婦人會廣島縣支部長 相川 靜

(ホ) 特別功勞者表彰

支部參事	溫田冬子	支部評議員	山本國子	支部評議員	早水マヌ
支部評議員	今野イソ	支部評議員	荒谷イロ	支部評議員	安達ソモ
廣島市分會幹事	小松マツノ	同 分會幹事	横山ウメ	同 支部書記	菅重次郎
同 支部書記	廣井以忠	吳市分會書記	齋藤恒彦		

表 彰 狀 (各通)

溫田冬子殿

多年本會會務ニ盡瘁セラレ其ノ功績多大ナリ、茲ニ愛國婦人會創立四十周年ニ當リ之ヲ表彰ス

昭和十六年三月二日

愛國婦人會廣島縣支部長 相川 靜

(ハ) 十ヶ年以上在職役職員表彰 安佐郡中原村分會顧問森千代松殿外六百三十六名

表 彰 狀 (各通)

森千代松殿

多年本會々務ニ盡瘁セラレ其ノ功績多大ナリ、茲ニ愛國婦人會創立四十周年ニ當リ之ヲ表彰ス

昭和十六年三月二日

愛國婦人會廣島縣支部長 相川 靜

(ト) 功勞アル役職員表彰 吳市支部評議員宮田久代殿外百七十三名

表 彰 狀 (各通)

宮田久代殿

本會ノ爲特ニ會勢ノ發展ニ盡瘁シ日夜畫策會業ノ伸張ヲ圖リ其ノ効績顯著ナリ、茲ニ愛國婦人會創立四十周年ニ當リ之ヲ表彰ス

昭和十六年三月二日

愛國婦人會廣島縣支部長 相川 靜

(チ) 支部會館及兵士ホーム建築ニ關シ記念品贈呈 寄附者株式會社藝備銀行殿外四百七十九名

感 謝 狀 (各通)

株式會社 藝備銀行殿

軍人後援ノ目的ヲ以テ兵士ホームヲ建設スルニ當リ率先多額ノ金員ヲ寄贈セラレ以テ本事業ヲ援助シ其ノ完成ヲ告ゲシメラレタルハ誠ニ感謝ニ堪ヘザル所ナリ、茲ニ記念品ヲ贈呈シ聊カ感謝ノ意ヲ表ス

昭和十六年五月二十日

愛國婦人會廣島縣支部長代理 石井萬亀子

建築請負者感謝狀

廣島市 中邑哲吾殿

當支部會館建設ノ計畫ヲ爲スヤ貴下ハ克ク其ノ事業ノ性質ヲ認識シ義侠的精神ヲ以テ工事ヲ請負ヒ克ク短日間ニ工ヲ竣ヘ恰モ支部總會ニ台臨テ仰ギシ本會 總裁殿下ノ有功章御親授所ニ充ツルノ光榮ヲ見ルニ至リタルハ誠ニ感謝ニ堪ヘザル所ナリ、竣工ノ式ヲ舉ゲントスルニ當リ俄カニ支那事變勃發内外ノ事務多端ヲ極メ其ノ機ヲ得ザリシガ茲ニ本日創立四十周年記念式ヲ行フニ當リ記念品ヲ贈呈シテ感謝ノ意ヲ表ス

昭和十六年五月二十日

愛國婦人會廣島縣支部長代理副長 石井萬龜子

式 辭

本日ハ本部ヨリ熊々水野會長代理元支部長富田夫人ノ御臨場ヲ得マシテ師團長閣下代理其ノ他來賓並會員皆様ノ御臨席ヲ辱フイタシ、茲ニ本會創立四十周年記念式ヲ舉行イタシマスルコトハ洵ニ光榮ノ至リデゴザイマス。願ミマスレバ四十年ノ昔會祖ガ聲ヲ啜ラシテ力説ナサレマシタ銃後後援ノ婦人報國モ今日デハ愛國婦人會員ハ申スマデモナク日本全婦人ノ耳ニ響キマシテ既ニ各種團體共ニ赤誠ヲ盡シテ居ラル、コトデゴザイマスガ、明治三十四年創立當時ニ於キマシテハ未ダカ、ル御奉公ヲ爲サレタル者ハ一人モゴザイマセンデシタ。況ンヤ婦人ノ軍人ニ後援スルガ如キ考ヘハ頗ル幼稚ナモノデゴザイマシテ寧ロ奇異ニ感ジタ程デゴザイマシタ、其ノ時ニ當リマシテ銃後ノ守リヲ天下ニ叫ビ殊ニ日本婦人ノ盡スベキ進ムベキ報國ノ大使命ヲ御唱導爲サレマシタコトハ、會祖ノ偉大ナル御卓見デゴザイマスノミナラズ共ノ熱烈至誠ノ御真心ニ深く感激イタスノデゴザイマス。爾來 官殿下ヲ總裁ニ仰ギ奉リ年ト共ニ會運益々進展イタシ只今デハ北ハ樺太ヨリ南ハ臺灣南洋諸島、西朝鮮ハ申スニ及バズ東ハ遠ク布哇ニ至ルマデ苟クモ日本女性ノ住ンデ居リマスル所ハ山間奥地ニモ率土ノ孩ニモ必ズ愛國婦人會員ガ居ラレマシテ、婦人報國ノ赤誠ヲ盡シテ居リマスコトハ誠ニ力強く存ジマス次第デゴザイマス。

斯様ニ私共女性ガ一致結束御國ノタメニ御奉公イタシマスコトノ出來マスルノハ上 皇室ノ御恩寵ニヨリマスコトハ申スマデモゴザイマセヌガ、又國家社會ノ重責ニ任ジテ日夜奮闘遊バシマス男子ノ方ノ御理解ト御指導ト御援助トニヨリマスコトデゴザイマシテ深く感謝イタシテ居ル所デゴザイマス。

我が廣島縣支部ノ業績ヲ回顧イタシマスルニ始メテ會祖ヲ廣島ニ迎ヘマシタノハ明治三十四年五月廿四日デゴザイマシテ、本部主事佐藤正將軍御夫妻時ノ縣知事江木千之閣下及ビ中子夫人ノ御熱心ナル御盡力ト共ニ、今尙本會ノタメ御盡シニナツテ居ラレマス温田冬子夫人其他先覺ノ御婦人達ノ献身的御活動ニヨリマシテ其ノ六月一日始メテ百八名ノ會員ガ出來コ、ニ支部ガ成立イタシタノデゴザイマス。百八名トイフ數ハ大數デハゴザイマセヌガ此ノ方々ガ縣下ノ先驅者トナラレマシテ會祖ノ志ヲ繼イデ一面ニハ銃後後援ニ盡シ、一面ニハ同志會員ノ勸誘ニツトメラレマシタ其ノ御力ガ今日ノ支部會員十八萬人トナツタノデゴザイマス。實ニ其ノ間ニ於ケル御勞苦ヲ想察イタシマシテハ只涙ヲ以テ感謝致ズバカリデゴザイマス。本縣ハ全國ニ比類少キ重要軍都ヲ有シテ居リマス關係上コノ方面ノ御指導ヲ仰イデ居リマスコトハ多大デゴザイマシテ、從ツテ軍事後援ニ關スル感激モ一層深イコトデゴザイマシテ平時常ニ之レニ全力ヲ注イデ參ツテ居リマスルガ、明治三十六年即チ日露戰爭前ニハ二千四百五十一名ノ會員ガ此ノ戰爭中一躍一萬ヲ超ヘテ三十八年末ニハ一萬一千餘名トナリ其ノ當時ノ軍事後援ノ記録ヲ見マシテモ如何ニ皆様ノ御活動ノ目覺マシカツタカヲ想像イタスノデゴザイマス。近ク滿洲事變ニ於キマシテ皆様ノ御奮起御奉公ノ熱烈ナリシコトハ目新ラシク耳新ラシク周知ノコトデゴザイマスガ、今次支那事變勃發以來私共會員ハ一致結束會祖ノ御教ヲ信條トイタシ長クモ 御令旨御諭旨ニ從ヒ奉リテ誠心誠意及バザランコトヲ恐レテ只管力ノ限リヲ盡シテ軍事後援ト銃後ノ守リニ懸命ノ努力ヲイタシテ居ルノデゴザイマス。茲ニハ病院ニ患者輸送用大型自動車二臺ヲ献納イタシ吳海軍ニハ病院患者娛樂室ヲ献納イタシ、廣島及福山ニハ會館並ニ兵士ホームヲ建設シテ遺家族ノ利用ニ供シ、近クハ四十周年記念事業

ノ軍用飛行機献納ニ當リマジテハ當支部ハ立チ所ニ拾八萬參百圓ノ酸金ヲ得マシテ、陸海兩軍ニ廣島縣號一機ヅ、ヲ  
 献納スルノ手續キライタシマシタコトナドハ之レ皆會員皆様銃後奉公ノ熱意ニ外ナラヌノデゴザイマス。支部ハ會館  
 ニ於キマシテ縣下遺家族ノ御爲ニ生業指導ノ講習ヲ繼續實施イタシテ居リマスルガ、畏クモ 朝香宮殿下ノ御台覽御  
 視察ヲ戴キマシタコトハ支部無上ノ光榮デゴザイマシテ恐懼感泣イタシテ居ル次第デゴザイマス。今ヤ國ヲ舉ゲテ一  
 致協力イタサネバナラヌ非常重大時局ニ直面イタシマシテ本會ノナスベキ婦人報國ノ活動ハ軍事後援ニツキマシテモ  
 銃後強化ニイタシマシテモ益々其ノ方法ヲ盡シテ國策ヲ遵守シ職域奉公ノ完璧ヲ期シマシテ一ハ奉公ノ誠ヲイタシ、  
 一ハ日本婦人ノ美ハシキ精神ト其ノ實力トヲ世界ニ示シ彌々八紘一字ノ大政ヲ翼賛シ奉ランコトヲ覺悟イタス次第デ  
 ゴザイマス。何卒今後一層御指導御援助ヲ賜ハリ會員皆様ノ御奮勵ヲ御願ヒ申上ゲタイト存ジマス。  
 本日コノ意義アル大會ニ當リマシテ過去ヲ追憶シ所信ヲ述ベマシテ式辭トイタシマス。

昭和十六年六月六日

愛國婦人會廣島縣支部長代理副長 石井萬亀子

本會會長祝詞

本日茲ニ愛國婦人會廣島縣支部主催 令旨奉戴式並本會創立四十周年記念式典ヲ舉ゲラル、ニ際シ聊カ祝辭ヲ申上ゲ  
 ルコトハ私ノ最モ光榮トスル所デゴザイマス。  
 愛國婦人會ハ明治三十四年創立以來茲ニ四十年ノ星霜ヲ閱シ今ヤ整備セル組織ト海ノ内外ニ亘ル六百萬會員トヲ有シ  
 婦人報國ノ大旗ノ下ニ會員ノ修養訓練ハ申スニ及バズ、軍人援護其他アラコル部門ノ國策ニ順應シテ着々實績ヲ舉ゲ  
 ツ、アルコトハ世人ノ周知スル所デゴザイマス。  
 斯ヤウニ本會が今日ノ隆昌ヲ見ルニ至リマシタコトハ會員ノ皆様ガ 皇室ノ御仁慈ト 總裁殿下ノ御諭旨トヲ奉體シ

テ會祖ノ烈々タル盡忠報國ノ大精神ヲ發揮シ結束シテ終始奉公ノ一路ニ邁進シ來ラレマシタ結果ニ外ナリマセヌガ、  
 殊ニ廣島縣支部ニ於カレマシテハ歴代ノ支部長様其他役職員ノ皆様ヲ始メ各分會ノ皆様ヲ中心ニ會員ノ方々ガ協力一  
 致シテ今事變勃發以來メザマシク御活動下サレ、會勢大ニ伸展シテ今ヤ會員數十八萬ニ垂ントシ分會以下ノ機構頓ニ  
 整備シ又子女團ノ結成モ四十以上ニ及ビ現下ノ非常時局ニ處シ全國有數ノ實績ヲ收メラレツ、アリマスコトハ御同慶  
 ニ堪エナイ次第デゴザイマス。

何卒皆様ニハ先般本會第四十回通常總會ニ際シ畏クモ 皇后陛下ヨリ親シク賜ハリマシタ 令旨ヲ奉戴シ益々日本婦  
 人固有ノ婦德ヲ發揮シ愈々銃後婦人ノ責務ニ精勵シ以テ一層婦人報國ノ實ヲ舉ゲラレマスヤウ切ニ御願ヒ申上ゲマシ  
 テ本日ノ御祝詞ト致ス次第デゴザイマス。

昭和十六年六月六日

愛國婦人會長 水野萬壽子

吉永知事告辭

爰ニ愛國婦人會廣島縣支部創立四十周年記念式ヲ舉行セラル、ニ方リ一言所懷ヲ述ブルハ最欣快トスル所ナリ。  
 惟フニ本會ハ日本婦人ノ熾烈ナル祖國愛ニ依リテ創立セラレ常ニ 皇室ノ深キ御思召ヲ奉戴シテ軍事援護ノ社會奉仕  
 ニ、將又會員ノ修養ニ本會傳統ノ精神ヲ發揮シテ婦人報國ノ實ヲ舉グ業績年ト共ニ著シク躍進發展途ニ今日ノ盛運ヲ  
 致セリ。殊ニ今次事變勃發スルヤ恤兵慰安遺家族ノ援護扶助等率先銃後ノ支援ニ目覺シキ活動ヲ爲シ皇軍將兵ヲシテ  
 後顧ノ憂ヒナカラシメ、士氣ノ振作ニ寄與スル所甚大ナリ。更ニ本日ノ記念式ニ於テハ多數ノ愛兒ヲ祖國ニ捧ゲタル  
 盡忠勇士ノ家庭ニ感謝狀ヲ贈リテ家門ノ名譽ヲ顯揚シ、或ハ多年本會ニ盡瘁シテ功績顯著ナル會員並役職員ヲ表彰シ  
 テ其ノ勞ニ酬ヒ或ハ創立以來ノ功勞者ニ本部ヨリノ表彰狀ヲ傳達シテ其ノ德ヲ頌シ以テ忍苦四十年ノ輝カシキ歴史ヲ

思ヒ、多望ナル將來ヘノ發足ノ基調トスルハ最モ機宜ヲ得タルモノト謂フベシ。今ヤ聖戰正ニ四年、大御稜威ノ下皇軍未曾有ノ戰果ニヨリ東亞回天ノ大業著々トシテ歩ヲ進ムト雖モ、世界ヲ舉ゲテ動亂ノ渦中ニ死闘ヲ續ケ太平洋ノ波浪亦漸ク高カラントス、眞ニ皇國ノ前途倍々多難ヲ加フベシ、冀クハ各位深ク思ヒテ茲ニ致シ、操守堅固事變下ニ於ケル皇國婦人ノ本領ヲ發揚シテ本會ノ使命ヲ完遂セラレンコトヲ茲ニ一言所懷ヲ述ベテ告辭トス。

昭和十六年六月六日

廣島縣知事 吉永時次

篠原師團長祝詞

本日茲ニ愛國婦人會創立四十周年記念式典ヲ舉行セララル、ニ當リ一言所懷ヲ述ブルハ實ニ欣幸トスル所ナリ、惟フニ本會ハ創立以來長クモ 皇室ノ殊遇ヲ忝フシ會員諸姉熱誠會務ニ盡瘁シ之ニ依リ年ト共ニ其ノ基礎ヲ鞏クシ會務ヲ擴張シ、軍人並ニ遺家族ノ慰藉救援ニ將又社會事業ニ婦人報國ノ實ヲ發揮シ國運ノ隆昌ト社會ノ福祉ニ貢獻スルコト四十年、特ニ今次事變勃發以來ノ活躍ト偉大ナル成果トハ世人ノ齊シク敬仰感激措カザル所ナリ。今ヤ聖戰四年 御稜威ノ下皇軍將兵ノ勇戰奮闘ニ依リ戰果著々トシテ舉ガリ興亞ノ聖業漸ク遂フテ確立セラレツ、アリト雖モ世界的動亂ノ波及スル所、帝國四圍ノ狀勢ハ愈々緊迫重大化シ前途逆睹シ難ク一億臣民ノ更ニ覺悟ヲ新タニシ、不動ノ國策完遂ニ邁進スベキ秋ニシテ本會ノ使命一層重大ト加ヘタルヲ痛感ス、會員諸姉宜シク深ク思ヒテ茲ニ致シ本會設立ノ趣旨ヲ體シ、益々熱心毅力愛國婦人傳統ノ祖國愛ノ精神ヲ昂揚シ婦人報國ニ精進シ以テ本會ノ使命達成ニ邁進セラレシコトヲ茲ニ本會ノ御隆昌ト會員諸姉ノ御健闘ヲ祈リ且ツ本日表彰ノ榮譽ヲ荷ハレタル各位ニ對シ深厚ナル祝意ヲ表シ以テ祝辭トス。

昭和十六年六月六日

廣島師團長 篠原次郎

藤田廣島市長祝詞

茲ニ愛國婦人會創立四十周年記念式ヲ舉ゲラル、ニ當リ御祝辭ヲ申シ述ベマスルコトハ洵ニ欣幸トスル所デアリマス抑モ明治三十三年奥村五百子女史ガ北清事變ニ於テ 皇軍ノ勞苦ヲ觀察シ戰死者遺族及傷痍軍人救護ノ急務ヲ認メ、一般婦人ノ共鳴ヲ得テ本會ヲ創立セラレマシテヨリ茲ニ四十年長クモ上 皇室ノ深キ御仁慈ノ下我ガ國婦人ノ傳統的美徳タル祖國愛ノ精神ヲ發揮シテ克ク諸般ノ施設ヲ遂ゲ以テ國運ノ伸暢ニ寄與セラル、所尠カラズ、殊ニ今次ノ事變ノ勃發スルヤ赤誠ヲ捧ゲテ統後奉公ノ全キヲ期セラレマシタ功績ハ寔ニ多大デアリマシテ本會創始者奥村刀自ノ遺績ヲ追慕シ又本會今日ノ隆運ヲ肅スニ與ツテ力アリシ各位就中本日表彰ノ榮ヲ荷ハレマシタ會員並ニ役職員各位ノ勞功ニ對シテ深ク敬意ヲ表スル次第デアリマス。今ヤ聖戰五年ヲ經テ戰果大ニ舉リ大東亞共榮圈確立ノ聖業著々進捗致シテオリマステレドモ列強ノ情勢ハ愈々緊迫ヲ加ヘテ止ム所ヲ知リマセズ。幸ニ各位思フ時局ノ重大性ニ致シ愈々和衷協力本會ノ使命ヲ全ウシ以テ國運ノ隆昌ニ貢獻セラレマスル様切望ニ堪ヘマセン

昭和十六年六月六日

廣島市長 藤田若水

縣下町村長會長祝詞

本日茲ニ愛國婦人會創立四十周年記念式典ヲ舉行セララル、ニ當リ其ノ末席ニ列シ一言祝詞ヲ述ブルコトハ深ク欣快トスルトコロデアリマス。

惟フニ愛國婦人會ハ明治三十四年三月呱呱ノ嬰ヲ舉ゲテ爾來 皇室ノ深キ御思召ヲ拜シ會員各位ノ熱誠ナル努力ニ依



リ年ト共ニ其ノ基礎ハ益々鞏固トナリ會勢ハ擴張セラレ今日ニ於テハ會員總數實ニ六百十三萬餘人、廣島支部會員十  
八萬餘人ノ多キニ達シ現在我が國ニ於ケル最大ナル婦人團體トシテ實績ヲ收メ國家及同胞ノ爲ニ最善ノ努力ヲ拂ハレ  
特ニ軍人ノ慰藉慰問遺族家族ノ援護ニ將又社會事業ニ婦人報國ノ赤誠ヲ捧ゲ國運ノ伸長ニ寄與セラレントハ蓋シ尠  
クナイノデアリマス。特ニ今次事變勃發スルヤ第一線將兵ノ力戰奮闘ト相呼應シテ統後後援ノ目覺シキ活動ヲ展開セ  
ラレ着々トシテ其ノ戰果ヲ擧ゲラレツ、アリマスコトハ邦家ノ爲メ慶賀ニ堪エナイ所デアリマス。

本日表彰ノ榮譽ヲ荷ハレタル各位ハ能ク本會ノ趣旨ヲ體セラレ多年會ノ向上發展ニ努力セラレ又ハ多額ノ金高ヲ寄附  
セラル、等其ノ功績ハ洵ニ多大デ謹ミテ敬祝ノ意ヲ表スルト共ニ今後一層斯業ノ伸展ニ盡瘁セラレムコトヲ希フテ止  
マナイ次第デアリマス。

顧レバ事變以來御稔威ノ下 皇軍將兵ノ忍苦奉公ノ至誠ト統後國民ノ熱烈ナル後援協力トニ依リ赫々タル戰果ヲ收メ  
東亞ノ新秩序漸ヲ追フテ確立セラレツ、アリト雖モ内外ノ情勢愈々緊迫ノ度ヲ加ヘ今年コソハ將ニ眞ノ超非常ニシテ  
世界動亂ノ運命ヲ決スベキ重大轉機ニ臨ンデ居ルノデアリマス。斯クシテ此際國家總力ノ餘スナキ統一發揮コソハ皇  
國永遠ノ隆泰ヲ決スルモノデアリマシテ國民一體時艱克服ノ決意ヲ新ニ更ニ一段ノ緊張ト戒心ヲ以テ其ノ職域ニ奉  
公シ以テ無窮ノ 皇運ヲ扶翼シ奉ラナケレバナライノデアリマス。時艱ノ突破世運ノ打開ハ殊ニ婦人ノ覺醒ト奮起  
ニ俟ツ所眞ニ切ナルモノガアルト信ジマス。冀クバ會員諸姉思フ本會創立ノ精神ニ馳セラレ愈々和衷協力婦人報國ノ  
決意ニ燃エテ統後ノ護リニ邁進セラレ以テ聖業完遂ニ貢獻セラレント一言所懷ヲ述ベテ祝辭ト致シマス。

昭和十六年六月六日

廣島縣町村長會長 永田 轟

被表彰者總代答辭

本日ハ本會長様ヲ初メ多數貴賓ノ御來臨ヲ辱フシ、創立四十周年記念式典ヲ舉行セラレ、表彰ノ光榮ニ浴シ、御懇篤  
ナル御祝辭御激勵ノ御言葉ヲ賜ハリマシテ誠ニ感激ノ至リニ勝ヘマセヌ、私共ハ深ク現下ノ國情ト本會ノ光榮アル四  
十年ノ歴史トニ鑑ミ益々奮勵努力以テ統後婦人タルノ實ヲ舉ゲ本日ノ光榮ニオ答ヘ致シタイト存ジマス、茲ニ被表彰  
者一同ヲ代表シ謹ンデ答辭ト致シマス。

昭和十六年六月六日

被表彰者總代 谷野 茂 登

宣誓

最後に左記宣誓決議を爲し此の記念を契機として一層本會の使命に邁進し婦人報國統後奉公の完璧を期すべく誓つた  
のである。

宣誓決議

愛國婦人會々員ハ光榮アル本會四十年ノ歴史ヲ想ヒ緊迫セル國際情勢ニ鑑ミ 御令旨御諭旨ノ示シ給フトコロニ遵ヒ  
益々日本婦人固有ノ婦徳ヲ發揮シ愈々協心戮力統後婦人トシテ必要ナル各般ノ事項ニ精勵シ以テ八紘一字ノ聖業ヲ翼  
賛シ奉ランコトヲ誓フ

昭和十六年六月六日

愛國婦人會廣島縣支部

(二)

飛行機獻納 四十周年記念事業として特筆すべきは、本會の提唱にかゝる軍用飛行機の献納運動にして、本縣支部は  
「愛婦廣島縣號」として陸海軍に各一機づゝ献納方各分會に協議せし所、非常の共鳴を得、會員は勿論、不言の裡に一

殺婦人の賛同を得、豫期以上の贖金を得たのであつた。中には涙ぐまじき奇篤な寄附者も少くなかつた今其内の二三を擧ぐれば次の通りである。

- (1) 駄賃負の勞力賃金 賀茂郡野路中切組合村分會では會員一同が木材薪炭等の駄賃負や溜池工事に出夫し其の賃金を献納
- (2) 一家八名が献金 御調郡羽和泉村恩地實氏の家庭では主人が二口其他七名の家族が各自平素の貯蓄の内より贖出都合九圓を献金した。
- (3) 無名で金五拾圓献納 雙三郡川西村分會では一會員として支部宛書留郵便、開封して見れば五拾圓の爲替券に「事變勃發以來下男を解雇家族一同で稼ぎその節約の一部であります、名前は神佛が御承知であります云々」の書面が添へてあつた。
- (4) 五拾錢銀貨二百四十枚 比婆郡東城町分會會員島津タニさんは飲食店を家業とせるが、平素貯蓄の念厚く五拾錢銀貨を手にする度に之を貯金箱に入れつゝありしが、今回飛行機献納の事を聞き其の全部即ち二百四十枚百貳拾圓を献納した。
- (5) 七十八歳の老嫗貯へた百圓を 賀茂郡廣村石橋モエさんは日頃老嫗に鞭ち勤儉力行、粗衣粗食に甘んじ日々自作の蔬菜類を行商其の貯へた貯金を御國への御奉公此時なりと献金の  
飛行機献納式 斯くて一般よりの贖金は貳拾萬圓に達せしを以て、献金の手續を了し、其の後陸海軍共逞しき荒鷲は完成し、陸軍に於ては九月二十日大阪に於て、海軍は同月廿八日岩國に於て献納式舉行すべく参列方通知ありしを以て、支部長以下代表幹事並支部職員参列殊に岩國へは知事代理石井總務部長列席祝詞を朗讀せられ、尙廣島市大

手町國民學校初六高田博彌及び吳市上山田校初六白井得子の別記「壯途を送るの辭」や飛行士に對し愛町國民學校初六安田悦子、縣師附初六竹田雅子の兩少女の手に依り花束を贈呈したのであつた。

### 献納愛婦號の壯途を送るの辭

支那事變が始まつてから、既に五十年、何時其の終りを告げるが豫測する事も出来ないであります。それに歐洲に捲き起された風雲は次第に東に進み、太平洋の波高く、皇國の興廢を決する日が愈々迫つて來た様に思ひます。百萬の皇軍は日夜寢食を忘れて陸に海に空に身を以て尊き奉公の誠をいたされつゝあります。この一大國難の時に當りまして私共たとへ戦ひの場に立たずとも 天皇陛下の御爲に、皆んな一つ心になつて、あらゆる困苦に打ち勝ち一切を捧げて、忠誠を盡さねばならぬのであります。私共のお母様は、本年愛國婦人會創立四十周年記念の事業として飛行機献納のことを思ひ立たれたのであります。私は二月に其の話を聞きました時、何んと勇ましいことだらう、私も子供ながら愛國婦人會員だ、日頃の貯金も此の時だと思つて、僅かでも献納させて貰つたのであります。御母様方が我も〜と進んで献納なさる眞剣な御氣持を見まして有り難いお母様だと思ひました。其の美しい眞心が、本日茲に勇ましい銀翼の姿となり名も懐かしく愛婦廣島號、愛婦大阪號と名付けられて、今日の佳き日に雄々しくもはゞたかうとして居ります、誠に嬉しさに涙が浮びます。我が帝國は世界最大の海洋、太平洋に面して居ります列強權益の競争は激烈でありますが、幾千の海軍機と幾百の艦艇とに護られて、動かぬ帝國が築かれてゐます。けれども太平洋の波浪高く、國際關係は非常に六ヶ敷く、既に其の危機が現はれてゐると聞いてゐます。之を思ひます時愛婦献納號の使命も亦重大でありませう、一億國民はこの銀翼に如何ばかり期待してゐることせう。眼を閉ちますとこの銀翼が堂々大洋を渡つて西に東に敵を爆撃する雄姿が浮びます。敵機が錐採みの如く火を吹いて落ち行く姿も見えます、軍

艦が黒煙を残して沈み行く光景を描いた時、覚えぬ感激の涙が止め途もなく込み上げて参ります。私共のお母様方が献納いたしましたこの愛國献納號が、斯様に大きな手柄を立てまして、敵の頭迷を打破り一日も早く八紘一字の幸福なる平和の時を招來し、世界の何れの御友達とも仲良く語る日が参りますことを一心に念願いたして居ります。私共學業に勵みまして皆様の大きな忠義を御手本といたしきつと日本女子の名を繼いで参ります。

本日榮ある命名式に臨み愛婦廣島號、愛婦大阪號の勇ましい門出をお祝ひし輝かしい前途を心からお祈り申し上げます。

昭和十六年九月廿八日

吳市上山田國民學校初等科第六學年 白井得子

献納愛婦號の壯途を送るの辭

愛婦大阪號並に廣島號は愛國婦人會大阪廣島兩支部の皆様のご真心の固まりで完成せられたものでありまして、今日こんなに立派な献納式を舉行せられる様になりました事を心から嬉しく思つて居ります。

この献納號の銀翼が一度び太平洋の空高く飛び立ち、皇軍荒鷲の精銳の一となれば日滿支三國の防空は、どんなにか堅いものとなることぞせう。私達一億の國民は、此の空の護りの頼もしさに心からの信頼を捧げたいと思つて居ります。學校の教科書中空の旅で、その愉快さを知り、空中戦でその壯烈さ、花々しさに心を躍らした私達少國民は、此度の支那事變と今行はれてゐる歐洲の戦争とによつて飛行機の力の偉大さを今更のやうにハッキリと強く深く頭に刻みつけました。實に此の度の支那事變での我が陸海軍機の活躍奮闘ほど世にも目覺ましく雄々しいものがあつたでせうか、殊に事變の初めに我が荒鷲の渡洋爆撃や支那大陸奥地への長距離の爆撃行など、どんなに世界の人を驚かせ、我が日本の空の偉力に恐れられたことぞせう、今迄外國が日本は少し後れてゐると感違ひしてゐた日本の航空力は、後れ

てゐるどころではない、立派なものである事を、私達は自慢して見たい氣持で一ぱいです。今日この輝かしい献納式の晴れの場所に加へさせて頂いて眼のあたり純國産の航空機の雄姿を拜見し、胸のすく様な勝れた操縦術を胸に描く時、私達少年の心は、本當に飛び上がるばかりの感激と興奮とで胸の高鳴るのを禁することが出来ません。吾等皇國の少年も亦何時の日か、この銀翼に乗つて澄み渡る大空を征服して、世界の平和と我が日本の發展の爲に盡した氣持が湧然と溢れて來ます、やがて憧れの少年航空兵、さては海陸の荒鷲となつて、この湧き立つ興奮と感謝とを心ゆくばかり大空に飛散させたい覺悟です。茲に愛婦大阪號並廣島號の壯途を祝福し、吾等少國民の他日の大成を誓ひまして献納式のお祝ひの言葉と致します。

昭和十六年九月廿八日

廣島市大手町國民學校初等科第六學年 高田博彌

献納機模型贈呈 左記吳市佃榮子外六氏は當支部が軍用飛行機献納運動實施に當り、金壹千圓宛篤志寄附せられたるを以て特に本會より標記模型贈呈ありしに付き別記挨拶狀添付傳達した。

吳市 佃 榮子 廣島市 西川 ラクヨ 廣島市 鈴木 千代世  
 廣島市 坂本 チナヨ 同 森川 ミエ 同 山本 國子

拜啓益々御清邁奉賀候陳者愛國婦人會提唱軍用機献納運動實施に當りては多額金の員御寄附被下難有御禮申上候、今回本會本部より御篤志に對し謝意を表するため記念として献納機飛行機模型壹基を贈呈せられ候に就ては別封水野會長よりの謝狀と共に御送付申上候間御受納被下度候 敬具

月 日

愛國婦人會廣島縣支部

獻納機記念寫眞贈呈 左記六百圓以上を寄附せる分會には大版獻納飛行機寫眞を贈呈し一般寄附者には葉書型寫眞を漏れなく贈呈して婦人報國の記念とした。

千圓以上	船越町	海田市町	矢野町	坂村	江田島村	倉橋島村
	大竹町	大柿町	筒賀村	西條町	野路中切組合村	三津町
	竹原町	廣村	豐濱村	中野村	世羅郡吉川村	蘆品郡府中町
	神邊町	東城町				
九百圓以上	熊野町	音戸町	加計町	戸河内町	川尻町	忠海町
	向島西村	土生町				
八百圓以上	中原村	深川村	吉田町	早田原村	豊田郡東野村	津名村
	甲山町	新市町	西城町			
七百圓以上	安村	大朝町	八重町	西志和村	田島村	鞆町
	田幸村	川西村				
六百圓以上	觀音村	伴村	久地村	小田村	仁方町	西野村
	十日市町	君田村	吉舎町	三良坂町	和田村	美古登村
	比和町					

### 第三節 皇紀二千六百年記念

皇紀二千六百年紀元節に當り長くも下し賜ひし詔書

#### 詔書

朕惟フニ神武天皇惟神ノ大道ニ遵ヒ一系無窮ノ寶祚ヲ繼キ萬世不易ノ丕基ヲ定メ以テ天業ヲ經綸シタマヘリ歴朝相承ケ上仁愛ノ化ヲ下ニ及ホシ下忠厚ノ俗ヲ以テ上ニ奉シ君民一體以テ朕カ世ニ逮ビ茲ニ紀元二千六百年ヲ迎フ

今ヤ非常ノ世局ニ際シ斯ノ紀元ノ佳節ニ當ル爾臣民宜シク思テ神武天皇ノ創業ニ聘セ皇國ノ宏遠ニシテ皇謨ノ雄深ナルヲ念ヒ和衷協力益々國體ノ精華ヲ發揮シ以テ時艱ノ克服ヲ致シ以テ國威ノ昂揚ニ勗メ祖宗ノ神靈ニ對ヘンコトヲ期スヘシ

御名 御 璽

昭和十五年二月十一日

#### (一) 愛媛本支部の紀元二千六百年記念事業

愛國婦人會本部では、地方本支部協力の上、皇紀二千六百年を奉祝する記念事業として左記の施設を爲した。

- (1) 檀原神宮外苑大和國史館の周圍約一千百三十坪に植樹獻納(工費壹萬六百圓)
- (2) 日向宮崎神宮外苑に建立されし八絃の基柱建設事業に奉賛し、基柱正面に石燈籠一對を寄進した。(其の總工費は四千四百圓)

#### (二) 支部の記念事業

支部としての記念事業は、前記本部と共同施設せし外左記の施設をした。

- (1) 會員倍加運動 各分會に指令して會員倍加運動を起し、何れも相當數の増加を見、當支部としては、標準數を超へ  
總員十五萬人以上となり女子人口百分の十七を突破したのであつた。
- (2) 護國神社献木 支部では前項の外、廣島護國神社境内に記念植樹として、支部長の歛入にて松樹一本を献植したの  
であつた。

- (3) 營養補給施設 本年は記念の意味に於て、縣下全般に涉り、六十名の要望者に對し兒童愛護週間中牛乳又は粉乳を  
與へ營養補給を行つた。尤も家庭の狀態に依りては、或は二三ヶ月、或は五六ヶ月繼續補給したものもあつた。(詳  
細別記)

(三) 市町村分會に於ける記念事業一例

- (1) 廣島市聯合分會の記念事業 廣島市比治山公園内に櫻樹苗木千本を植へ記念石柱を建てた。
- (2) 世羅高女愛國子女團の植林 世羅郡甲山町なる縣立世羅高等女學校愛國子女團では聖紀の記念事業として面積七町  
歩の植林をした。
- (3) 賀茂郡川尻町分會植樹 川尻町分會では神社境内地に接し梅樹三百本を植ゑ風致と收穫と一石二鳥の計畫をした。
- (4) 高田郡本村分會植林 面積十二町歩に檜を植へ記念林とした。

(四) 慶祝式典に參列の光榮

昭和十五年十一月十日十一日の兩日、宮城二重橋前大廣場に會場をしつらへさせ給ひ、全國より有資格者各種團體代表  
者を召され、慶祝の盛典を擧げさせ給ふたのであるが、我が愛國婦人會廣島縣支部員にして參列を允され、近衛内閣總  
理大臣より御招待を忝ふせし者は次の通りであつた。

支部長	相川 靜	參事	溫田 冬子
評議員	山本 國子	主事	土居 肩吉

(五) 支部に於ける奉祝

十一月十日舉行せられし東京に於ける奉祝式並び奉祝會へは、當支部より溫田參事、山本評議員及土居主事の三名參列  
の榮を得しことは別項記載の通りであるが、同月十八日には支部長以下役職員四百五十名、廣島市公會堂に集合奉祝會  
を催ふせしが、席上東京に於ける奉祝の狀況報告あり、次いで能狂言等の餘興ありて盛會であつた。

(六) 紀元二千六百年奉祝榎原神宮參拜と新誓大會出席

昭和十五年は、皇紀二千六百年奉祝に當り大和榎原神宮に於ては豫て神域擴張、社殿改造、附屬記念建造物、境内植樹  
等記念施設をなしたるが六月二十日には同地に於て、紀元二千六百年奉祝後奉公祈誓大會が行はれたので、當支部よ  
りは支部代表として參事溫田冬子(隨員片岡ミネ)出席せられた。尙支部職員一同は翌年一月四日榎原神宮を參拜神武  
天皇肇國の昔を偲び、悠久窮りなき 皇室の彌榮と日東大帝國の繁榮を祈り、前後、吉野神宮、湊川神社に參拜して七  
生報國の昔を偲び忠誠を誓つたのであつた。

(七) 九州 聖地 參拜旅行

當支部では皇紀二千六百年奉祝記念の一行事として、九州に於ける皇祖發祥の聖地、靈跡を參拜し、併せて小倉及び別  
府療養所に靜養中の郷土出身白衣勇士を慰問し、肥前唐津高德寺奥村會祖の奥都城に參拜すべく旅行團を組織し、七月  
二日廣島出發、同月十日一同無事歸廣した。(其の參拜日記は團體旅行記に掲ぐ)

## 第七章 愛國子女團

### 第一節 愛國子女團の起りと其の趣旨

愛國子女團は、愛國婦人會の施設であつて、昭和八年六月之が準則を制定、市區町村に於ける少女、處女や、女子中等學校生徒、青年團員、或は工場、大商店等に働く女性中、年齢十歳以上二十歳以下の者を以て組織することとなし、其の設け方を各支部に奨励されたのである、其の目的は、總裁殿下より賜はりたる御諭旨に基くものである、即ち日本女性が國を愛する真心より、帝國軍人を後援し、一般社會公共の事に力を致すと共に、皇國婦道の精神と智徳とを修養せんとする愛國婦人會の貴き主旨に遵ひ、實地の奉仕、訓練に依つて、婦人報國精神の體得と、之が具現に努めしめんとするものであつて、皇室を中心に、その厚き御庇護の下に、多年の歳月と輝しき功績とを持する、愛國婦人會の若芽乃至別働隊として、其の健全なる發達を期する事は、蓋し重要意義ありと確信致し、本縣に於ても今日に至る迄縣下各中等女學校に於て結成せられたる團數四十三の多きに及び、着々其の目的達成に邁進、實踐の效果を見つゝある次第であつたが、今や全國婦人團體の統合に依り、愛國婦人會の解消すると共に之れに従つて子女團も共に解消することとなつた。

### 第二節 愛國子女團の結成

昭和八年六月本會は愛國子女團設置の規程を制定せしを以て、其の規程に基き、部内女子中等學校に之が設置を勧誘せし所、廣島縣女梅林寺校長は率先共鳴賛同せられしを以て、土居主事早速出向、全校生徒に對し團の精神を講演し、其の結成を見るに至り、爾來學校の訓育と相待つて、本會の趣旨に依る婦人報國の一端を實踐するに至り、就中支那事變勃發後、軍事後援其他施設實行の事項は夥しく其の成績亦著しきものあり。今本團の結成狀況を掲ぐれば左記の通りである。

#### (一) 昭和十年結成子女團

- |                  |      |                  |       |
|------------------|------|------------------|-------|
| 廣島縣立廣島高等女學校愛國子女團 | (二月) | 廣島縣立上下高等女學校愛國子女團 | (二月)  |
| 同 三次高等女學校愛國子女團   | (二月) | 同 甲山高等女學校愛國子女團   | (三月)  |
| 吳精華高等女學校愛國子女團    | (三月) | 廣島縣立福山高等女學校愛國子女團 | (七月)  |
| 御調郡田熊村立青年學校愛國子女團 | (八月) | 廣島縣立松永高等女學校愛國子女團 | (九月)  |
| 進徳高等女學校愛國子女團     | (九月) | 門田高等女學校愛國子女團     | (十月)  |
| 藝陽實科高等女學校愛國子女團   | (十月) | 廣島縣立尾道高等女學校愛國子女團 | (十一月) |

#### (二) 昭和十一年結成子女團

- |                  |      |                  |      |
|------------------|------|------------------|------|
| 廣島縣立賀茂高等女學校愛國子女團 | (六月) | 増川高等女學校愛國子女團     | (七月) |
| 廣島縣立可部高等女學校愛國子女團 | (九月) | 廣島縣立府中高等女學校愛國子女團 | (十月) |

土井田高等洋裁女學院愛國子女團 (十一月)

廣島縣立竹原高等女學校愛國子女團 (十一月)

(三) 昭和十二年結成子女團

- 廣島愛仁女學校愛國子女團 (二月) 廣島縣立吉田高等女學校愛國子女團 (二月)
- 町立瀬戸田高等女學校愛國子女團 (二月) 町立向原高等女學校愛國子女團 (二月)
- 廣島縣立忠海高等女學校愛國子女團 (三月) 尾道市立高等女學校愛國子女團 (三月)
- 町立津田實科高等女學校愛國子女團 (三月) 吳市丸橋高等女學校愛國子女團 (三月)
- 廣島西高等女學校愛國子女團 (三月) 吳市土肥女子學園愛國子女團 (四月)
- 町立鞆實科高等女學校愛國子女團 (四月) 廣島縣立深安實業學校愛國子女團 (四月)
- 廣村立實科高等女學校愛國子女團 (四月) 吳市立高等女學校愛國子女團 (四月)
- 濟美實科高等女學校愛國子女團 (四月) 廣島縣立吳高等女學校愛國子女團 (四月)
- 廣島女學院高等女學部愛國子女團 (五月) 山中高等女學校愛國子女團 (五月)
- 吳市立實科高等女學校愛國子女團 (五月) 村立向島實科高等女學校愛國子女團 (五月)
- 町立祇園高等女學校愛國子女團 (五月) 村立江田島實科高等女學校愛國子女團 (五月)

(四) 昭和十三年結成子女團

町立河内高等女學校愛國子女團 (三月)

(五) 昭和十四年結成子女團

廣島縣立東城高等女學校愛國子女團 (十月)

(六) 昭和十五年結成子女團

廣島縣立土生高等女學校愛國子女團 (十二月)

第三節 光榮に浴した愛國子女團

總裁殿下の御視閲を仰ぐ

本縣に於ける愛國子女團は、全國に魁けたるもので、其の團數四十、團員一萬七千を數ふに至つた。昭和十二年五月第三回支部會員總會に際し、縣下廣島、吳、福山の三ヶ所に於てそれ／＼御視閲の光榮に浴した。(狀況支部總會記にあり)各會場に於ける御視閲實人員は次の通り

御視閲場	團員總數	出場團員數	御視閲月日
廣島縣女	六、九二〇	三、五六九 (一、八九〇)	五月廿三日
吳市女	五、五四二	五、〇〇五 (六〇〇)	五月廿四日
福山縣女	四、六九一	二、五七六	五月廿五日
計	一七、一五三	一、一五〇	

(備考) 廣島及吳は雨天につき括弧内通り減員出場

### 第四節 子女團の活動

#### 各團の諸施設

各子女團は、御諭旨を奉じ本團專業の綱領たる(一)敬神崇祖に關する事項、(二)報國運動に關する事項、(三)軍事後援に關する事項、(四)社會事業に關する事項、(五)勤勞作業に關する事項、(六)團員の修養に關する事項等に基き、施設經營之が實踐に努めたりしが、其の詳細に至りては別途附録として之を掲げ、茲には、特に支那事變勃發以來各團が協同的に軍事後援のため盡せし成果を掲ぐ。

#### (一) 御守護の團製(非常召集)

昭和十二年七月事變勃發後富田廣島縣知事より、將兵に贈らるべき「武運長久」を祈る嚴島神社の護符を容れるべき袋の調製につき、支部長は市内各高等女學校に依頼せし處、非常時に目覺め緊張の意氣を漲らせる各女學校は、既に夏季休暇にて家庭に自修中の子女團員を召集し、裁縫に従事せしめしが、其の校名並調製個數は次の通りであつた。

廣島縣女	八千個	山中高女	四千個	廣島女學院	二千五百個
進徳高女	二千個	西高女	五百個	計	五團 一萬七千個
外に					

安田高女	五百個	女子專門	二千個	市立高女	千個
女子商業	二千個	計	四校	五千五百個	合計九團校
					二萬二千五百個

#### (二) 廢古毛織品の蒐集

十四團で二百五十八貫餘匁

政府の羊毛對策、軍部の資源動員計畫等に付いて見るも、單に廢物利用としての外、國家の經濟的見地より洵に有意義の事業たるを失はず、殊に本會としては、時局柄今後愈々必要を加ふべき軍事後援、特に生活扶助資金造成の好施設と認め、縣下各女子校に於ける愛國子女團員に呼びかけ、之が蒐集に着手せし所、其の數量は次の通りであつた。

竹原 高女	三七貫三五	廣島 縣女	四三貫四二	尾道 高女	二六、七〇
山中 高女	四一、六四	瀬戸田高女	五二、九六	深安 實業	三、〇〇
江田島實科	一、八九	吉田 高女	一一、一三	松永 高女	一七、九五
吳丸橋	四、〇〇	鞆 實科	一、三二	甲山 高女	七、八〇
祇園 高女	五、五一	藝陽 實科	二、四〇	合 計	二五八、〇七

#### (三) 白衣勇士の慰問に繪畫の寄贈

十一團より約二百點

昭和十二年も木枯しすさぶ頃であつた、當時の支部長富田知事夫人の發意で、子女團の賛同を要望され、團員の繪筆に染められて出來たのである。それは多數戰傷病者の中には、歩行の自由を欠く爲め室外に出づることも叶はず、日夜病床



を贈るゝことの出来ざる方々に對し、何かお目を慰むるに足るものなきかとて、或は盆栽、或は美しき口繪の雜誌等、各方面よりの寄贈もあるが、壁面の裝飾を兼ねて、乙女の赤心を繪筆に染めた繪畫を額面に納め、之を病室に掲げらるゝ様寄贈してはとのことに、何れも賛成、額面調製の費用まで釀出し、各團員思ひの繪を畫き廣島・吳・福山の各病院に寄贈したのであつた。

子女團名	寄贈繪畫點數	子女團名	寄贈繪畫點數	子女團名	寄贈繪畫點數
山中高女	三十點	進徳高女	三十點	廣島女學院	二十點
廣島西女	六點	吳市各高女	六十點	松永高女	五點
賀茂高女	一點	津田實科	三點	可部高女	四點
福山増川	三點				

(四) 船中のつれづれを慰むべく寄贈せむと  
團員の蒐めた雜誌は四千五百冊

戦傷患者に痛く同情と敬意を表し、其の歸還航海中のつれづれを慰めらるゝ一端ともなればとて、子女團の蒐めた雜誌は、次の通りであるが、支部では之をトラックに積込み、陸軍運輸部に運び寄贈の手續きを了したのであるが、當時の松田運輸本部長は團員の努力を深く感謝された、今之れに従事せし團名と數量は次の通りであつた。

廣島西高女	三百二十冊	廣島女學院	五十冊	進徳高女	三百五十冊
山中高女	千五百二十冊	合 計	四千五百十冊		

(五) 肌襦袢及越中禪の縫製

現地より歸還を命ぜられたる白衣勇士が船内に於て、戦塵にまみれた肌衣の着替を要するので、當支部は、帝國軍人後援會と協力、肌襦袢三千枚と、越中禪五千枚を寄贈することとなり、此の旨子女團に傳へし處、何れも快諾、或は日曜日に出校、或は自宅で夜業等、格別の努力を以て之が裁縫を爲し、慰問文を添へて返送せるもありしが、當支部は「帝國心城會」が頒布せる「心城要鑑」一部づゝを添へて、陸軍運輸本部に寄贈の手續きを了した。即ち其の品目數量次の通りであつた。

品 目	數 量	縫製奉仕團名	品 目	數 量	縫製奉仕團名
肌襦袢	四〇〇枚	吳市土肥女子學園子女團	肌襦袢	五六〇枚	吳市立高女學園子女團
同	七二〇枚	吳市丸橋高女	同	七〇〇枚	縣立吳高女
同	一〇〇枚	吳市立實科	同	五〇〇枚	吳精華高女
越中禪	六〇〇枚	上下高女	越中禪	六〇〇枚	吉田高女
同	六〇〇枚	河内高女	同	六〇〇枚	可部高女
同	四〇〇枚	尾道市女	同	四〇〇枚	向原高女
同	四〇〇枚	廣實科	同	三〇〇枚	輛實科
同	三〇〇枚	濟美實科	同	三〇〇枚	深安實業女
同	五〇〇枚	忠海高女	合 計	八、〇〇〇枚	十七子女團

(六) 敵弾除けの護符千人針の奉仕

千人針の作製は、容易の業ではないが、兎に角千人の女性が、赤心こめて勇士の武運を祈るべく、彈丸除けの意味に於て作製するのであるから、之を肌に着けたる者は、百萬の味方を得た氣持で眞に敵弾は外れるであらふとの信念より、懸命に作製に取りかゝつたのが、愛婦子女團の千人針である。今其の奉仕の狀況は次の通り三回に涉つた。

第一回奉仕團(腹巻形)

團名	枚數	團名	枚數	團名	枚數
廣島縣女子女團	一、一七六	進徳高女子女團	一、二二二	賀茂縣女子女團	四〇〇
上下縣女 同	二〇四	藝陽實科 同	一三五	竹原縣女 同	三七七
甲山縣女 同	一六七	田熊青年 同	七三	瀬戸田高女 同	一八三
府中縣女 同	六〇〇	廣實科 同	一一三	山中高女 同	一、二九〇
祇園高女 同	一〇〇	可部縣女 同	二〇一	吳實科 同	一三三
鞆實科 同	九四	福山縣女 同	二五〇	増川高女 同	四八八
向島實科 同	一二〇	吳縣女 同	八九七	門田高女 同	四七〇
江田島實科 同	八七	忠海縣女 同	二〇〇	尾道縣女 同	八〇〇
吳市女 同	七〇六	土肥學園 同	七八一	吉田縣女 同	二二〇
河内高女 同	一三五	愛仁女 同	六七	尾道市女 同	一八五

丸橋高女 同	六八六	深安實業 同	一二五	向原高女 同	一三〇
松永縣女 同	四五三	土井田洋裁 同	九二	濟美實科 同	一〇〇
三次縣女 同	二五〇	合計	一四、九八二		

第二回奉仕團(手拭形)

團名	枚數	團名	枚數	團名	枚數
廣島縣女	二〇〇	進徳高女	二〇〇	山中高女	二〇〇
吳丸橋	一五〇	土肥高女	一五〇	吳縣女	一五〇
福山縣女	一五〇	尾道縣女	一五〇	廣島學院	一〇〇
吳精華	一〇〇	吳市女	一〇〇	門田高女	一〇〇
増川高女	一〇〇	松永縣女	七〇	府中縣女	七〇
三次縣女	七〇	尾道市女	五〇	賀茂縣女	五〇
忠海縣女	五〇	竹原縣女	五〇	計	二、二六〇

第三回奉仕團(ハンカチーフ形)

團名	枚數	團名	枚數	團名	枚數
向原高女	三〇	上下縣女	三〇	三次縣女	七〇
尾道市女	七〇	精華高女	一〇〇	東城縣女	三九
府中縣女	七〇	土肥學園	一〇〇	門田高女	一〇〇

下欄主要部

福山縣女	一〇〇	増川高女	一〇〇	河内高女	三〇
吳縣女	五〇	尾道縣女	一一〇	松永縣女	四五
合計	一、〇四五				

四三二

(七) 針山ざらへ

支那事變勃發一周年廢物尊重資源涵養の爲めにとて、從來針供養として土中に埋没せらるべき運命の縫針、其の他蓄音機用針の蒐集方發表、子女團にも参加を求めし所、左記の通りの成績を見た。

八百 匁	深安實業子女團	一貫 匁	向島實科高女	二貫四百 匁	山中高女同
五百三十一 匁	鞆 實科 同	一貫八十 匁	土井田洋裁同	九百三十 匁	三次縣女 同
六百十 匁	祇園高女 同	七百 匁	賀茂縣女 同	合計	八貫五十一 匁

(八) 愛國貯金

本會が昭和八年以來提唱の愛國貯金は、支那事變勃發と共に、一層其の實行を強調せらるゝを以て、子女團に對しても時局の重大性と、經濟戰の緊要を説きし結果、戰後第三年末の成績は次の如くであつた。

子女團愛國貯金調査表(十四年十二月調)

一人平均一ヶ月貯金額	十四年十二月現在貯金總額	十四年十二月現在貯金人員	子女團名
二〇	三、〇六七・二〇	九七二	縣立福山高女

一〇	四〇六、〇〇	三三〇	藝陽實科
六八、四	一一、九四四、一〇	一、二〇八	廣島縣女
四八	一、三一〇 國債	一四〇	瀬戸田高女
一〇	七八〇、七〇	四四二	賀茂高女
七三	一一、〇五四、〇六	六八八	廣島女學院
二〇	六四〇、一〇	八五〇	吳精華
一〇	七三八、五七	一九九	東城高女
一〇	八五、〇〇	六五五	門田高女
三〇	二、四四一、八三	五一	津田實科
七六	五、七九九、六七	四六八	三次高女
三九	四二一、六〇	六二四	府中高女
一七	五九〇、〇〇	九一	鞆實科
四三	一、九七七、八四	一一二	吳市立實科
二〇	二、四九〇、〇九	二二五	尾道市立高女
一〇	二、四〇九、五〇	六五三	増川高女
四四	一、五二二、八八	二三八	可部高女
		二二二	上下高女

下欄主要部

四三三

下欄 主要数

尾道縣女	八二六	二、六四四、〇〇	一九
甲山縣女	三二〇	五七三、三〇	一五
向原高女	二四九	一七、三六〇、二二	三〇〇
松永縣女	四六〇	三、〇九五、二二	四〇〇
吳縣女職員	三一	三、三三二、〇四	一〇、六六
吳縣女團員	一、〇七六	二七九、四六二、二六	一、五八
濟美實科	一〇八	一、九二五、〇四	九五
吉田縣女	二一六	一、〇一五、七五	二八
忠海縣女	四七〇	一、一七〇、三〇	二〇
廣島西高女	三〇五	一、七八四、四五	一五
山中高女	一、三四〇	二、五六一、四〇	一〇
廣實科高女	一八九	二二二、二九	計
三〇	一三、六三八	三六四、七四六、二一	合

四三四

# 第八章 本會解散と統合

## 第一節 婦人團體統合に就て本會より示達

政府に於かれましては閣議の決定に依り、今回多年の懸案でありました婦人團體統合の基本方針、並新團體結成要綱を決定せられ、本會を始め、各關係團體に對し協力方を申出らるゝに至りましたことは、今日の非常時局下に於きまして、國家の要請に即應する婦人体制確立の爲止むを得ないと共に、大局の上より喜ぶべき事と存じまして、之に對する本會の態度に付き、去る十四日本部に於ける評議員會に附議致しました處、全員一同賛意を表はされたのであります。

統合後の團體は、日本婦人が渾然一体となつて、畏くも 皇族を總裁に戴き奉り、我が國傳統の婦道に則り、益々修養錬成に努め、又奉仕の趣旨に依る各般の事業等にいそしみ、統後婦人として愈々奉公の一途に邁進することを目的とするものであり、尙關係團體幹部員、其他から成る結成準備委員會に於て、眞に全日本婦人の生きた血の通つたものが具体的に作り上げられる事になるのであります。

従つて只今迄團體が幾つかに分れて居つた時の様に、一つの事をするにも遠慮をし合つたり、氣兼ねをし合つたりするやうな事は、今後絶対に無くなり、會員の總てが一つに融け合ひ、互に手をつないで立ち上ることの出来るやうになるのであります。即ち從來他の團體と多少でも張り合つたり、其の間に空隙があつたりした事があつたとすれば、さうしたことは凡て清算される譯であります。全日本婦人が、新たなる意氣に燃へ、一層の熱意と、前途に對し洋々たる希望とを以て

下欄 主要数

一元化された團體を守り育て、往つてこそ、統合の眞の意義があるのだと存じます。その氣持で全國姉妹が結束して、此の重大の時局に御奉公を致さうとするのであります。私共は從來に倍加する意氣と灼熱したる赤誠とを以て、益々會祖の精神を體し、一層精勵いたさなければならぬと存じます。

六月十日

### 第二節 統合に關し各市町村分會に示達

拜啓益々御清邁奉賀候陳者本會の爲め多年に亘り一方ならざる御盡力を蒙り常に感謝罷在候處今回別紙(一)要綱の通り婦人團體統合に關し閣議に於て決定相成本會も別紙(二)三團體の共同聲明書の如く賛意を表し候に就ては何れ統合の期の來るべきこと、存候が尙細部の具体的事項に付ては準備委員を設けて決定せらるゝことに候故高議確定せられたる時は更に御通報申上げ共に新團體結成に邁進致度くと存居候へ共愈々結合に至るまでは支部としても總て従前の通り業務を繼續致候故分會に於かれても何等動搖することなく從來通り各般の事業に奉仕し事務御處理方此上共御配慮相煩度候近々分會長顧問の事務打合會を開きて萬事御協議可致豫定に御座候が不取敢右御通知旁得貴意候也

六月十七日

#### (一) 新婦人團體結成要綱

#### 第一、結成方式

一、高度國防國家建設ノ要諦ニ即應スル婦人体制確立ノタメ關係婦人團體ヲ統合シ一元的ニ統合セラレタル新婦人團體ヲ結成スルコト

二、新團體ハ愛國婦人會、大日本國防婦人會、大日本聯合婦人會ノ三團體ノ統合ヲ主眼トシ其ノ他ハ新團體結成後逐次之ニ統合セシムルコト

#### 第二、名稱

新團體ノ名稱ハ新ニ之ヲ定ムルコト

#### 第三、目的

皇國傳統ノ婦道ニ則リ修身齊家奉公ノ實ヲ擧グルヲ以テ目的トスルコト

#### 第四、事業

一、新團體ノ行フ事業左ノ如シ

一、皇國傳統ノ婦徳修練ニ關スル事項

一、家庭生活ノ非常準備確立ニ關スル事項

一、子女ノ養育、家族保健其ノ他家庭生活ノ整備ニ關スル事項

一、家庭教育振興ニ關スル事項

一、國防上必要ナル訓練ニ關スル事項

一、軍人援護ニ關スル事項

一、隣保相扶ニ關スル事項

- 一、其ノ他本會ノ目的ニ關シ必要ナル事項
- 二、新團體ノ中央地方本支部ニ於テハ施設ヲ伴フ事業ハ之ヲ行ハズ分會ニ於ケル事業ハ奉仕ノ趣旨ニ依リ且其ノ事業ハ當該分會ノ經費ノ範圍ニ止ムルコト

第五、組織

- 一、允許ヲ得 皇族妃殿下ヲ總裁ニ奉戴スルコト
- 二、會員ハ日本婦人タルコト但シ年齡滿二十歳以下ノ未婚者ヲ除ク
- 三、新團體ノ組織範圍ハ内地、朝鮮、臺灣、樺太、南洋群島トシ支那、滿洲、關東州ハ除ク
- 四、新團體ハ東京ニ中央本部ヲ設クルコト
- 内地ニ在リテハ道府縣ニ地方本部ヲ概ネ郡、市ニ支部ヲ概ネ縣町村ニ分會ヲ設クルコト
- 朝鮮、臺灣、樺太、南洋群島ニ在リテハ朝鮮本部、臺灣本部、樺太本部、南洋群島本部ヲ設クルコト
- 五、新團體ノ役員中各組織ノ長及副長ハ女子ヲ以テ之ニ充テ其他ノ役員ハ男、女子ヲ以テ之ニ充ツルモノトスルコト
- 六、官公吏ハ新團體ノ有給常任役員トナラザルコト
- 七、中央本部ノ役員左ノ如シ

會長	一名	
副會長	若干	
理事	若干	內理事長一名、常務理事若干
參事	若干	
監事	若干	

審議員 若干

外ニ顧問ヲ置クコトヲ得

- 八、新團體ノ中央本部主要役員ハ監督官廳推薦スルコト
- 九、地方本部主要役員ハ地方長官（外地ニ在リテハ其ノ長官以下同シ）關係軍部地方官廳ノ長ト協議ノ上推薦スルコト

第六、經費

- 一、新團體ノ經費ハ會費（一人一年六十錢以内、但シ家庭ノ事情等ニ依リ徵集セザルコトヲ得）其他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツルモノトス
- 二、新團體ハ寄附募集ヲ行ハザルコト

第七、監督指導

- 一、新團體ノ監督ハ内務、陸軍、海軍、文部、拓務、厚生六省共管トシ補助金豫算ハ厚生省ニ於テ計上スルコト
- 二、新團體ノ地方ニ於ケル監督ハ地方長官之ヲ行フ但シ國防訓練ノ普及ニ關シテハ陸海軍大臣ノ定ムル地方官廳ノ長地方長官ト協議ノ上之ヲ指導スルモノトスルコト（八月一部改定）

第八、雜

新團體ハ統合ニ關係アル既存團體ノ清算財産中新團體ノ目的達成上必要ナル財産ヲ引繼グモノトスルコト  
 統合ニ關係アル現存團體ノ解消ハ同時ニ行フモノトスルコト

(二) 統合に關する三團體聲明

政府に於かれまして、今回多年の懸案でありました、婦人團體統合の基本方針を御決定なりました事は、洵によるこばしい事と存じます。私共の團體は、夫々使命乃至その沿革に於て相異なるものがありまして、従來はその團體夫々の立場に於て微力乍ら御奉公の誠を捧げて参つたのであります。團體が幾つにも岐れて居りました事は、私共としても正直なところ、時には色々な差障りを感じた點も多分にあつたのであります。世間に傳へられるほどその間に抗爭磨擦があつたとは思ひませんし、各團體が互に切磋琢磨してその活動に一段の力強さを覺えて居つたのであります。他團體の存在がお互に、非常に大きな激動となつて居つた事も事實であります。然し乍ら、この未曾有の時局は、お互が國內に於て互ひに勵まし合ふ程度では、到底乗り切れるものではありません。

日本婦人の凡てが、眞に一体となつて、時艱克服に邁進する事が、現下の時局に於て最も大きな使命である事を思ひます時、政府の今回の御方針には滿腔の賛意を表するものであります。而も、今度の御方針に基いて、私共婦人の手で、新團體を結成せしめられる事になりましたのは、私共婦人の要望を盛り込んだ、ほんとに生きて血の通つた新團體をつくり得る大きな機會でありまして、この點實にうれしく存じて居ります。私共は、この際時局下流行的傾向とも見られる統制ばりの婦人團體を形式的につくり上げてはならないと存じます。私共各團體の歴史の中に生きて居られる、先人達の血と汗と涙によつて築き上げられた、婦人報國の生命を新團體に受けついで、過去の一切の行き懸りを清算し、報國の至情に燃えて、婦人奉公の眞の機構を作り上げる事に努力致し度いと念願して居ります。

### 第三節 西部愛國婦人會各縣支部懇談會 (十月四日廣島縣支部で開催)

會長代理力石理事、小原事務總長より統合問題に關する本日までの經過並に本會が之に對する將來の方針等につき説明

あり、出席員は隔意なく意見を吐露して懇談したるが、統合問題が國策に沿ふための精神的のものであるため、準備委員會に期待して純眞なる氣持で統合問題を考へて居つた愛婦幹部の人達は、委員會が停頓して統合に進み得ないことに立ち至つた經過を聞いて實に残念に思ひ、打つて一丸とならねばならぬ日本婦人の將來に思ひをいたし、憂慮に堪へずとして泣いて日本女性の心情を語り、ハンカチを目に當てた婦人も多かつた。

本日懇談の意見大要は次の如くである。

#### 大意

一、今回の統合問題は、國策に沿はんがための精神的のものでありますから、一同が虚心淡懷、所謂滅私奉公の純心を以て之に當らねばならぬことは申すまでもなく、其故に準備委員會の第一歩に於て、一同が誓を立てられて出發せられたものであります。然るに其後委員會の狀況を聞き、又地方の實情を見ますところでは、實に不快に感ずるものがあります。而しながら重大問題でありますから、憤慨や口説や煩厭の感情を以て之を論じてはなりません。冷靜に其の事實を直視して條理の上に論定せねばならぬのであります。今現在に横はつて居る委員會停頓の問題を考へまするに、

#### 第一

六月十日の閣議に於て決定せられたる新婦人團體結成要綱なるものは、今回統合問題の根幹にして中軸をなす大精神であり、天下に公表せられたるものであります。この大方針に従つて準備委員會は、其の實施の方法を急いで協議しつゝあつたのであります。然るに突如として、八月廿日陸軍大臣の持ち廻り閣議によつて、この大方針たりし「地方支部の監督が知事一本立てなりしものを、知事及軍部の二本立に變改」したることを發表せられました。準備委員は、更に與り知らざりしことなりしと言はれますが、責任を以て其の實施の研究に當面せる委員會に之を語らずして、かゝる重大

方針の變更せられたることは、實に奇怪なる事であつて、準備委員會の存在は無きも同然であります。委員會に議すれば反對せられるから黙つてやつて仕舞つたと言はるゝならばそれは開い行為であり、開打ちであります。左様に閣の内にも重大事項を易々として變改せらるゝならば、準備委員會の協定は定礎のない建築に異ならざるもので、其の協議せる事項に信頼もなく、價值もないのであります。それでは準備委員會の協議の出来ないのも、停頓するのも、當然であると思ひます。

## 第二

知事及軍部の二本立の監督となる婦人團體の統合には賛成することが出来ないであります。それは軍部が嫌だと言ふのではない、明けても暮れても皇軍の御恩報謝を口にする愛婦が、軍部を嫌ふ筈のことはないことは申すまでもありません。只二本立の監督は、新婦人團體のために決して幸福でないからであります。熱心な知事さんと、熱心な部隊長さんと、熱心が二人集つて監督すれば一層良いではないかと言へば、素人考へには左様かとも思へるが、熱心な知事、部隊長、裁判長、僧侶、實業家何々々と熱心か澤山集まれば一層良くなるかといへば事實は決して左様ではありません。後援ならば何程在つても宜しいが、監督指導は一本でなくては命令二途に出た場合團體は向ふところに困るのみであることは説明するまでもなく、各種の團體に於て過去及び現在幾つも事實が證明して居ります。若も三つの團體が互に現在の自己團體を有利ならしむるために二本立にするといふことであるならば、それは團體の個人主義とでもいふべき考へ方であつて、最も排除せねばならぬものであります。又多數の會員が承知せぬから二本立にせねばならぬと言ふならば他にも多數の會員の満足せぬものは在ると思ひます。斯様なことでは統合せざる内に既に刺激と磨擦の因を作るものであります、其の不可なることは申すまでもありません。二本立の不可なることは、六月十日の閣議發表までに充分研究し盡されたるものであると信じて居ります。斯様に二本立の新婦人團體は決して御國のために良き婦人團體にはなり

得ないのであります。國策には沿はないのであります。國策は斯様な磨擦の因を除去し、一本立に打つて一丸となることを希望してこの統合問題となつたのでありますから、其の根本精神に反し國の御爲にならないと思ふ婦人團體を結成することに同意出来ないであります。

## 第三

一本立ならば、知事と軍部と何れが監督するかは、既に六月十日の閣議で定つて居つたことで明了であります。縣民の思想、保健經濟悉く知事の責任であります。新婦人團體の實行事業項目を見ても、悉く知事の責任に屬するもののみであります。軍部の監督を要する責任のものはないとすれば、知事が一本立監督することが當然ではありますまいか、又それだけでなくはならぬのであると思ひます。それが常道であり、正道であると思ひます。超非常時であるから特別に軍部が直接婦人團體を監督するといふことではないと思ひます。超非常時なるために監督するならばそれは知事を通じて監督するのであると思ひます。

## 第四

愛婦は、既に四十年の歴史を清算して御國の爲に快よく統合することを決意したのでありますから、決して統合を拒むのでもなく、又執着に捕はれて逡巡するものではありません。只互に純心に快よく御國の爲に力強く握り合つて立つことの出来る、希望ある婦人團體を結成いたさねばならぬと思ふのであります、それに反する障害の目前に見ゆるが如き團體の結成には、進んで行くことが出来ないであります。

準備委員會は、八月二十日以來開催されないようですが、速かに再開の機を來るを見まして、眞に御國の爲になる婦人團體を結成し得るならば、喜んで統合することに躊躇はいたしません。今は靜觀して中央本部の確立を待てばよ



いと思ひます。

停頓したる現状に於ても、婦人報國の活動は一日も緩うし忽がせにしてはなりませんから、愛婦は統合問題の起らなかつた以前と少しの變りも緩みもなく、會員の募集によりて會勢の發展をなし、各種の事業に精進して本會の使命達成に一日の怠りあつてはならぬことを期するのであります。

大体以上であつて、其の熱意と決意とは終始議場を肅然たらしめた。

他團體の悪口を言ふものなく、新團體の役員準備を口にするものなく、一に國家のために圓滿強力なる新婦人團體を語らるは、さすがに歴史ある愛婦の會合だと思つた。

(附) 西部支部長懇談會出席者

本部	力石理事	小原事務總長	磯部本部員	評議員	主事
地方本支部	支部長	副長	土井里子	吉永	貞
朝鮮本部			大野よしを	柴田美夫	

兵庫縣	龜山絢子	内村優子	原田淺治
	小曾根清子	黒瀬久香	
岡山縣	横溝光子	坂本鶴子	奥田眞須二
	遠藤チヨ	佐々木小靜	
	上代淑		

廣島縣	石井萬亀子	堀田雪子	溫田冬子	土居肩吉
			大島靜子	
山口縣			早水マス	
			弘中常子	前田安太郎
香川縣	永安きみ		小田春野	
			富家ソネ	
愛媛縣		沖野清子	畑山靜江	土居茂
			鶴田芳子	野上傳藏
福岡縣			新ヶ江イチ	清川敏郎
		豐増一女	中橋茂子	木村源吉
佐賀縣			正木照子	
		岡田百合子	松尾八重子	古川柳五郎
長崎縣			井芹貞子	梶田竹松
			朝井龜	
熊本縣	雪澤春代		八波千代	高本武彦
			山上綾子	
大分縣	灘尾敏子	重田あき子	河合藤七	首藤正義



培はれました経験を活かし、新婦人團體の爲に、一段の熱と力を以て、益々會祖の遺志を擴充いたさなければならぬと存じます。

本日をもちまして愛國婦人會は茲に手續といたしましては一應形を變へる次第でございますが、右申上げます様に本會の精神は永遠に、大日本婦人會の中に立派に生きて参るのでございますから、何卒、從來、皆様が愛國婦人會に御盡し下さいましたと同様に、新團體の育成發達の爲に一層の御支援と御盡力とを賜はります様、切に御願ひ申し上げる次第でございます。

これをもちまして、私の御挨拶の言葉と致します。

## (二) 解散に際し副會長經過報告

只今より婦人團體統合問題の經過を御報告申し上げます。

婦人團體統合問題が公けに政府の問題としてとり上げられるに至りましたのは昨年二月十三日衆議院に於ける建議案に對し政府當局より答辯ありたるに始まりますことは皆様御承知の通りでございます。

爾來關係官廳たる厚生、陸海軍、文部、内務、拓務の六省間で之が具體案につき御協議が纏まり六月十日の閣議で新婦人團體に關する大綱が決定せられ、これに基きまして同二十五日には大政翼賛會を幹旋役とする第一回の新婦人團體結成準備委員會が開かれ本會よりは會長、副會長、事務總長が準備委員として事務副長が事務連絡員として十一月二十八日に於ける第十四回の最終の會議まで五ヶ月餘に亘り協議を重ね、定款案其他新團體の組織大綱に關する規程案等が定められ準備委員會は其の任務を完了しました。

次で本年一月二十七日政府の幹旋に依り結成發起人會が開催せられ定款が決定いたし政府より會長、副會長、理事、

顧問、審議員、監事、參與等の役員が推薦せられ愈々二月二日に大日本婦人會が結成されたのでございます。

これに對應致しまして本會に於きましては昨年五月以來顧問會議、理事會、評議員會、地方本・支部長會議、地方本、支部主事會議や東京市内分會長會議等を開催致しますこと約三十回其他地方ブロック別主要役職員會議や幹部懇談會等を合せますと實に其の會合は數十回に及び幹部は文字通り不眠不休の活動を續けたのでございます。

また昨年八月六日には會員臨時總會を招集し定款改正と財團法人奥村五百子顯彰會設立の件を附議して之を議決し新婦人團體結成に伴ふ諸般の準備を整へて参りましたが、愈々本日の臨時總會に於きまして茲に明治三十四年三月奥村會祖の首唱に依つて創立せられました本會は、光輝ある四十二年の歴史を閉ちかくて如實に新團體への統合に發足いたすことに相成つたのでございます。

尙財團法人奥村五百子顯彰會は本月三日文部大臣より設立を許可せられましたので、今後は寄附行爲の定むるところに従ひまして財團は新たなる生命に活きることと相成るのでございます。

簡單ではございますがこれをもちまして新團體結成の準備より本會の解散に至りますまでの經過の御報告を致します。

## 決 議

私共は本會解散に當りまして次の決意を致します。

- 一 私共は從來の熱意を基とし發奮以て新婦人團體の爲に盡しませう。
- 一 私共は大日本婦人會員として更に和衷協力一億一心の實を昂げ婦人報國に邁進致しませう。
- 一 私共は八紘一字の皇謨を翼賛し奉るべき大東亞建設の日本婦人として恥しからぬ修養をいたしませう。

## (三) 婦人會統合と本會解散

昭和十六年二月十三日、婦人團體統合問題が建議案として衆議院に提出せられ、其の際政府當局より統合の意あることを應答し、爾來關係官廳たる厚生、陸軍、海軍、文部、内務、拓務の六省間で之が具體化につき協議纏まり、六月十日の閣議で新婦人團體に關する大綱が決定せられ、之れに基き同二十五日大政翼賛會を幹旋役とする第一回の新婦人團體結成準備委員會が開かれ、本會よりは會長、副會長、事務總長が準備委員として、事務副長が連絡員として、十一月廿八日に於ける第十四回の最終の會議まで、五ヶ月餘に亘り協議を重ね、定款案、其他新團體の組織大綱に關する規程案等が定められ、次いで十七年一月二十七日、政府の幹旋に依り結成發起人會が開催せられ、定款が決定し、政府より會長副會長、理事顧問審議員、監事參事等の役員が推薦せられ、愈々二月二日に大日本婦人會が結成せられた。従つて我が愛婦は右に對應すべく、昨年五月以來顧問會議、理事會、評議員會、地方本支部長會議、地方本支部主事會議、東京市内分會長會議等を開催すること約三十回、其他地方ブロック別主要役職員會議や、懇談會等を合すれば其の會合は實に數十回に及び、解散並び善後處置に關し不眠不休の活動を續け、此間會員臨時總會招集、定款改正と財團法人奥村五百子顯彰會設立の件を議決し、尙新婦人團體結成に伴ふ諸般の準備を整へ、二月十二日臨時總會招集愈々解散の決議を爲し、茲に明治三十四年三月二日、奥村會祖の首唱に依つて創立せられし愛國婦人會は、光輝ある四十二年の歴史を閉ぢ、新團體への統合に發足することとなり。以上は本部に於ける經過なるが、愈々解散の通知に接したる當支部は、其旨直ちに最高幹部に報告し各分會に傳達、一面支部役員たる參事、評議員、廣島市内分會長會合を求め、支部長は左記の挨拶を爲せり。

## 支部長挨拶

愛國婦人會は、去る本月十二日東京軍人會館に於て、會員臨時總會を開催し、其の決議に基きまして、四十有二年の長き歴史を閉ぢ、大日本國防婦人會、大日本聯合婦人會と共に、去る二月二日結成されました、國民待望の新婦人團體への結合に發足致すこと、相成つたので御座います。

願ひますれば、明治三十四年、我が國に於ける最初の大婦人團體として本會が創立せられましたから丁度四十二年、此の長い間に亘り、本會は婦人報國の大旗を掲げて、軍人援護事業に、厚生事業に、婦人報國運動に、其他諸般の活動に、全會員の總力を結集して、克く先驅的役割を果し、斯くて今回生れました新團體の大なる基礎を爲しましたことは、御同慶に存する次第で御座います。吾が廣島縣支部に於きましては、明治三十四年の創立當時會員僅か八九名で御座いましたが、年を閱するに従ひ、會祖奥村五百子女史の愛國の精神は多數御婦人に徹底し、解散當日の昭和十七年二月十二日現在では、實に十八萬三千四百八十二人の多きに達し、會業も年と共に進展充實して参りました。殊に吾が廣島縣は、師團や海軍鎮守府の在る軍縣でありますので、日露戰役滿洲事變等に置きましたは、當支部は全國に魁けて、慰問袋の發送や、出動軍人の送迎、湯茶接待等軍事後援に涙ぐまじき活動を致されました、其の功勞は、蓋し甚大なるものが御座いました。昭和十二年七月今次の事變勃發致してよりは、皆様は克く事變の性質を強く御認識下され、會員の方々の陣頭に立ち、長年月に亘り統後の任務に献身的御奮闘をお続け下さいましたことは、眞に感謝感激に堪へざる處で御座います。吾が愛國婦人會が斯様に協力一致婦人報國に邁進し、大いなる成果を挙げましたことは、申すも畏き極みで御座いますが、偏に上

皇室の御恩寵、御獎勵と 總裁殿下の御高德、御精勵の御賜で御座いまして、この御仁慈が如何ばかりこの献身的御奉公に強い力を御與へ下さいましたことで御座いませう、誠に恐懼感泣の至りで御座ります。

今茲に、この四十餘年間の有がたき光榮を想ひ、輝く本會の業績を顧み皆様の愛國の熱情を偲びます時、私情に於て

私共は本會に對し、洵に斷ち難い愛着の念が禁じ難いので御座ります。然しながら婦人團體の統合は、實に時勢の要求に依る所でもあり、特に刻下曠古の重大時局に際會し、小異を捨て、大同に即き、全日本婦人が一体となつて、榮ある聖戰の目的完遂に邁進することは、素より其の所で御座りまして、本會は欣然新婦人團體の結成に同意參加することゝなつたもので御座ります。

愛國婦人會は解散となりましても、其の崇高なる盡忠報國の精神は、大日本婦人會の中に立派に生きて參るのでありますから、何卒皆様には奥村會祖が國家の今日あるを洞察せられて、本會磐石の基礎を定められた炯眼と、至誠とに敬服感激し、會祖の精神を體し、愛國婦人會にお盡し下さつた御體驗を活かし、新婦人團體の爲に一段の熱と力とを以て、益々會祖の遺志を擴充し、皇室の御殊遇、總裁殿下の御高德に答へ奉らるゝやう、御配慮の程御願ひ申し上げる次第で御座ります。

茲に多年本會のため、殊に當支部の發展のため、色々と御配慮御盡力下さいました事を厚く御禮申し上げます。

解散通知

謹啓陳者愛國婦人會ハ昭和十七年二月十二日臨時總會ヲ開催シテ解散ヲ決議シ同日監督官廳ノ認可ヲ得タル旨通知有之候間不取敢御報知申上候

昭和十七年二月十二日

愛國婦人會廣島縣支部長代理 支部副長 石井萬亀子

- 顧問 殿 參與 殿
- 參事 殿 評議員 殿
- 分會長 殿 子女團長 殿

第五節 清算事務處理心得

解散ノ通知

地方本支部長ハ(海外支部及委員部ヲ含ム以下同ジ)會長ヨリ本會解散ノ通知ヲ受ケタルトキハ直チニ之ヲ分會長ニ通知スルコト

會務ノ引繼

地方本支部長ハ解散ノ通知ヲ受ケタル後遲滞ナク會務ニ關スル一切ノ諸帳簿、書類、會計ニ關スル證憑書類並ニ不動産、動産、有價證券、現金、備品什器其ノ他一切ノ財産目錄ヲ調製シ本支部清算事務委員長ニ引繼グコトヲ要ス

地方本支部清算事務委員長ハ之ヲ本部清算人ニ報告スルモノトス

(以下本部清算人ヲ單ニ清算人ト書ス)

庶務ニ關スル諸帳簿

會員名簿

佩有功章者名簿

文書收發簿

下編 主要書

下欄 主要簿

其ノ他一般庶務ニ關スル帳簿  
等

會計ニ關スル諸帳簿

日計簿  
歳入内譯簿  
歳出内譯簿  
會費、贊助金、賛成金、收入明細書  
寄附金收入明細書  
資産臺帳  
不動産臺帳  
備品臺帳  
物品購入決裁簿  
消耗品受拂簿  
郵便切手、葉書受拂簿  
等其他補助簿一切

地方本支部及分會ニ於ケル清算事務擔當者

地方本支部及分會ニ於ケル清算事務擔當者ニ付テハ

一、清算人ハ地方本支部長ヲ地方本文部ニ於ケル清算事務委員長ニ副長ヲ副委員長ニ囑託ス但シ清算事務委員長及副委員長ハ無給トス

清算事務委員長長事故アルトキハ副委員長代理ス但シ事情ニ依リ清算事務委員長ハ首席清算事務委員ヲシテ代理セシムルコトヲ得

二、地方本支部清算事務委員長ハ主事以下必要ナル職員ヲ清算事務委員ニ囑託シ其ノ職氏名、月手當（前職最終ノ俸給、臨時手當、家族手當ヲ合シ手當トス）ヲ清算人ニ報告スルコト

地方本支部清算事務委員長ハ前項ノ外必要ニ依リ清算ノ爲補助職員ヲ置クコトヲ得

三、地方本支部清算事務委員長ハ分會長ヲ分會ニ於ケル清算事務委員ニ囑託シ分會ニ於ケル清算事務ニ從事セシム但シ無給トス

分會清算事務委員ハ必要ニ依リ補助職員ヲ雇傭スルコトヲ得

四、分會清算事務委員ハ分會ノ事業處理及分會保管ニ係ル不動産重要ナル動産ノ處分ニ付テハ地方本支部清算事務委員長ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

五、地方本支部清算事務委員長ハ分會清算事務委員ニ對シ清算事務處理ノ願末ヲ報告セシムルモノトス

六、地方本支部清算事務委員長同副委員長同清算事務委員並ニ分會清算事務委員ハ清算事務ニ要シタル旅費、宿泊料、日當ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ額ハ各前職ニ對スル本支部並ニ分會旅費給與規定ニ依リ取扱フモノトス

七、分區以下ニ於ケル事業、財産ノ整理ニ付テハ本心得ニ依リ分會清算事務委員ニ於テ處理スルモノトス

清算ニ關スル本會ノ名稱並ニ使用印章

下欄 主要簿

本支部清算事務委員長、分會清算事務委員ハ清算ニ關スル名稱ヲ「愛國婦人會道府縣支部（朝鮮、臺灣、滿洲ハ本部）清算事務委員長」「愛國婦人會何市區町村分會清算事務委員」トシ左ノ印章ヲ使用スルモノトス（印章略ス）

豫算編成

本支部清算事務委員長ハ清算事務費、事業費、整理費（支部長ヨリ引繼テ受ケタル事業費）分會事業整理費、解散ニ伴フ諸經費、其ノ他ノ諸費等別紙豫算様式（一）ニ依リ豫算ヲ編成スルコト而シテ豫算ハ遲滞ナク清算人ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス分會ニ於ケル豫算ハ支部ニ準ジテ作成シ支部清算事務委員長ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

註 豫算ニ編入スベキ事業整理費ハ新團體ノ支部ニ引繼ギタル事業（二ケ年以内實際ノ必要經費ヲ見込ムコト）其ノ他事業ノ整理ニ要スル經費ヲ見積ルモノトシ收入ハ十六年度分ノ會費、未納會費、道、府、縣、市町村其ノ他ヨリノ補助金、本部、補助金、財産收入、事業收入、雜收入、基金、資金其ノ他ノ收入トス

昭和十六年度收支決算ノ作成

昭和十六年四月一日ヨリ解散當日ニ至ル十六年度收支決算ハ解散後ニ於テ作成スルコト、ナルヲ以テ支部清算事務委員長ハ可成速ニ之ヲ作成シ資産明細書ヲ添付シ清算人ニ報告シ承認ヲ求ムルコト

- 註 一、分會ニ於テハ分會清算事務委員之ヲ作成シ支部清算事務委員長ニ報告シ其ノ承認ヲ求ムルコト
- 註 二、解散ニ伴フ支部、分會ノ名譽役職員ニ對スル記念品代、支部有給職員ニ對スル解散手當等ハ清算財産中ヨリ支拂フコト、ナルベキヲ以テ支部清算事務終了後作成スベキ收支決算ノ際之ニ計上スルコト
- 註 三、從テ七月五日付愛産發第三九四號本會ノ現行事業其ノ他處理ニ關スル件通牒別紙五ノ答中解散ニ伴フ名譽職員

及有給職員ニ對スル記念品代解散手當等ノ給與額ハ十六年度決算ニ「解散ニ伴フ諸經費ノ科目ヲ設ケ經理スルコト」トアルハ自然改訂セラレタルコトニ御承知アリ度

整理期間

地方本支部並ニ分會ニ於ケル清算事務ハ本會解散ノ翌日ヨリ三ヶ月以内ニ結了スベシ但シ特別ノ事情アルモノハ此限リニアラズ

註 本規定ノ結果整理費豫算ニ編入スベキ經費ハ新團體ノ支部ニ引繼ギタル事業費二ケ年以内ノ必要費ヲ計上シ、清算事務費、事業整理費其ノ他ノ經費及收入ハ三ヶ月分ヲ見込ミ計上スルモノトス但シ特別ノ事情アルモノハ其ノ必要期間ノ收支ヲ計上スルコトヲ得ルモノトス

現務ノ結了

本會解散後ハ新ニ權利義務ヲ發生セシメ得ザル筋合ナルヲ以テ本支部清算事務委員長ハ支部長ノ定メタル支部事業處理計畫並ニ本部ニ於テ定メタル處理方針ニ基キ一切ノ事業並ニ財産ノ整理ヲナシ始末スルコト分會ノ事業處理ニ付テハ支部ニ準ズ

債權ノ取立及債務ノ辨濟

一、地方本支部清算事務委員長（分會清算事務委員）ハ諸種ノ債務ノ支拂ヲ爲スコト（繼續中ノ事業費及新團體ニ引繼ギタル事業費ノ支拂）

註 一、債務ノ辨濟ニ付辨濟期限アルモノ、年賦支拂ノ如キモノハ債權者ノ承諾ヲ受ケ辨濟期限ニ係ハラズ支拂ヲ爲ス

コト、ス

註 二、民法第七十九條ニ基キ清算人ハ公告ヲ以テ債權者ニ催告ヲ爲スモ知レタル債權者ニハ各別ニ催告セザルベカラザルニヨリ本支部清算事務委員長ハ本支部及分會ニ於ケル知レタル債權者ニ對シテハ各別ニ其ノ申出ヲ催告スルコトヲ要ス

而シテ右催告ヲ爲シタル場合ハ其ノ催告書寫ヲ清算人ニ提出スルコト

二、地方本支部清算事務委員長ハ十六年度會費、未納會費、寄附金ノ未納ヲ徵收シ其ノ他諸種ノ債權ヲ取立ルコト  
註 支部ノ有スル債權ニシテ辨濟期限アルモノハ債務者ト協議シ可成速ニ取立ツルコト

支部財産ノ處分

- 一、支部ノ管理ニ屬スル土地、建物ノ處分ニ付テハ其ノ處分案ヲ具シ賣却ニ付テハ其評價書ヲ添付シ其ノ他主要ナル動産「例ハ貴重品、記念品等ノ類」ノ處分ニ付テハ其ノ處分方法ヲ定メ清算人ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス而シテ其ノ處分ノ結果ハ遲滞ナク清算人ニ報告スルコト  
御紋章入金銀、木杯ハ主事會議ノ際ノ申合ニ依リ本部へ送付スルコト。其ノ處分方法ニ付テハ本部ニ於テ之ヲ決定ス
- 二、生業資金貸與金及子女救濟貸付金ハ一應督促ヲ爲シ返還ヲ爲サザル者ニ付テハ債權トシテ新團體へ引繼グベキニヨリ其ノ調書ヲ作成シ報告スルコトヲ要ス
- 三、新團體ノ道府縣支部、市町村支部、軍人援護會、道、府、縣支部、道府縣市町村其ノ他ノ團體ニ移讓スベキ事業ノ施設物タル土地、建物、其他ノ物件ハ之等受移讓者ト協議ノ上引渡シテ爲スコト（但シ之等事業及財産ノ移讓ハ解散後ニ爲スコトヲ要ス）而シテ引渡ヲ了シタル場合ハ其ノ目錄ヲ作成シ遲滞ナク清算人ニ報告スルコト

殘餘財産ノ引渡

以上一切ノ清算ヲ了シタルトキハ收支決算書ヲ作成シ殘餘財産明細書ヲ添付シ之ヲ清算人ニ報告ヲ爲シタル上清算人ノ指圖ヲ受ケ新團體又ハ清算人ニ引渡スコト、ナルベシ

諸帳簿及書類ノ保存

會務ニ關スル諸帳簿書類ハ左記ノ通保存スル必要アルヲ以テ之ヲヨク整頓シ其ノ保管ニ付テハ地方本支部ノ事情ニ應ジ適當ナル保管方法ヲ講ジ其ノ處置ヲ帳簿書類ノ目錄ヲ添付シ本部清算人ニ報告スルコトヲ要ス

記

庶務ニ關スル諸帳簿及書類

- 一、佩有功章者名簿 五ヶ年保存
- 一、地方本支部諸規則及例規ニ關スル書類綴 五ヶ年保存
- 一、地方本支部創設ニ關スル記録書類 十ヶ年保存
- 一、重要ナル事項ニ關スル永久保存書類綴 永久保存

會計ニ關スル諸帳簿及書類

- 一、各年度ノ豫算書及決算書類 三ヶ年保存
- 一、各種統計書類 三ヶ年保存

下編 主要篇



下編 主要誌

- 一、日計簿
- 一、歳入内譯簿及補助簿
- 一、歳出内譯簿及補助簿
- 一、會費、贊助金、贊成金收入明細書
- 一、資産臺帳
- 一、不動産臺帳
- 一、現金出納簿
- 一、收入支出ニ關スル證憑書類
- 一、其他會計ニ關スル一切ノ書類

同 同 同 同 同 同 同 同 同  
 上 上 上 上 上 上 上 上 上

十ヶ年保存

第六節 感謝狀贈呈と支部長最後の挨拶

拜啓益々御清適奉賀候

陳者本會のため種々格別なる御配慮を蒙り居候處本會も近く他の婦人團體と共に統合の期可有之と被存候に付ては其の際分會役職員中盡力に預りたる向に對し感謝狀贈呈致度と存候間御多用中御手数恐入り候へ共感謝狀を贈呈すべき貴分會の該當者來る本月二十五日迄に役職名を記し其の氏名御報告被下度此段御依頼申上候也  
 尙顧問（町村長）其他にて現在に役職員に非ざるも會て在職中多年盡力せられたる向有之候はゞ右に準じ御内報被下度申添候

感謝狀

殿

在職中熱誠會務ニ盡力シ其ノ功勞顯著ナルモノアリ今回愛國婦人會ヲ統合シテ大日本婦人會ヲ結成スルニ當リ總裁殿下ノ 台聞ニ達シ感謝ノ意ヲ表ス

昭和十七年二月十二日

愛國婦人會長 水野萬壽子

支部長最後の挨拶

拜啓春寒の御御障りもなく御多祥に被爲涉慶賀の至りに存じ上げ候

陳者御承知の通り婦人團體の統合もいよいよ實現致し過ぐる二月二日を以て新團體結成せられ我が愛國婦人會も之れに加盟致すため同月十二日解散の形式を採り直に新團體大日本婦人會に統合いたし所謂新体制の下日本全婦人が一丸となり修身齊家大政を翼賛し奉ること、相成候

願れば四十二年の昔奥村會祖が至誠一貫精魂を盡して唱導せられし統後援婦人報國事業も年と共に發展周知せられ以て愛婦今日の盛大を見るに至り候事之れ偏に畏くも上 皇室の御恩寵と御獎勵の御賜にして且つ 總裁殿下の御高德と御精勵とに依りたること誠に恐懼感激の至りに御座候この 皇恩と殿下の御高德に感泣致して會員諸姉の赤誠を盡くされたること素よりのことに候へども畢竟貴下各位の一方ならざる御指導と御援助とによりたること亦多大にして深く感謝し厚く御禮申上ぐる次第に御座候

本會が現在輝しき歴史を有し其の發展途上に於て解散を見ることは一面には惜別の執着も有之候が一面本會の趣旨が擴大強化致すものと被存新婦人會加入の上はより以上の熱意と赤誠を以て御奉公申上度と存居り候幸に一層の御指教

を賜り度茲に解散に當り乍略儀以書中御厚禮御挨拶申上候 敬具  
昭和十七年二月 愛國婦人會廣島縣支部 支部長代理副長 石井萬龜子

### 第七節 清算事務完了報告

本會は昭和十七年二月十二日解散せしを以て、其後の事務は、總て清算事務に移され石井支部長代理清算委員長を委囑せられ、土居主事以下清算事務委員として、清算事務處理心得に據り一切の事務清算に従ひたるが、六月十七日清算を完了して、次の通り本部清算人に報告し、茲に縣支部の最後を告ぐることとなれり。

#### 清算事務完了報告書

#### (一) 事業ノ整理

- (1) 軍人遺家族生業指導ミシン講習會ハ、豫テ本部ノ承認ニ從ヒ、之ヲ財團法人興亞女子翼贊會ニ移讓セリ。(手續書畧ス)
- (2) 乳幼児健康相談所ハ同ジク之ヲ財團法人興亞女子翼贊會ニ移讓セリ。(手續書畧ス)
- (3) 福山兵士寮ハ大日本婦人會福山支部ニ移讓セリ。(手續書畧ス)
- (4) 佐伯郡大野村日本赤十字社廣島療院内ニ患者父兄母姉ノ宿泊用ニトテ建築寄贈スル、愛國婦人會廣島縣支部記念寮ハ、清算終了迄ニ建築竣成不能ニ付其ノ建築費壹萬五千圓ヲ日本赤十字社廣島支部ニ寄附シテ之ガ竣成ヲ一任セリ。

(二) 事務整理 事務ハ全部完了セルモ、支部沿革誌ハ之ヲ編纂シテ永ク事蹟ヲ遺サンタメ目下編纂中ナルガ、之ガ完了ハ數ヶ月ヲ要スルカ故、元主事土居肩吉ト別紙ノ如キ契約ヲ以テ一切ヲ委託シタリ。(別紙畧ス)

(三) 職員 一部ハ大日本婦人會廣島縣支部ニ、一部ハ財團法人興亞女子翼贊會へ就職シ、其他モ大部分夫々就職セリ。

#### (四) 帳簿及書類

- (1) 庶務ニ關スル諸帳簿及書類  
別記目錄(畧ス)ノ諸帳簿書類ハ之ヲ保存スルタメ、廣島奥村記念會(興亞女子翼贊會々館内)ニ保管方ヲ委託シ、其他不要諸帳簿ハ全部之ヲ廣島縣印刷所更生部ニ送付シ更生處分ニ附シタリ。其ノ總量三百頁ナリ。
- (2) 會計ニ關スル諸帳簿及書類  
別記目錄ノ諸帳簿書類ハ一切之ヲ廣島奥村記念會ニ保管方ヲ委託ス。
- (五) 會計 別紙決算書ノ通り清算ス。

#### (六) 備品什器

- (1) 軍人遺家族生業指導ミシン講習會ニ關スルモノ別紙目錄(畧ス)ノ通り興亞女子翼贊會ニ移讓ス。
- (2) 乳幼児健康相談所ニ關スルモノ 別紙目錄(畧ス)ノ通り財團法人興亞女子翼贊會ニ移讓ス。
- (3) 其ノ他ノ備品什器ハ、一部ハ賣却シ其ノ他ハ別紙目錄(畧ス)ノ通り廣島奥村記念會へ移讓セリ。

(4) 電話ハ興亞女子翼賛會ニ讓渡ス。

會計決算

甲、昭和十七年二月十二日愛國婦人會廣島縣支部解散ニ依リ引繼ヲ受ケタル資産及其後ノ收入

(1) 動産

一金拾貳萬壹千七百八拾五圓八拾六錢六厘	受入金現金
内譯 金七萬參千九百六拾七圓六拾壹錢六厘	有價證券
金四萬七千八百八拾八圓貳拾五錢	引繼後收入
金八千貳百六拾參圓拾錢	
内譯 金壹千貳百七拾壹圓七拾錢	會費
金四千四百圓	寄附金
金貳千四百貳拾八圓貳拾五錢	補助金
金百六拾參圓拾五錢	財産收入

合計金 拾參萬四拾八圓九拾六錢六厘

(2) 不動産

一、宅地 六十坪(大日本婦人會福山市支部へ移讓)  
 此見込價格 金貳千七百五拾圓九拾八錢(臺帳面價格)

一、建物 木造二階建(大日本婦人會福山市支部へ移讓)  
 此見込價格 金壹萬參千六百拾圓五拾貳錢(臺帳面價格)

(3) 備品什器 別紙目錄(畧ス)ノ通り

乙、清算支拂

一金拾貳萬五千九百參圓貳錢	支
内譯 金五萬七百九拾壹圓九拾六錢	事業整理費
金九千貳百四拾壹圓貳拾參錢	事務費
金四萬八千貳拾壹圓四拾四錢	解散ニツキ諸經費
金六百六圓六拾六錢	分會事業整理費
金壹千七百四拾壹圓七拾參錢	本部納付金
金壹萬圓	大日本婦人會廣島縣支部へ寄附
金五千五百圓	奥村五百子顯彰會へ寄附
一金四千四百四拾五圓九拾四錢六厘	本部へ送金高
合計 金拾參萬四拾八圓九拾六錢六厘	

會計ニ關スル諸帳簿及書類

1 豫算書綴	2 決算書綴	3 日計簿	4 歳入内譯簿及補助簿
5 歳出内譯簿及補助簿	6 資産臺帳	7 不動産臺帳	8 現金出納簿
9 收入支出ニ關スル證書	10 會計ニ關スル一切ノ書類	11 會費受拂簿	12 假納金整理簿
10 有價證券臺帳及不動産臺帳	14 支部經費内譯簿	15 總勘定原簿	16 支部經費收支總勘定表

下編 主要誌

# 第九章 會計

## 第一節 自明治三十四年至同三十九年會計報告

### 決算書

#### 收入ノ部

一金參萬貳千九百參圓八拾四錢八厘

內譯 金參萬千六百七拾貳圓六拾五錢

金五百八拾貳圓貳拾壹錢九厘

金六百四拾六圓六拾壹錢四厘

金貳圓參拾六錢五厘

#### 收入

會高

寄附金

預金利息

雜收入

#### 支出ノ部

一金參萬貳千九百參圓八拾四錢八厘

#### 支出

會高

內譯 金壹千九拾五圓  
 金壹萬九千參百拾八圓貳拾錢參厘  
 金七千六百參圓六拾八錢  
 金千四百四拾九圓貳拾九錢貳厘  
 金參千四百參拾七圓六拾七錢參厘

軍事後援費  
 本部納金  
 支部及幹事部費  
 基本金積立  
 救護資金積立

## 第二節 自明治四十年至大正一十一年會計報告

### 決算書

#### 收入ノ部

一金拾五萬九千九百參拾九圓六拾錢

內譯 金拾參萬貳千八百六拾參圓六拾錢

金貳萬七千七拾六圓

#### 收入

會高

寄附金及其他收入

#### 支出ノ部

一金拾五萬九千九百參拾九圓六拾錢

內譯 金貳萬七千七拾六圓

#### 支出

軍事後援費

下編 主要誌

金五萬千參百貳拾六圓七拾六錢貳厘  
金四萬五千百拾四圓拾五錢  
金壹萬四千四百八拾五圓七拾六錢貳厘  
金貳萬千九百參拾六圓九拾貳錢六厘

本部納金  
支部經費  
基本金積立  
救護資金積立

第三節

自大正三年  
至同十四年 會計報告

決算書

收入ノ部

一金參拾六萬貳千參百貳拾七圓  
內譯 金拾六萬貳千六百四拾七圓  
金貳萬四千四百八拾圓  
金參萬參千八拾貳圓  
金四萬五千九百七圓  
金貳萬六千五百貳拾貳圓  
金六萬九千六百八拾九圓

會費  
縣補助金  
本部補助金  
預金利息  
寄附金  
其他收入

支出ノ部

一金參拾六萬貳千參百貳拾七圓

支出

內譯 金六萬貳千七百七拾六圓

高  
軍事後援及社會事業費

金七萬六千貳百參拾圓  
金貳萬七千八百九圓  
金參萬八千拾參圓  
金五萬參千五百拾壹圓  
金貳萬六千參百貳拾七圓  
金六萬五百八拾五圓  
金壹萬七千六百七拾六圓

事務費  
擴張費  
分會補助費  
基本金  
救護資金  
本部納金  
繰越金

第四節

自昭和元年  
至同十一年 會計報告

決算書

收入ノ部

一金貳拾八萬七千五百參拾壹圓  
內譯 金拾五萬九百參拾五圓  
金壹萬九千貳百七拾四圓  
金九千貳百九拾四圓

會費  
縣補助金  
本部交付金

下編 主要誌

下編 主要部

金六萬貳千五百九拾四圓  
 金貳萬七千四百拾八圓  
 金參百四拾圓  
 金壹萬七千六百七拾六圓

支出ノ部

財產收入  
 寄附金  
 雜收入  
 繰越金入

一金貳拾八萬七千五百參拾壹圓

內譯 金六萬參千七百八拾九圓六拾六錢

金貳萬壹千九百五拾貳圓

金拾萬貳千八百九拾四圓

金參萬七百拾六圓

金四萬貳千九拾九圓

金九千貳拾七圓

金九千貳拾壹圓

金五千六百九拾八圓

金四百九拾九圓

金壹千七百四拾四圓參拾四錢

軍事後援費  
 社會事業費  
 事務費  
 擴張費  
 分會補助費  
 基本金  
 救護費  
 本部納金  
 臨時費  
 繰越金

第五節 昭和十二年以降決算

昭和十一年度以前の收支決算は、比較的少額なりしを以て、或は總會迄を一期とし、或は十ヶ年内外を以て一期として其の間の總決算を掲げしが、翌十二年よりは支那事變勃發と共に、一般婦人の銃後奉公心と、軍人遺家族に對する同情心昂揚し、其の結果從來十ヶ年間の歲計參拾萬圓内外なりしもの、一躍一ヶ年貳拾萬を越ゆるに至れり、以下五ヶ年間の收支を掲載して其の盛況想察の資に供す。

(一) 昭和十二年度算決報告

歳入ノ部

一金貳拾壹萬八千四百七圓參拾五錢

內譯 金六百圓

收入

高賜金

金九萬七千參百四圓四拾六錢

金五萬四千四百拾五圓貳拾八錢

金四萬四千五百貳拾參圓

金壹萬六千貳拾四圓

金七百五拾貳圓

金參千四拾四圓貳拾七錢

御下賜金  
 會費收入  
 寄附金  
 現品  
 縣補助金  
 本部補助金  
 財產收入

下編 主要部

下欄 主要誌

金壹千七百四拾四圓參拾四錢

歲出ノ部

前年度繰越金

四七二

一金貳拾壹萬八千四百七圓參拾五錢

內譯 金九萬貳千五百參拾參圓九拾錢

金壹萬壹千七百七拾四圓貳錢

金貳萬壹千五百七拾四圓九拾四錢

金參萬五千五百五圓五拾四錢

金五千八百六拾圓拾九錢

金八千六百六拾貳圓貳拾九錢

金壹萬壹千八百四圓四拾四錢

金參萬壹千五百九拾貳圓參錢

支出

高

事業費

事務費

擴張費

分會補助費

資金積立

本部納付金

翌年度繰越金

臨時施設費

(二) 昭和十三年度決算報告

歲入ノ部

一金拾九萬貳千五百七拾五圓七錢

內譯 金拾萬八千四百七拾八圓九拾四錢

金貳萬四拾四圓貳錢

收入

高

會費收入

寄附金

金貳萬圓

金貳萬四千五百拾四圓

金九百參拾六圓

金貳千四百八拾七圓五拾貳錢

金四千六百七圓拾五錢

金六拾參圓

金壹萬壹千八百四圓四拾四錢

歲出ノ部

一金拾九萬貳千五百七拾五圓七錢

內譯 金九萬貳千貳百貳拾參圓七拾四錢

金壹萬四千五百貳拾壹圓四拾參錢

金壹萬五千參百九拾壹圓六拾壹錢

金參萬六千貳百七拾五圓九拾壹錢

金六千參百八拾壹圓拾壹錢

金貳萬四千七百七拾四圓六拾七錢

支出

高

事業費

事務費

擴張費

分會補助費

資金積立

本部納付金

翌年度繰越金

(三) 昭和十四年度決算報告

下欄 主要誌

四七三

下欄 主要部

歲入ノ部

一金貳拾壹萬五千五百參拾五圓四拾四錢  
內譯 七百圓

金拾萬四千參百參拾參圓九拾九錢  
金壹萬九千七百九拾貳圓八拾六錢  
金貳萬圓

金貳萬七千七百六拾壹圓  
金七千參百貳拾參圓貳拾五錢  
金四千貳百拾六圓八拾八錢

金六千六百參拾貳圓七拾九錢  
金貳萬四千七百七拾四圓六拾七錢

收入

高 御下賜金  
會費收入  
寄附金  
現品  
縣費補助金  
本部補助金  
財產收入  
雜收入  
前年度繰越金

歲出ノ部

一金貳拾壹萬五千五百參拾五圓四拾四錢  
內譯 金拾壹萬五千六百五拾七圓六錢

金壹萬六千貳百八拾貳圓九拾參錢  
金壹萬五千貳百貳拾六圓五拾錢  
金參萬參千參百拾九圓拾貳錢

支出

高 事業費  
事務費  
擴張費  
分會補助費

金六千八百參拾七圓貳拾九錢  
金壹千九百七拾九圓貳拾八錢  
金貳萬四千參百七拾五圓參拾五錢  
金壹千八百五拾七圓四拾壹錢

資 金 積 立  
本部納付金  
翌年度繰越金  
臨時費

(四) 昭和十五年度決算報告

歲入ノ部

一金貳拾六萬貳百四拾圓六拾六錢  
內譯 金拾五萬參千四百參拾七圓五拾六錢

金貳萬參千四百五拾七圓六拾七錢  
金貳萬圓  
金參萬四百四拾參圓

金貳千五百參拾五圓貳拾六錢  
金參千參百四拾六圓參拾錢  
金貳千參百四拾六圓九拾四錢  
金貳百九拾八圓五拾六錢  
金貳萬四千參百七拾五圓參拾五錢

收入

高 會費收入  
寄附金  
現品  
縣補助金  
本部補助金  
財產收入  
事業收入  
雜收入  
前年度繰越金

下欄 主要部



下圖 主要部

歲出ノ部

一金貳拾六萬貳百四拾圓六拾六錢

內譯 金拾萬八千七百參圓八拾參錢

金壹萬九千參百四拾七圓九拾四錢

金壹萬七千九百九拾五圓六拾參錢

金參萬七千五百拾八圓七拾九錢

金七千六百七拾壹圓八拾七錢

金貳萬五千參百六拾壹圓參拾八錢

金九拾五圓七拾錢

金四萬參千五百四拾五圓五拾貳錢

支出

高 事業費

事務費

擴張費

分會補助費

資金積立

本部納付金

財產費

翌年度繰越金

(五) 昭和十六年度決算報告

歲入ノ部

一金拾七萬九千六百七拾七圓六拾壹錢

內譯 金九萬八千八百參拾貳圓七拾錢

金九千貳拾參圓拾五錢

金壹萬五千六百九圓

收入

高 會費

審附金

縣費補助金

歲出ノ部

一金拾七萬九千六百七拾七圓六拾壹錢

內譯 金六萬六千參拾五圓四拾八錢

金參萬貳千七百貳拾八圓拾五錢

金壹萬六千六百八拾五圓九拾壹錢

金貳萬參千貳百參拾圓拾六錢

金壹萬四千八百七拾九圓七拾四錢

金百拾七圓拾九錢

金貳萬壹千五百四拾七圓九拾八錢

金四千五百五拾參圓

支出

高 事業費

事務費

擴張費

分會補助費

本部納付金

財產費

翌年度繰越金

臨時費

下圖 主要部

第六節 昭和十七年解散ニ付清算(二月十二日解散當時)

一金拾貳萬壹千七百八拾五圓八拾六錢	引繼總額
內譯 金七萬壹千貳百四拾六圓貳拾八錢	積立基金
金貳萬八千九百九拾壹圓六拾錢	救濟資金
金貳萬壹千五百四拾七圓九拾八錢	繰越金(十六年度ヨリ)

(一) 清算收入ノ部

一金拾參萬四拾八圓九拾六錢	收入
內譯 金拾貳萬壹千七百八拾五圓八拾六錢	高
內金七萬壹千貳百四拾六圓貳拾八錢	引繼
金貳萬八千九百九拾壹圓六拾錢	基本
金貳萬壹千五百四拾七圓九拾八錢	救濟
金八千貳百六拾參圓拾錢	繰越
內金壹千貳百七拾壹圓七拾錢	引繼後ノ收入
	會費收入

金四千四百圓	寄附金
金貳千四百貳拾八圓貳拾五錢	補助金
金百六拾參圓拾五錢	財産收入

(二) 清算支出ノ部

一金拾參萬四拾八圓九拾六錢	事業整理費
內譯 金五萬七百九拾壹圓九拾六錢	事務費
金九千貳百四拾壹圓貳拾參錢	解散諸經費
金四萬八千貳拾壹圓四拾四錢	分會事業整理費
金六百六圓六拾六錢	本部納付金
金壹千七百四拾壹圓七拾參錢	大日本婦人會廣島縣支部へ寄附
金壹萬圓	奥村顯彰會へ寄附
金五千五百圓	本部へ送納金
金四千百四拾五圓九拾四錢六厘	

第七節 創設以來歲入出決算一覽

歳入ノ部 (昭和十六年迄ハ圓位ニ止ム)

科目	自明治三十四年		自明治三十九年		自大正二年		自大正三年		自昭和元年		昭和二年		昭和三年		昭和四年		昭和五年		昭和六年		昭和七年	
	至同	至同	至同	至同	至同	至同	至同	至同	至同	至同	至同	至同	至同	至同	至同	至同	至同	至同	至同	至同	至同	至同
御下賜金																						
會費																						
寄附金																						
補助金																						
財産收入																						
雑收入																						
基本金																						
救済資金																						
繰越金																						
合計	三三、九〇三	一五九、九三九	三六、三三三	一七、六七六	二八、五三一	二八、四〇六	一九、五七五	二二、八〇四	二二、五三五	二二、五三五	二六、〇二二	二四、七五五	二四、五五五	二六、〇二二	二四、七五五	二四、五五五	二六、〇二二	二四、七五五	二四、五五五	二六、〇二二	二四、七五五	二四、五五五

歳出ノ部

科目	自明治三十四年		自明治三十九年		自大正二年		自大正三年		自昭和元年		昭和二年		昭和三年		昭和四年		昭和五年		昭和六年		昭和七年	
	至同	至同	至同	至同	至同	至同	至同	至同	至同	至同	至同	至同	至同	至同	至同	至同	至同	至同	至同	至同	至同	至同
軍事後援費																						
社会事業費																						
事務費																						
擴張費																						
分會補助費																						
基本金																						
救済資金																						
本部納金																						
財産費																						
臨時費																						
繰越金																						
合計	三三、九〇三	一五九、九三九	三六、三三三	一七、六七六	二八、五三一	二八、四〇六	一九、五七五	二二、八〇四	二二、五三五	二二、五三五	二六、〇二二	二四、七五五	二四、五五五	二六、〇二二	二四、七五五	二四、五五五	二六、〇二二	二四、七五五	二四、五五五	二六、〇二二	二四、七五五	二四、五五五

備考、清算繰越金處分壹萬圓大日本婦人會廣島縣支部へ、五千五百圓興村顯彰會へ各寄附。四千百四拾五圓九拾四錢六厘本部へ送納。

# 第十章 功勞餘談

## 第一節 支部長の功績

創設以來四十餘年の星霜を重ね、其の間支部長の更迭、實に二十七回、其の任期長きは三ヶ年短きは半ヶ年と云ふ短期間もあつたが、時代の推移に伴ひ一進一退各支部長の盡力は一ト通りでなかつた。就中其の創業時代の苦心、その當時の支部長の努力は格別のものがあつたことは察するに餘りあるのである。次いで支部總會に於ける會勢伸展、會業の活動會資の蓄積、戰時事變の場合の諸施設、天災地變の際に於ける同情施設、その他記念事業の計畫實施等、當時在任支部長の勞苦と功績は亦大なるものがある。今當時の記録を辿りて歴代支部長の事績を概記す(記録なきものは乍遺憾之を省く)

在任期間と	會員募集成績	其他主なる成績
初代 江木中子 自明治三四年六月 至同 三六年七月	發會式當時 會員八九名 轉任當時 一、三〇三名	○創立の際第一に事務員世話役等の選任囑託に着手せられしが、適當の人を得難く、殊に會旨の宣傳、會員の募集等經驗なきことゝて容易に承引する人なく、止むなく縣吏員を初め郡市長に依頼して、事務其の他萬事幹旋方依頼せられたのであるが、就中廣島市が中心地なるを以て、當時の市長伴資健氏を動かし第一に市内會員の募集に着手された

が、半襟一掛代として僅か壹圓と雖も當時は容易でなく、其の苦辛は一通りでなかつたのであるが、遂に約百名に近き會員を得て發會式を挙げられ、其の基礎を定められた功績は多大である。支部長の苦心は遂に多數婦人の共鳴となり、二ヶ年にして會員數實に千三百名を超えるの盛況となり、全國稀に見る成績を挙げられたのである。

○在任期間短かゝりしも未だ創立日浅く専ら會員増募に懸命の努力を拂はれ、奥村刀目も其の熱意に感じて態々來廣遊説に努め遂に八百餘名の増加を見るに至つた。

○東伏見宮殿下廣島市に御成あらせられし際支部長以下市内在住の評議員幹事等御旅館にて拜謁の榮を賜はることゝなりしは畢竟支部長の熱意によるものとして一同の感激亦深かつた。

○會員名簿の様式を決定して會員の整理をなし役員組織を整へて茲に機構を完了せられたのである。

○日露國交斷絶國を擧げて必勝の決意に燃ゆる時、朝に夕に皇軍の歡送迎に出で、慰問弔祭、遺家族救援等本會使命の達成に非常の努力を拂はれた。

○軍人後援のためには先づ資金の調達を要し、會員増募は最緊要なるを以て三百人五百人等郡市の大小に應じて配當之が勸誘を依頼し大なる成果を擧げて忽ち一躍十倍の三萬人を超える會員となり、五萬圓の會費を支出して軍人後援に遺憾なからしめ愛婦の眞使命を天下に驚嘆せしめた。

第二代 徳久張子 自明治三六年七月 至同 三七年二月	會員増募數 一、八〇四名 總會員數 三、一二七名	
第三代 山田竹子 自明治三七年二月 至同 四〇年八月	會員増募數 二七、九六四名 總會員數 三一、〇九一名	

<p>第四代 宗像直子 自明治四〇年八月 至同 四二年十月</p>	<p>會員増募數 三、三三二名 總會員數 三四、四二三名</p>	<p>○大捷の裡に戦ひ終るや愛婦將來の活動を期してこゝに支部基本金積立の計畫を立て之が蓄積を實施せられ支部の基礎愈々強固となれり。 ○第一回支部總會開催の準備に着手せられたるも開催に至らずして榮轉せられた。 ○日露戦役の後を受け戦死者の遺族を初め傷痍軍人救済の爲全力を盡さるゝ中に第一回支部總會開催を實行して婦人の結束を堅實ならしめ、愛婦の會勢會業に劃期的發展をなさしめたるは當時戦後の民心統一のためにも一大成功であつた。 ○郡部幹事部長を督勵して各町村で講演會或は幻燈會を催ふして會旨宣傳を行ひ婦人奉公の精神涵養に努められた。</p>
<p>第七代 寺田春子 自 大正二年三月 至 同 五年四月</p>	<p>増募會員數 六、一九四名 總會員數 四七、八九二名</p>	<p>○日露の戦ひに大捷したる國民は、米英の自由個人主義に災ひせられ、稍もすれば國民精神の弛緩を覺ゆるの時、之れが覺醒は婦人大會に如かずとして茲に第二回支部總會を決議し 總裁殿下の御台臨を仰ぎて盛會裡に開催せられたるは當時の婦人情性の夢を破つたことである。 ○彰功旗を制定して優良委員區に授與し以て其の發展を奨勵せられた。 ○會祖の偉業を偲ぶため、銅像建設の議起り卒先寄附金の募集に着手し之を成功せしめられた。 ○海水浴場を公開し兒童及び婦人の保健並體位向上に資せられたるは國民體位降下の慮ある當時の一大見識であつた。 ○大正十二年九月一日の關東大震災に付き逸早く義捐金品の募集に晝夜</p>
<p>第十二代 阿部操 自大正二二年十月 至同 一二年十月</p>	<p>會員増募數 一、二〇〇名 總會員數 四四、八一二名</p>	<p>奔走、數日にして現地に輸送し多大の効果を擧げ尙廣島驛頭にて汽車通過の避難者救援に深甚の同情を寄せられた。昨年八月本縣沿岸の大津波に當り東京地方より數萬點の義捐金品ありたるも當時の報恩なりといふ。 ○滿洲事變勃發するや會員の出動部隊歡送迎を指導して遺憾なからしめ銃後婦人の使命として遺家族の慰問弔祭に赤誠を捧げられ愛婦の活動は目覺ましきものであつた。 ○妊産婦の保護は國民増加體位向上のため喫緊事なりとして先づ産具配給の規定を設け、幼兒の爲に農村託兒所設置の奨勵に努力せられた。 ○本會機構更新に關し之が指導整備に盡瘁せられた。 ○廣島市内小學校區域に分會を設くる端緒を開かれ分會の發展之れより活躍を見ることゝなつた。 ○巡回産婆を設けて婦人衛生並に乳幼兒保護に着手せられたるは國民體位の向上に資し地方の爲大なる貢獻を爲すに至れり。 ○皇后陛下の御誕辰日を奉祝し婦人報國祭執行のことを創められた。 ○陸軍病院娛樂室備品献納方幹旋之が實現を見た。院内養心閣がそれである。 ○支部機關誌「愛國婦人會」發行を創始せられ會業會勢の周知參考に資せられた。 ○忠靈顯彰會事業を贊助し資金募集に着手して各所に忠靈塔の建設を見るに至つた。</p>

總員ノ減ゼシハ  
死亡退會轉出等  
大整理ヲナセシ  
ニヨル

<p>第二十代 千葉敏子 自 昭和六年二月 至 同 七年六月</p>	<p>會員増募數 一、二四〇名 總會員數 五二、〇一八名</p>	<p>○本會機構更新に關し之が指導整備に盡瘁せられた。 ○廣島市内小學校區域に分會を設くる端緒を開かれ分會の發展之れより活躍を見ることゝなつた。 ○巡回産婆を設けて婦人衛生並に乳幼兒保護に着手せられたるは國民體位の向上に資し地方の爲大なる貢獻を爲すに至れり。 ○皇后陛下の御誕辰日を奉祝し婦人報國祭執行のことを創められた。 ○陸軍病院娛樂室備品献納方幹旋之が實現を見た。院内養心閣がそれである。 ○支部機關誌「愛國婦人會」發行を創始せられ會業會勢の周知參考に資せられた。 ○忠靈顯彰會事業を贊助し資金募集に着手して各所に忠靈塔の建設を見るに至つた。</p>
<p>第二十一代 湯澤アヤ子 自 昭和七年六月 至 同 十年一月</p>	<p>新募會員數 一、八〇九名 總會員數 五五、一二一名</p>	<p>○本會機構更新に關し之が指導整備に盡瘁せられた。 ○廣島市内小學校區域に分會を設くる端緒を開かれ分會の發展之れより活躍を見ることゝなつた。 ○巡回産婆を設けて婦人衛生並に乳幼兒保護に着手せられたるは國民體位の向上に資し地方の爲大なる貢獻を爲すに至れり。 ○皇后陛下の御誕辰日を奉祝し婦人報國祭執行のことを創められた。 ○陸軍病院娛樂室備品献納方幹旋之が實現を見た。院内養心閣がそれである。 ○支部機關誌「愛國婦人會」發行を創始せられ會業會勢の周知參考に資せられた。 ○忠靈顯彰會事業を贊助し資金募集に着手して各所に忠靈塔の建設を見るに至つた。</p>

○國民貯蓄は刻下の急務なりとして愛國貯金實施獎勵に盡力せられた。  
 ○天災地變に際し遭難者を救護するは、婦人の美はしき同情なりとして東北近畿各地數度の災害には率先義捐金品の募集に盡力せられた。  
 ○廣島招魂社移轉改築につき、弔靈慰魂のために大幟一對を寄進せられた。

第廿二代

鈴木照子

新募會員數 四、五七八名

自 昭和十年一月  
至 同十一年四月

總會 員數 五九、六九九名

○國民精神涵養の一助として國旗章佩用方獎勵縣下各分會又は女學校等に多數佩用者を見るに至つた。  
 ○創立三十五周年記念式を舉げ優良分會に分會旗を授與して獎勵せられ分會の活動見るべきものあるに至れり。  
 ○縣下小學校長會及び女子中等學校長會に出席して愛婦の趣旨を説き教育者方面に多大の理解を得られた。  
 ○本會が愛國子女團の結成を提唱するや逸早く縣立廣島高等女學校に始めて本團の設立を見たるは梅林寺校長の理解によりたると共に、其の勸誘宜しきを得たのであつた。  
 ○岡山縣大水害に當り逸早く救護金品の大募集をなし一週間に現地に送附して好評と感謝を博された。  
 ○本會の總會に出席したる功勞者を目黒雅叙園に招待して慰勞せられたるは各本人に多大の好感を與へ、爾來會勢隆昌總會出席者も年を逐ふて増加するに至れり。  
 ○子女團の設立十七校に及び第一回懇談會を開催して女子學生に愛婦の使命を認識せしむることを企て爾來毎年二月之を開會することゝせられた。

○赤愛聯合旅行團編成見學旅行を實施せられ會員に多大の満足を與へられた。  
 ○優良なる軍犬の要望せらるゝや直ちに献納資金の募集を爲し十數頭を献納して多大の貢献をせられた。  
 ○日の皇子御誕生奉祝の行事として不遇兒童の慰安會並に子供武者行列を創始せらる。

第廿三代  
早川 敏子  
自昭和十一年四月  
至同 十二年一月

新募會員數 一〇、八二〇名  
總會 員數 六九、九六七名

○機を見ること敏にして決斷に富める早川支部長は縣教育會所有の土地三百坪を購入して支部會館新築に着手せられその竣成せざる内に榮轉せられたるが、今日この堂々たる會館を有し三十六年間の借家貸間住居より獨立したるは全く早川支部長の功績であつた。  
 ○二十三年間總會の機を得ざりし支部はこゝに第三回支部總會開催のこゝとを企て、支部長自ら縣下に宣傳して其の機運を作り翌年開催と決定するに至りたるも急に榮轉せられたるは遺憾であつた。  
 ○子女團の結成四十一となり縣下殆んど女學校を網羅せしは支部長の力であつた。  
 ○吳海軍病院に患者娛樂室献納を企て同鎮守府管内各支部を勸誘して其の事業に着手せられたるも斷の一字に因るものである。  
 ○凱旋館建築に當り全國各支部に唱導せられたるも亦大なる遺績である。  
 ○第二回赤愛聯合見學旅行團編成實施せられた。

<p><b>第廿四代</b> 富田 花子 自昭和十二年一月 至同十三年十一月</p>	<p>新募會員數 七一、二二四名 總會員數 一四六、八八九名</p>	<p>○二十三年振に開催せる第三回支部總會の大任を最も莊重に十三萬會員が満足裡に而も縣民矚目の裡に美事に果され縣下婦人に婦人報國の感激を深からしめたことは多大であつた。</p> <p>○在任中會員數倍加して十五萬の多數に上りたるは支部長の熱意に感激したる婦人の誠意であつた。</p> <p>○七月支那事變勃發各種の軍事後援に遺憾なく活動せられ愈々愛婦の眞價を發揮せられた、特に遺族に對しては格段の同情を寄せ佛前に参拜して懇篤なる弔慰を寄せられた其の贈呈の豆燈籠及び偲ぶ草文笥は永久に忘れ得ざるものである。</p> <p>○會資寄附金の半額を分會事業費に交付補助することを定め事業の施設を奨励せられたるため、各分會共俄に會業促進して一大飛躍をなし寄附金の如きも年々貳參千圓程度より一躍壹萬五六千圓に及び有功奉拜受數千人に達せり。</p> <p>○各市に聯合分會制を創め組織的に分會を指導せられたるを以て時局の影響に伴ひ、市内各分會の活動は整然として進展目覺ましきものとなり募集せざるに自發的入會を希望するもの踵を接するの盛況を呈したのであつた。</p> <p>○乳幼児健康相談所を開設して專任醫を聘し國民保健向上に一層の力を加へることとせられた。</p> <p>○會館に軍人遺家族並び會員關係者の宿泊部を設けて多大の便を興ふることとせられた。</p>
--	--	--

<p><b>第廿五代</b> 飯沼 穆子 自昭和十三年七月 至同十四年九月</p>	<p>新募會員數 一三、五八六名 總會員數 一五五、三二九名</p>	<p>○軍人遺家族のため生業ミシン講習會を開設し熱心之を慰藉指導せられ軍人後援會總裁 朝香宮殿下の御台覽御視察の光榮に浴せしめられた山口縣支部及島根縣支部と協議して北支派遣第五師團出動部隊現地慰問を企て慰問使を派遣して四十日間第一線の慰問をなさしめられた。</p> <p>○福山に兵士ホーム建設を竣成して軍人慰安所を提供せられた。</p> <p>○分會、分區、班の組織に力を盡して殆ど其の組織活動を見るに至らしめ、會員數百分の二十五以上のもの百二十分會、百分の四十以上のもの十九を數ふるに至れり。</p> <p>○本會創立四十周年記念に當り飛行機献納を企てたるに對し、本縣支部は七萬五千圓一機献納の豫定が貳拾萬圓に達し陸海軍に一機づゝ献納の好成績を見るに至り全國第三位の可驚成績を上げられた。</p> <p>○銃後家庭強化委員會を設けて講演指導を開始し物的援護と共に精神的援護に勉められた。</p> <p>○勤勞奉仕隊三十分會を定めて錬成に努め各種運動のため各分會の勞力奉仕を指導して時局下國策の翼賛につとめられた。</p>
<p><b>第廿六代</b> 相川 靜 自昭和十四年九月 至同十六年三月</p>	<p>新募會員數 一七、八八九名 昭和十六年三月 會員總數 一七三、二二八名</p>	<p>○支部長を助けて福山兵士ホームの建設を竣成せらる。</p> <p>○飛行機献納運動を奨励して豫定以上に達するの成績を挙げられた。</p> <p>○創立四十周年記念式を舉行、軍人感謝と會勢會業の功勞者表彰をなし参列者に多大の感銘を興へられ、愛婦最終の行事として本會使命の四</p>
<p><b>第廿七代</b> 支部長代理 石井 萬龜子 自昭和十六年三月</p>	<p>新募會員數 一〇、二二三名 解散當時總員 一八三、四四〇名</p>	<p>○支部長を助けて福山兵士ホームの建設を竣成せらる。</p> <p>○飛行機献納運動を奨励して豫定以上に達するの成績を挙げられた。</p> <p>○創立四十周年記念式を舉行、軍人感謝と會勢會業の功勞者表彰をなし参列者に多大の感銘を興へられ、愛婦最終の行事として本會使命の四</p>

至同 十七年二月  
(本會解散迄)

十年成績を一場に展開して美事に清いその最後を飾られた。  
○本會解散に伴ひ本縣支部並縣下四百の分會最後の清算事務は寔に其の  
事業の整理に會計財産の清算に、複雑多岐に亘りたるも克く之を處理  
して一點の疑念を残すことなく本部の検査を了して其の承認を得、茲  
に最終の美を以て閉鎖せられたるは其の苦心の大なりしを想ふと共に  
其の功績多大なるものであつた。

## 第二節 役職員の功勞

### 創立以來の功勞者

元廣島市鷹匠町 支部評議員 故賀屋 鎌子

刀自は廣島心學者の一人として日本精神の貫行者であつたが、明治三十四年愛婦廣島支部創設せらるゝや、愛婦使命實  
現の急務なるを感じ、率先特別會員として入會し、爾來我が事として會務に盡瘁せられ、同三十六年會祖與村刀自が、本  
縣遊說の際は始終隨行、其の間會祖病氣の爲出講不能の日は代理として出演、能く會旨を傳へ多大の感動を興へられたの  
であつた。其の後郡幹事部の依頼に應じては、或は一週間、時には半月以上も各町村を巡回して會旨宣傳の講演を爲し其  
の間直接會員の募集を爲し、會勢の擴張發展に貢献し其の熱烈至誠は「廣島の與村さん」と呼ばるゝに至つた。本會は其  
の功勞を顯彰する爲め明治四十年末には一等有功章を贈與し、同四十二年には支部評議員の重任を囑託せられ一層會業會  
務に貢献せられつゝありしが、大正四年四月病の爲め大なる功績を遺して他界せられたのは一般哀悼痛惜する所であつ

た。因に賀屋刀自は現藏相の母堂である。

### 創立以來の功勞者

元廣島市大手町九丁目 支部參事 温田 冬子

明治三十四年三月二日、東京九段偕行社に於て、本會創立せらるゝや、同年五月、當時の知事夫人江木中子、廣島支部  
幹事長に就任と同時に、温田冬子亦會務を囑託せられ、率先特別會員となり、他を誘導して會員の募集に努め功勞に依り  
參等有功章を贈與せられたが、之れが當支部に於ける佩有功章者の第一人であつた。次いで同三十六年五月支部幹軍を囑  
託せられ同年十一月與村會祖本縣遊說の際は廣島市内は勿論、賀茂郡西條町、佐伯郡廿日市町及嚴島町其の他福山地方に  
も隨行して會務の擴張に努め、各會場共即時入會者を見たのは、會祖の熱意であると共に、氏等幹旋の結果である。次に  
明治三十七八年戰役に當りては、出征軍隊の歡送迎、傷病兵士の慰藉、出征留守家族の慰問及び戰病死者葬儀參列等數十  
回に及び、日獨戰爭、西比利亞出兵及關東地方大震災の當時は、慰問金品の募集に奔走し、其後評議員に推され、遂に支  
部副長に昇任、支部長を補佐して、滿洲事變中、克く會の使命を遂行せり。昭和十五年五月功勞を以て特別有功章を授與  
せられ、支部會館兵士寮建設支部第三回總會開催等に關しては、縣下各地に出演會勢の擴充に盡力せらるゝこと十數回、  
其の功勞を顯現するため、本會創立三十五周年、同四十年年及び支部總會等に當りては、本會並支部より屢々表彰せられ  
たり。婦人團體の統合は素より國策に即應するものにて、本會の解散亦然るべきも、創立以來會祖と志を共にし解消に至  
るまで、四十餘年間婦人報國のため愛國精神に盡し來れる氏の感慨は又一入深きものあるべし。

### 創立以來の功勞者

廣島市西地方町 支部評議員 故三浦 梅子

女史は佐伯郡三高村の出身である。廣島に出て木綿問屋を営み、主人を初め稀なる篤志家で、令息中には縣知事の榮職



に就かれし方もあつた。梅子夫人は明治三十四年本會創立せらるゝや、率先入會早くも支部幹事を囑託せられ、日露戦争當時の如きは晝夜の別なく熱心奔走、市内會員の勧誘に努め、其後創業の功勞者として評議員に推薦せられ、支部の重要幹部に列せられた。殊に會祖來廣の節は滞在中宿舍を承はり、萬事の幹旋を爲し、會祖をして心置きなく出入起臥せらるゝ様満足を與へられ創業の苦を共にせられた功勞者であつた。

創立以來の功勞者

安佐郡綠井村 幹事部幹事 故松浦 柳子

女史は賀屋鎌子と親交ありしを以て互に氣脈を通じ、本會創立當時率先入會、明治三十六年安佐郡地方幹事を依頼せられ、爾來世の毀譽褒貶を意に介せず熱心會員の募集に盡力し、同地方は殆んど女史の勧誘に依りて入會し、隣町村亦之に倣つて入會者増加するに至れり。女史は常に支部と郡幹事部との間を往來して緊密に連絡を保ち、會勢の發展に貢献せられし勞功尠からず、當時郡部に在りては役員の依頼を受諾する者稀なるの時進んで會員となり役員をも擔當熱心奔走せし女史の如きは、誠に異數として世人の注目を惹いたのであつた。

創立以來の功勞者

福山市 支部評議員福山市幹事 故福谷 サメ

家庭では下駄商を營み相當多忙の内なるも、公共慈善の志厚き女史は、支部創設の年の十月より會務を囑託せられ、明治四十年九月には深安郡幹事部幹事となりしが、是より先き同三十六年奥村會祖が、福山地方遊説の際には會祖に隨行して大いに會の擴張發展に努め、明治三十七八年日露戦役の際に於ける軍隊の送迎傷病兵士の慰問、留守家庭の援助等廢食を忘れての活躍であつた。是を以て其の後、輜軍恤兵の功績に依り賞勳局より銀盃下賜の恩典に浴し、明治四十年第一回支部總會、同四十四年十一月福山市幹事部總會に當りては、老體にも拘はらず、晝夜の別なく廢食をも忘れて會勢の擴張發

展に努め、大正十五年十一月支部評議員を囑託せられ、其の後滿洲及上海事變に當りては、克く統後の使命を全ふし、支部評議員として地方の重鎮たりしが、昭和十一年老齡の故を以て遂に逝去せられしは痛惜の至りであつた。

創立以來の功勞者

廣島市大手町九丁目 支部名譽評議員 故倉田 久子

明治三十五年支部創立の翌年本會に入會同三十七年支部幹事を囑託せられ、會員の募集を初め軍事後援に意を注ぎ、屢々會資の寄贈を爲して、支部の擴張發展に貢献し、大正三年には支部評議員を囑託せられて、樞機に参劃し、戦時事變に當りては、率先送迎慰問に赤誠を捧げて本會の使命を全ふせんことを期せられた。昭和十年老齡の故を以て評議員を辭任せられたが本會は特に名譽評議員を囑託し、多年の功績に對しては屢々表彰せられ遂に特別有功章を贈與せられた。創立三十五周年には多年勤績の功績を以て本部より表彰せられしが昭和十二年他界せられた。

創立以來の功勞者

廣島市小町 支部評議員 山本 國子

女史は本會廣島支部の創設を耳にするや、早くも其の趣旨に賛同して入會し進んで特別維持會員となり、明治三十八年には幹事を囑託せられ、其の後評議員に推薦せられて支部の樞機に参畫し貢献せらるゝこと多大であつた。又戦時事變に當りては、軍隊の送迎、慰問袋の募集、傷病兵士の慰藉等至らざるなく、殊に常に支部の發展に留意して會旨の宣傳其他施設事業等に關し、率先範を示して有志を勧誘し屢々金品を寄贈して支部の活動を援助せられ其の功勞は、本會の認むる所となり、特別有功章を贈與し、本會三十五周年及び四十周年に當りて本部又は支部より表彰せられたのであつた。

創立以來の功勞者

廣島市千田町一丁目 支部評議員 今野 イソ

女史は明治三十四年十二月、本會創立の初年に通常會員として入會、進んで終身特別維持會員となり、三十餘年の長年月間廣島市幹事として、専ら會員の募集に奔走し、其の結果一千餘名の入會者を紹介せられたるは、他に類例なく萬人の驚嘆する所であつた。されば本會は女史の功勞に對し、特別有功章を贈與された。女史の熱意は更に一家全女性五名を會員とし、全家族八名を佩有功章者として本會の發展に盡さる、此の如きは全國各府縣支部に於ても其の例稀なるべく、蓋し女史婦人報國の熱意に燃ゆる結果なるべし。本會並に支部は其の功勞に對し屢々表彰せられた。

創立以來の功勞者 廣島市千田町二丁目 支部評議員千田町分會長 早水マヌ

本會創立の翌年即ち明治三十五年本會員となり爾來數十年の長きに涉り、愛婦の第一線に立ち、當日頃から銃後の婦人としての重要性を説き熱心會員の募集に努め、特に夫君が家く郡宰として地方に奉職して居られた關係上、縣下數郡に涉り氏の活躍は目覺ましきものがあつた。郡役所廢止後廣島に居住せられ、滿洲事變勃發するや、特に傷病兵士の慰問と、遺家族扶助に力を注ぎ、廣島衛戍病院は勿論、遺族や留守宅を訪れ、御菓子壽司果物等を持參し、眞に涙ぐましく心情を盡して白衣の勇士を慰め、其の身の上を聞きては、共に泣いて心から慰めの言葉を以て力づけられたのである。事變に於ける慰問袋の作製とか、恤兵金の募集には常に率先して大いに活躍し、特に今事變に當りては、經濟力と精神力との緊要なることを痛感し、其の筋の獎勵に即應して、大いに貯金の獎勵、債券の購入斡旋に努め縣下の分會中、一、二を争ふ成績を挙げ、本會より表彰せられたのであるが、女史は會員募集並に會資寄贈の功に依り特別有功章を授與せられ、支部評議員としての重責を荷ひ傍ら千田分會長として稀に見る成績を挙げ、其の報國の熱誠に對し本會並支部より屢々表彰せられた。

創立以來の功勞者

廣島市已斐町 廣島市幹事 故太田園子

本會創立當時は郡部に在りしが卒先會員となり、銃後の戦線に働く婦人界の古參者である。日露戰役當時は、交通不便なる佐伯郡北部から、廿日市驛や已斐驛まで出かけて歡呼の群に加はり、早くも銃後の婦人として慰問袋の作製など郡部幹事として奔走されたので、「乃木將軍などのお顔もよく覚えてゐます、あの頃も大變な出迎へで廣島は非常にごつた返へしてゐました」と一と昔前の囁な凱旋風景を追憶する女史は滿洲事變勃發以來は、廣島市幹事として晝夜の別なく慰問袋の募集に努め、個入で二百三十個を調達せしなど、其の撓まざる努力に深く敬意を表されてゐた。かくて駐滿將士の勞苦を痛ふ一方戰傷病兵の痛々しい姿に心から涙して廣島衛戍病院を訪れること數十回いつも見舞品を携へて懇ろに慰め、或は力づけ「己斐の小母さん」と勇士から敬慕され婦人報國の實をあげられたのである。己斐町一帯に於ける同氏の存在は「愛婦の太田さん」といふことだけで通じるほどでその運動と赤誠の眞實性に對しては町民の方は大きな感激の眼を見張つてゐた。「今頃は婦人團體も澤山になり人手も多く出來ましたが二、三十年前は本當に困りましたので早くから郡部會員の獲得に努め、その結果日露戰爭には大いに役立つことが出來たわけです」とは氏の昔語りである。斯く女史の婦人報國に熱烈であつたことも感激であるが、夫君がよく理解せられて常に女史を激勵せられ指導援助せられたことも多く見ざる所であつた。尙支那事變勃發後も熱心部内會員を誘導して、送迎に慰問に活動を續けてゐられたが、俄かに夫君病床に就かれ不幸長逝されたので、女史は孤獨の日々を送らるゝこととなり哀愁の裡に女史亦持病重態となり遂に間もなく夫君の跡を追ふて他界せられしは悼まじき限りであつた。

創立以來の功勞者

廣島市臺屋町 廣島市幹事 小松マツノ

明治三十六年本會員となり、爾來同志の糾合に努め、其後老齡に及ぶも屈することなく、燃ゆる如き愛國心を胸に秘め

潑刺として壯者を凌ぐ元氣で活躍せる銃後婦人の重鎮であつた。即ち日清日露の戦役當時から軍都の婦人として、目ざましき活躍中家事の都合で一時第一線より退いてゐられたが、偶々滿洲事變勃發に刺激され、再び愛國の至情たぎり、最後の御奉公と健氣にも再び第一線に乘出し、幹事に就任して東奔南送後進を引具して花々しき活躍をされたのである、時に深夜或は風雨の際誰一人送る影なき時にも必ず女史の姿の見へざることはなかつた。其の熱烈なる行蹟は其の筋の認むる所となり、昭和九年四月陸軍省より銀鈔一具を賞賜せられた、續いて昭和十二年勃發の支那事變に當りても常に人の至らざる晨朝夜間女史の縁故者數名を伴ひて、送迎を缺がすことなく「兵隊の小母さん」と呼ばれて誰知らぬものなき軍國婦人であつた。

## 創立以來の功勞者

廣島市草津町 支部評議員草津分會長 荒谷イロ

明治三十七八年の日露戦役當時本會に入會銃後婦人として傷病勇士の慰問に力を注ぎ、其の赤誠を認められて同四十一年廣島支部の幹事を囑託せられ、爾來三十餘年銃後の奉仕生活を續け滿洲事變勃發するや老体のため病に伏す夫の看護に疲れた體を病夫に勵まされて深夜廣島驛に勇士を送るなど、多忙の私生活を克服して涙ぐまじき銃後の戦士として雄々しく戦はれた。而已ならず勇士の留守宅を訪問して遺家族を慰め物質上の援助についても婦人會との間に種々幹旋奔走され更に廣島衛戍病院の入院患者に其書家の謹書せし國歌の掛軸を草津町婦人會の名を以て寄贈し、病床にある勇士の克己心を勵ますなどの美談は數限りなく秘められてゐる。尙事變勃發以來の歡迎送慰問等の回数は五百餘回に上り此の外慰問袋の作成に付ても同町婦人會の發起を促すなど所有方面に寧日なき活躍であつた。

## 篤志家として特別功勞者

廣島市寺町 支部評議員 故菅 友子

明治四十年、愛婦廣島支部幹事を囑託せられてより三十餘年一日の如く、會務を通して銃後婦人として活躍され、昭和六年滿洲事變の勃發するや、七十餘の老嫗を顧みず勇士達の歡迎には、必ず單身で字品や驛頭に向向くといふ熱心さで或る時は日に二回三回も晝夜の別なく歡呼の群に刀自の姿を見受けるのであつた。尙友子刀自は早くから銃後の護りに深い關心を持ち、日露戦役當時の軍都廣島に塗られた非常時風景に大きな感銘を抱いたのが動機で、愛婦の事業を援けるため、日常生活費を節しては、屢々金品を寄附するなど、只管有事の場合を豫想して、本會事業の伸長をはかられたことは多大であつた。昭和十二年支部會館建築落成に當りては記念の爲め、數百金を投じて高さ約三尺の美術的大花瓶を寄贈せられしなど、其の奇篤なる行爲は數々であつたが、昭和十六年一月遂に永眠せられた。

## 創立以來の功勞者

廣島市西引御堂町 廣島市幹事 落 マサ

夙に本會に入會幹事を依頼せられ會の趣旨宣傳に努め居りしが、夫君に死別後一時幹事を辭し健氣にも獨立して時計商を繼續し、職業婦人として社會の第一線に立ち奮闘されたのである。昭和四年再び幹事を依頼せられ國難克服を念じつゝ、銃後婦人として雄々しくも再起された。滿洲事變勃發以來多忙な業務には犠牲にして皇軍の歡迎に出掛け、或は護國の神と化した勇士の葬儀は缺かさず會葬し、又或時は店の都合で出勤出来ない場合は代理として家族を出向せしめて、其の責務を果すことも再々であつた。滿洲事變の際丈けでも其の出向回数は三百數十回に及び、其の熱烈な赤心に對しては各方面から稱讃されてゐた。尙慰問袋の募集についても街頭に立ち日夜涙ぐまじき活動をつゞけられ、自ら數十個を作製して第一線に贈るなど専ら軍事後援に盡くされ、本部は事變中功勞者の一人として一等有功章を贈與され、陸軍省よりは銀鈔一具を賞賜せられた。

## 特別活躍功勞者

廣島市東白島町 廣島市幹事 柳田八重子

女史が愛婦廣島市幹事として活躍を初められたるは、昭和の初年であつたが、第一に會員募集に東奔西走勸誘之れ努め爲に多數の同志を糾合し、其後滿洲事變勃發慰問袋の募集に着手するや、家庭訪問の外或は銀行に會社に、或は官公衝に至り堂々趣旨の説明を爲し賛同を得ざれば止まぬと云ふ熱意を表はし、其の結果遙かに他の幹事を凌駕するの成績を擧げ、殊に出動並に凱旋將兵の歡送迎は勿論後送傷病兵士の出迎等、櫛風沐雨一日も缺さず、爲に事變中の回数千二百餘回に及び、所謂レコード破であつた。尙傷病兵たちが轉院又は退院の折には、入院中の厚志を謝する爲め同家を訪れると我が子の様に市内見物さては官島にまで案内して慰めるといふ有様であつた。又病院の各室に無料で据付けられてゐるラヂオも全く女史の涙ぐましき運動の結果である、こんなわけで勇士から送つて來た禮狀は數百通山と積まれてゐる。女史常に曰く、家の守りを怠りてはなりません、家事を見るこそ主婦の天職ですと、されば外出の前夜は遅くまで又朝は早く一切の家事を整理して後、銃後の務に出掛けられるので、到底有閑夫人の眞似の出來ない所である。如上の功勞は各方面より認められ本會よりは最高の特別有功章、縣又は新聞社よりも感謝狀や記念品を授與され、昭和九年四月には陸軍省より銀鏡一具を賞賜せられたるは全くその功勞の偉大さを認められたのである。昭和十二年支那事變勃發以來は、送迎慰問は勿論軍資獻金の運動を起し毎日字品警察署門前に立ちて「獻金を願ひます」と叫び續けたる姿は凛々しきものであつた。而して奉公に燃ゆる人々の義金は側に立てる獻金箱に投ぜられ、毎日署内で勘定しては献納手續をされたのであるが勿論その金高千圓を突破したのであつた。斯くて事變勃發第三年には奥村會祖の昔を偲び、第一線將兵を慰めむとて女性の身を以て雄々しくも單身遠く彼の地に渡り、郷土勇士は勿論月餘に涉りて廣く之を犒ひ慰められた。蓋し其の決死的銃後奉公の赤誠を窺ふことが出来るのである。

## 支部創業並多年勤績功勞者

支部主事 門川正之

本縣知事官房主任として、重要且繁忙の職責を擔當中なりしが、明治三十四年愛國婦人會支部創設の議起るや、同年一月より之が準備事務扱を命ぜられ、熱心其の衝に當り、遂に同年六月支部發會式を擧ぐるに至り、爾後大正十二年七月迄廿四年の長年月間、能く本會の趣旨を體し、且上司の指示に依り、町村役職員の選任に、會員の募集に、救護事務の徹底に遺憾なきを期し、其の間の勞苦は一方でなかつた。就中日露戰役中の各種軍事後援に、本會の使命を全ふして遺憾なからしめ、殊に在任中二回の支部總會を開催して、會務の擴充に勉められし等、其の創立の功勞と會務發展の功績は多大なるものである。

## 支部創業並多年勤績功勞者

元支部書記 新林健造

明治三十四年五月支部創設の初めより門川主事の補佐役として會務に従事し會員募集事務を初め本會の使命たる軍人遺族並に傷痍軍人救護に關しては能く實情を調査して遺憾なきを期し、殊に支部基金造成に意を注ぎ其の他一般會計經理の任に當り日露戰役、西比利亞出兵、關東震災、滿洲事變等に際しては少數の事務員ながら克く上司の命を奉じ、日夜精勵各種の施設計畫を立て之を主事に献策萬遺漏なきを期せり。就中關東地方震災の際に於ける義捐金品の募集整理發送並に廣島驛通過の罹災者に對する接待慰藉物品配贈を爲し、滿洲事變に當りては各般の施設調度並其の會計事務を一身に引受け其の件數平常に倍加せる狀況なりしも能く之を處理し、殊に出動軍人に對する慰問袋募集調製荷造り發送等に關する事務は勿論、似島檢疫所に於て或は廣島衛戍病院に於て歸還の將兵に白衣の勇士に贈呈すべき記念品又は見舞品及び戦歿者に對する供物の調達配贈等敏速に之を處辨して遺憾なからしめたる等、創立の始めより昭和九年二月に至る三十四年間、